

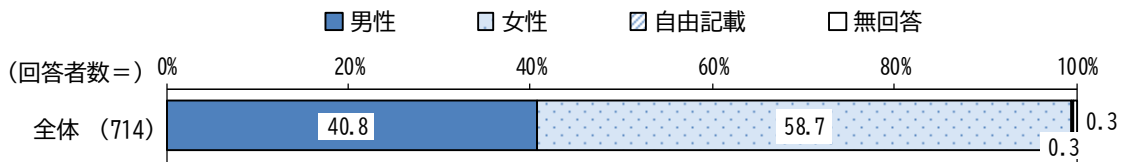
Ⅱ 調査結果の分析

1 あなたのことについて

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください（○は1つ）

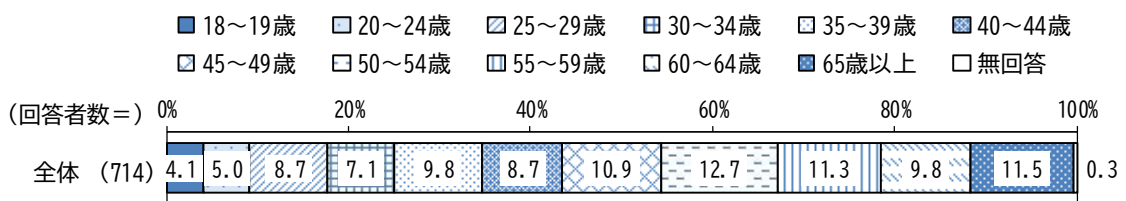
性別は、「男性」40.8%、「女性」58.7%となっています。なお、「自由記載」は2人で0.3%となっています。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢（令和7年9月1日現在）をお答えください（○は1つ）

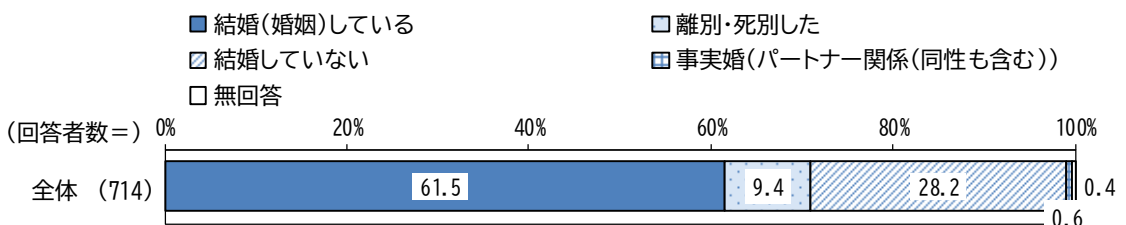
年齢構成は、「50～54歳」の割合が12.7%と最も高く、次いで「65歳以上」11.5%、「55～59歳」11.3%、「45～49歳」10.9%などとなっています。



(3) 婚姻状況

問3 あなたは結婚されていますか（○は1つ）

婚姻状況は、「結婚（婚姻）している」61.5%、「結婚していない」28.2%、「離別・死別した」9.4%、「事実婚（パートナー関係（同性も含む）」0.6%となっています。

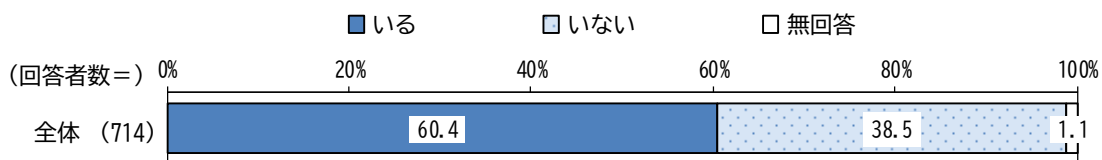


(4) 子どもの有無

問4 あなたには子どもがいますか (○と人数を記入)

①子どもの有無

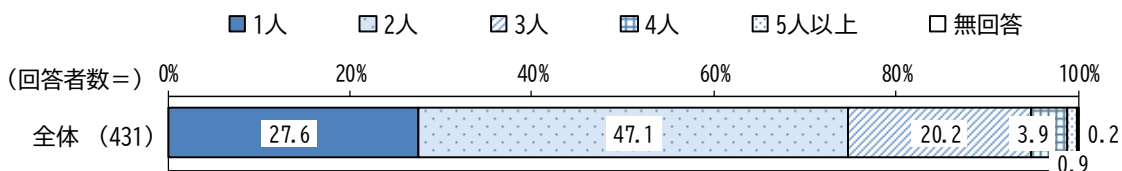
子どもは「いる」60.4%、「いない」38.5%となっています。



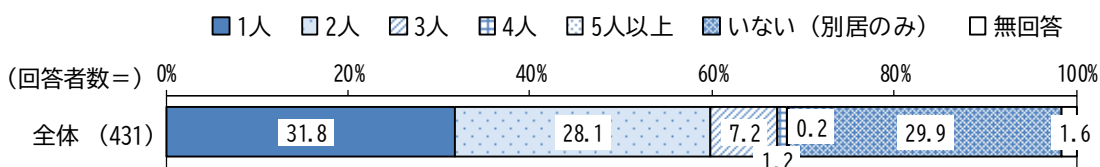
②子どもの人数

子どもの人数は、「2人」の割合が47.1%と最も高く、次いで「1人」27.6%、「3人」20.2%などとなっています。

同居している子どもの人数は、「1人」の割合が31.8%と最も高く、次いで「いない (別居のみ)」29.9%、「2人」28.1%、「3人」7.2%などとなっています。

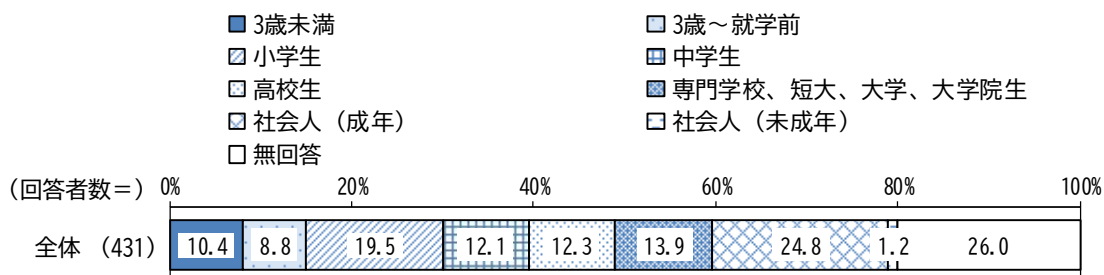


〈同居している子どもの人数〉



③子どもの年代

同居している子どもの年代は、「社会人 (成年)」の割合が24.8%と最も高く、次いで「小学生」19.7%、「専門学校、短大、大学、大学院生」13.9%、「高校生」12.3%、「中学生」12.0%などとなっています。

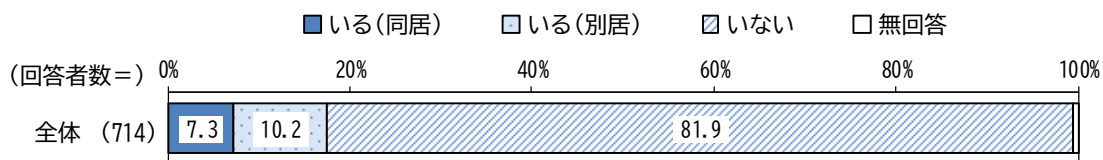


(5) 要介護者・看護者の有無

問5 現在、あなたの家族に介護や看護を必要とする方はいますか（○は1つ）

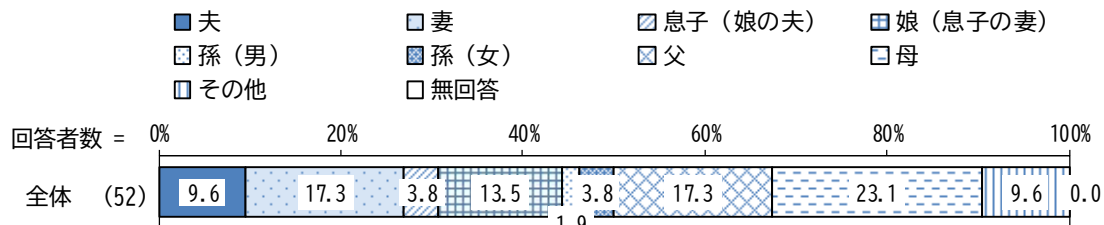
①有無

介護や看護を必要とする方は、「いる（同居）」7.3%、「いる（別居）」10.2%、合わせた『いる』は17.5%、対して「いない」は81.9%となっています。



②主な介護（看護）者

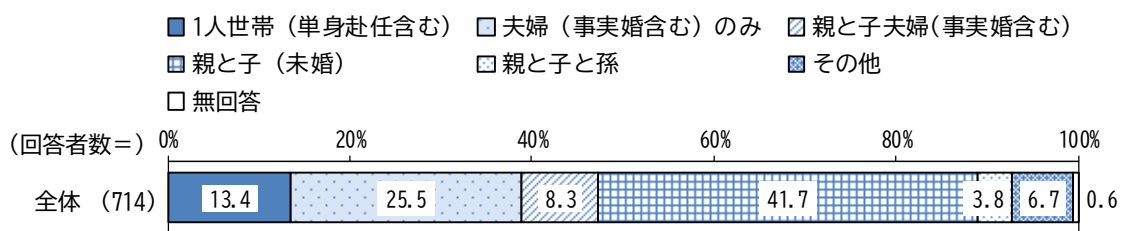
主な介護（看護）者は、「母」の割合が23.1%と最も高く、次いで「妻」及び「父」とともに17.3%、「娘（息子の妻）」13.5%、「夫」9.6%などとなっています。



(6) 世帯構成

問6 現在の世帯構成は、次のどれに当てはまりますか（○は1つ）

世帯構成は、「親と子（未婚）」の割合が41.8%と最も多く、次いで「夫婦（事実婚含む）のみ」25.4%、「1人世帯（単身赴任含む）」13.5%、「親と子夫婦（事実婚含む）」8.2%、「親と子と孫」3.8%となっています。



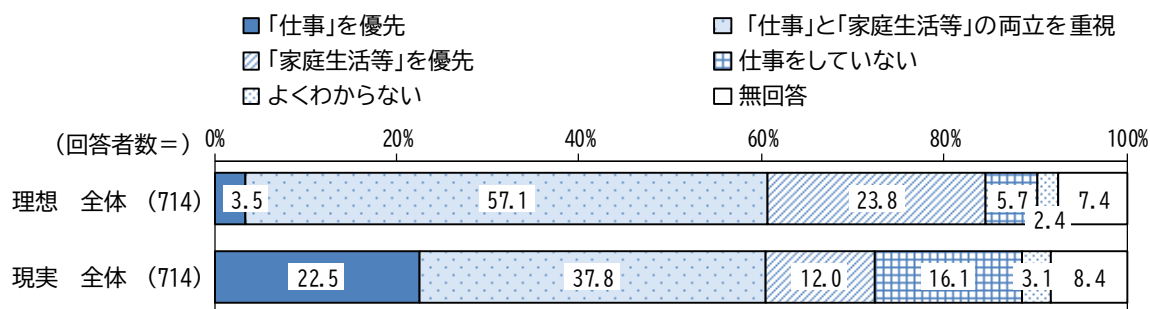
2 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

(1) 仕事と家庭生活等の優先度

問7 あなたと配偶者・パートナーの「仕事」と「家庭生活等」の優先度について、それぞれ最も近いものを選んでください（○はそれぞれ1つ）

①あなた

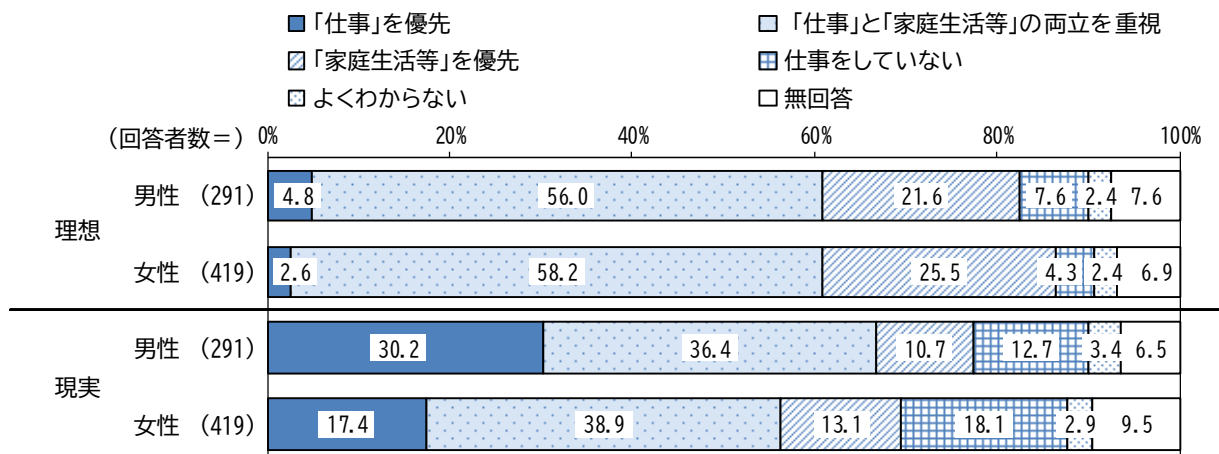
理想は「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視の割合が57.3%と最も高く、次いで「家庭生活等」を優先23.7%ですが、現実には、「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視37.8%、「仕事」を優先22.5%、「家庭生活等」を優先12.0%の順となっています。



【性別】

性別で見ると、理想は男女ともに「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視の割合が最も高く、男性56.0%、女性58.2%、次いで「家庭生活等」を優先男性21.6%、女性25.5%となっています。

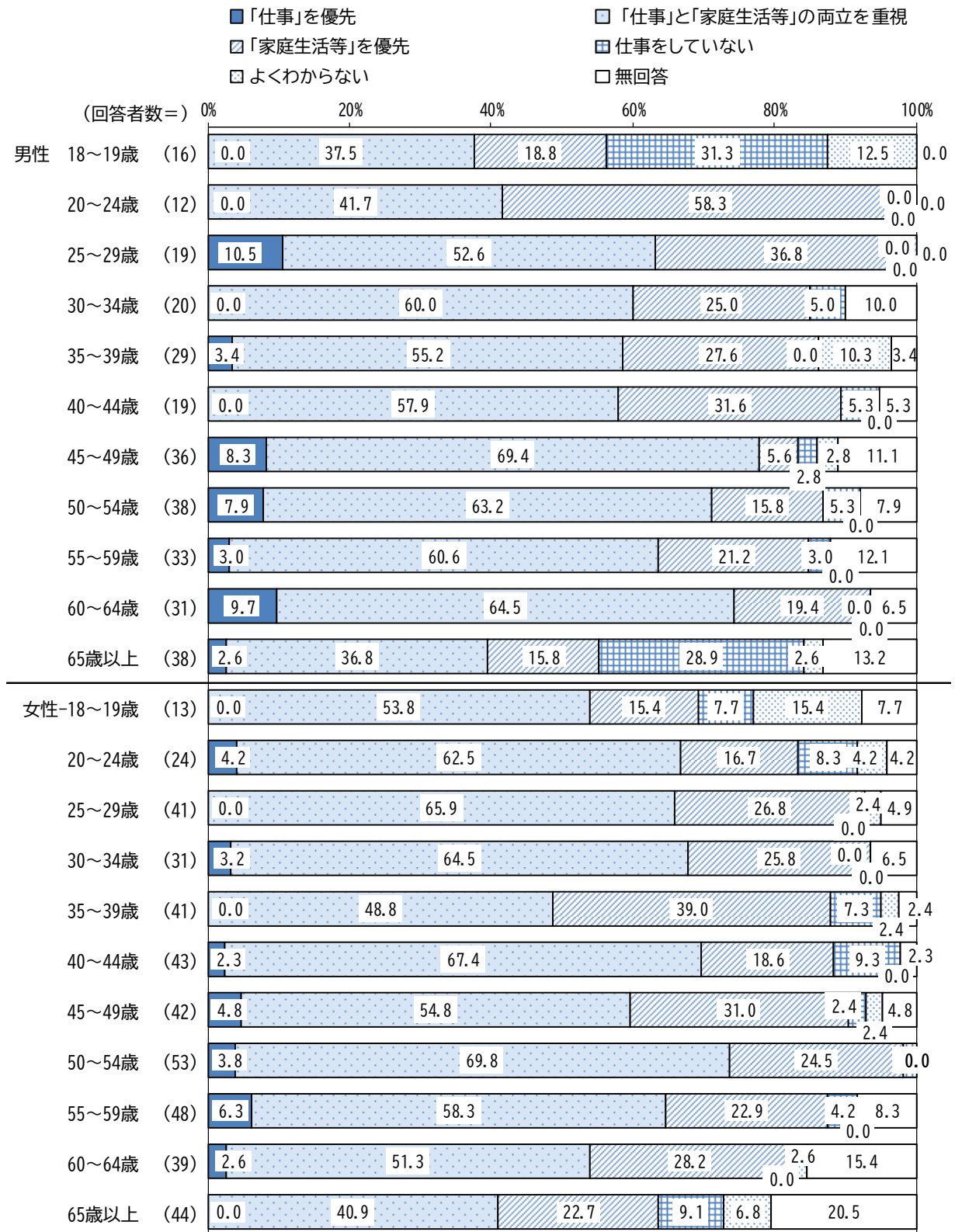
現実には、「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視は男性36.4%、女性38.9%にとどまり、「仕事」を優先は男性30.2%、女性17.4%となっています。



【性・年齢別】

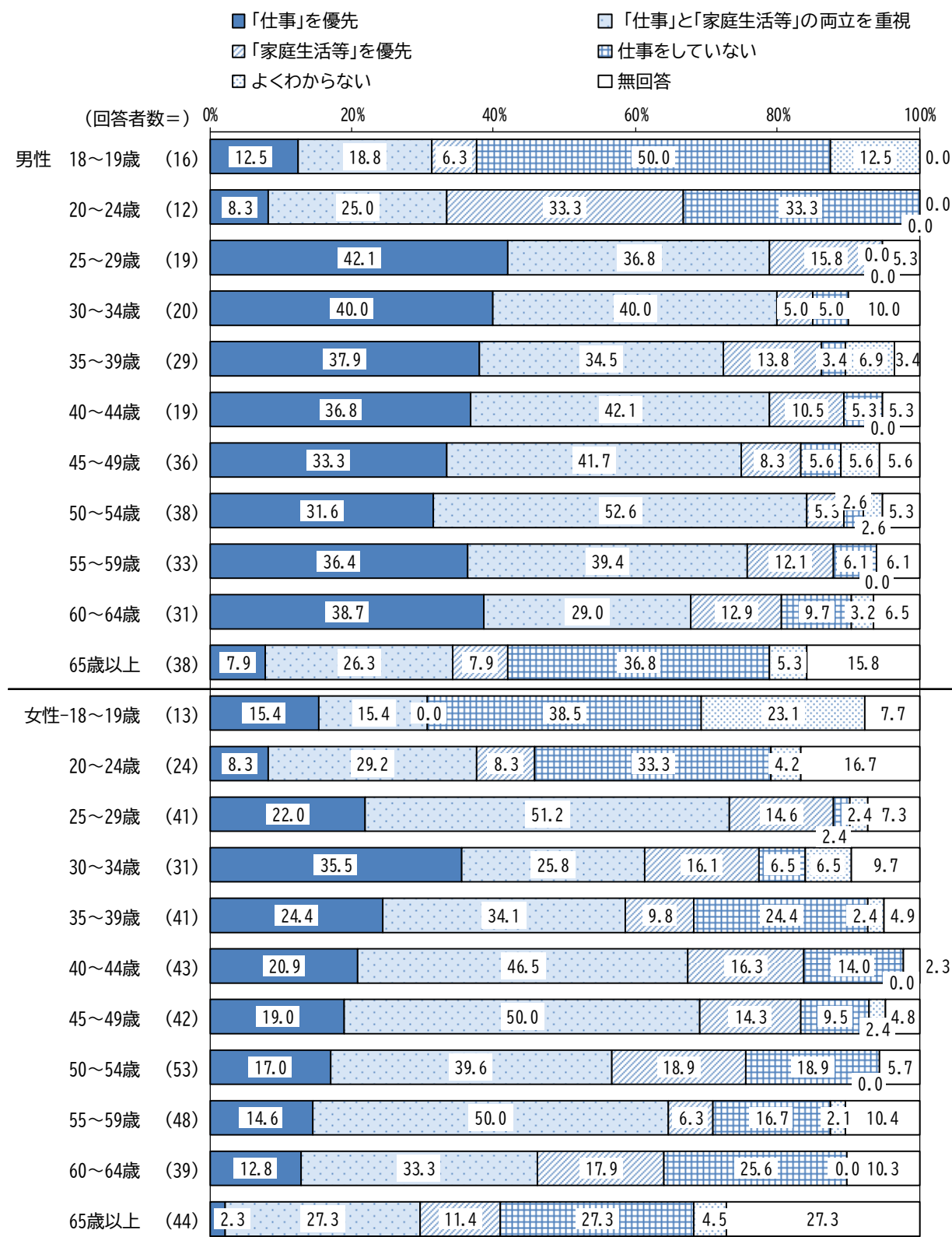
理想

性・年齢別で見ると、いずれも「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視の割合が最も高くなっていますが、男性20～24歳では「家庭生活等」を優先が最も高くなっています。「家庭生活等」を優先は、男性の若い世代と女性で高くなっています。



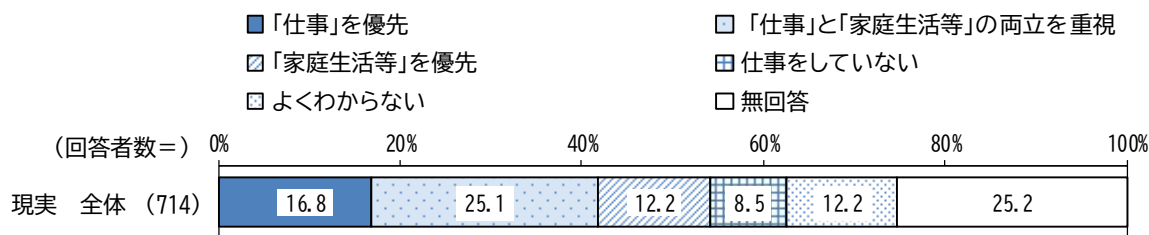
現実

現実には、男性の25～29歳、35歳～39歳、60～64歳、女性の30～34歳で「仕事」を優先の割合が最も高く、男性は25～29歳から60～64歳で「仕事」を優先が3割を超えています。



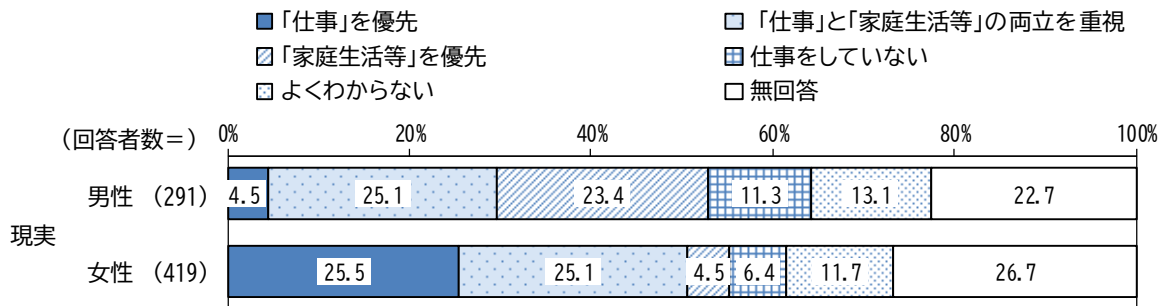
②配偶者・パートナー

配偶者・パートナーの現実、「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視」25.1%、「仕事」を優先」16.8%、「家庭生活等」を優先」12.2%の順となっています。



【性別】

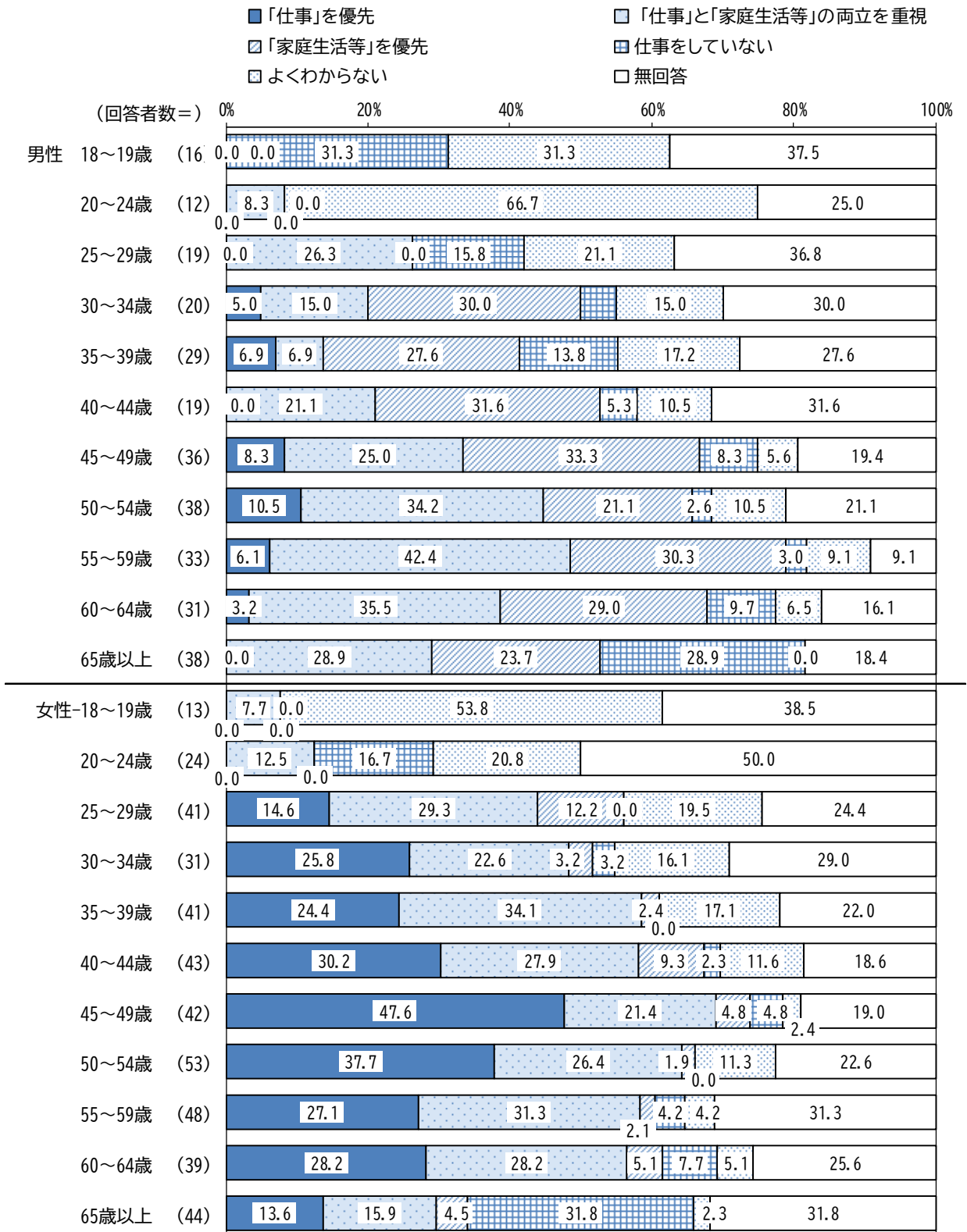
男性は、配偶者が「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視」25.1%、「家庭生活等」を優先」23.4%の順ですが、女性は配偶者が「仕事」を優先」25.5%、「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視」25.1%の順となっています。



【性・年齢別】

男性は、30～34歳から44～49歳では配偶者が「家庭生活等」を優先の割合が、25～29歳及び50～59歳以上では「仕事」と「家庭生活等」の両立を重視の割合が高くなっています。

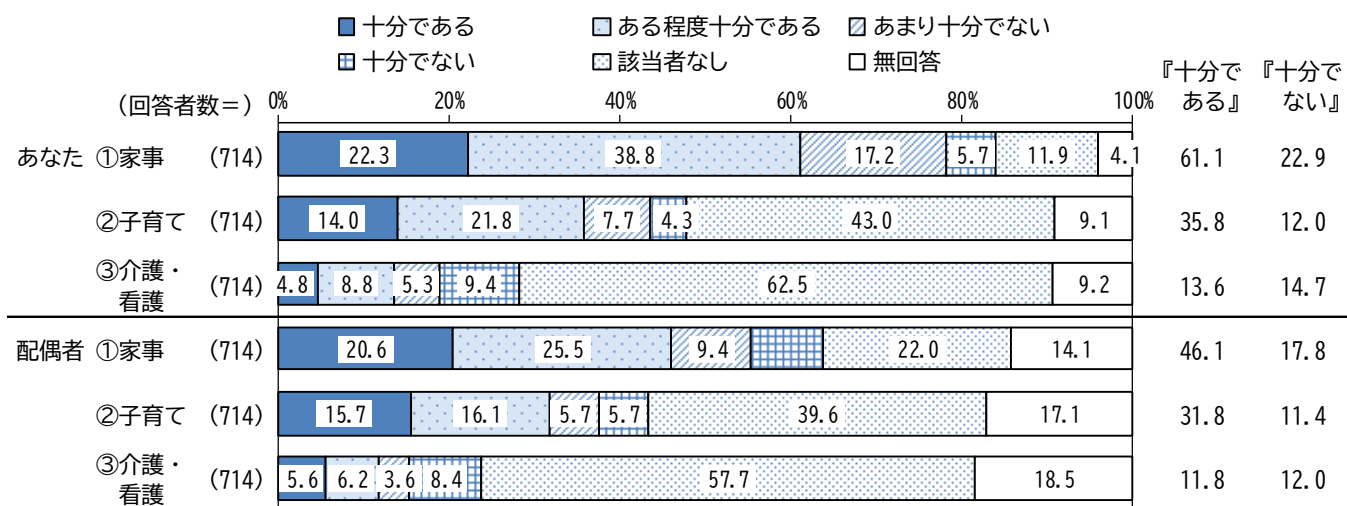
女性は、配偶者が「仕事」を優先の割合が高く、中でも45～49歳47.6%、50～54歳37.7%で高くなっています。



(2) 家事・子育て・介護・看護への関わり

問8 あなたと配偶者・パートナーの家事・子育て・介護・看護への関わりについて十分だと思いますか（①～⑥について、それぞれ該当する番号に○は1つだけ）

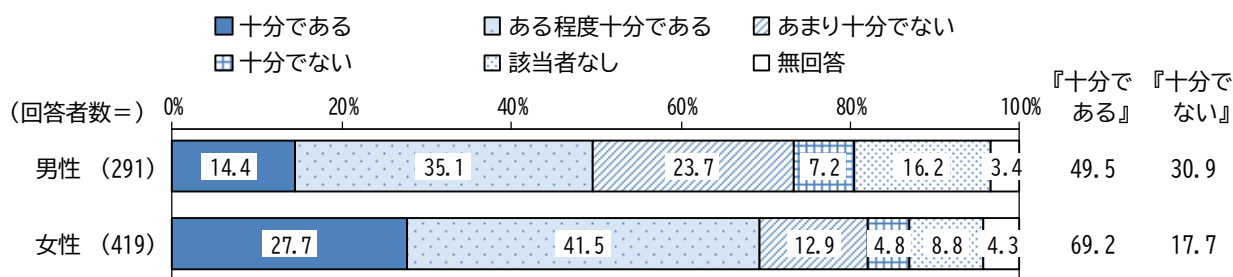
「十分である」「ある程度十分である」を合わせた『十分である』と、「あまり十分でない」「十分でない」を合わせた『十分でない』をみると、家事は自分自身61.1%ですが配偶者に対しては46.1%にとどまります。また、家事及び子育てでは自分、配偶者ともに『十分である』が『十分でない』を上回っていますが、介護・看護では自分、配偶者ともに『十分でない』が『十分である』をやや上回ります。



【性別】

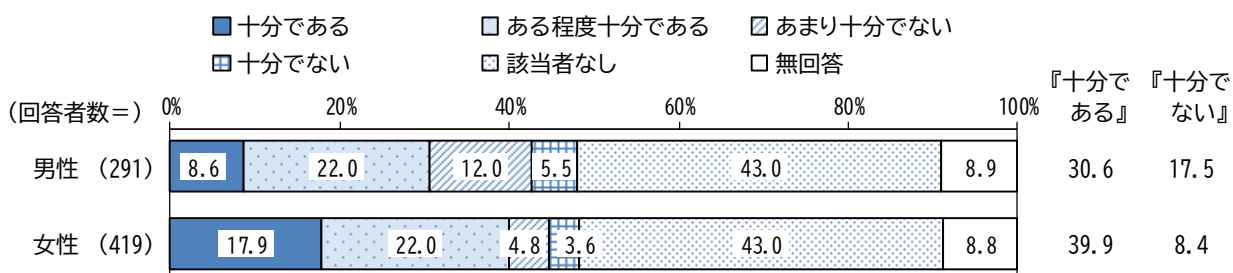
①あなた〈家事〉

『十分である』は、女性69.2%が男性49.5%を大きく上回ります。



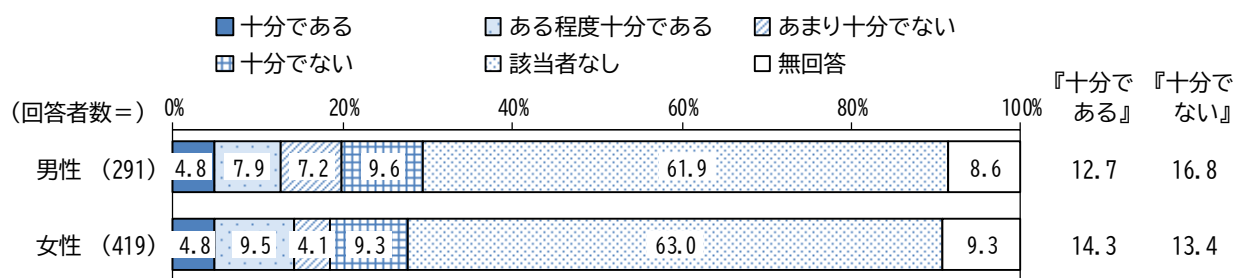
②あなた〈子育て〉

『十分である』は、女性39.9%が男性30.6%を上回ります。



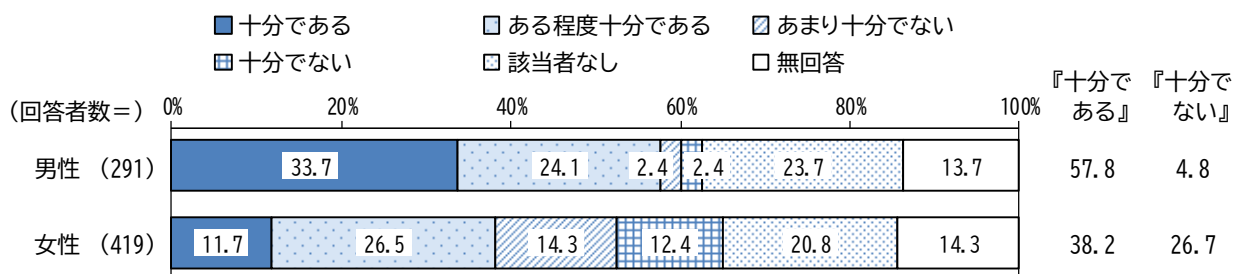
③あなた〈介護・看護〉

男性は『十分でない』が『十分である』をやや上回ります。



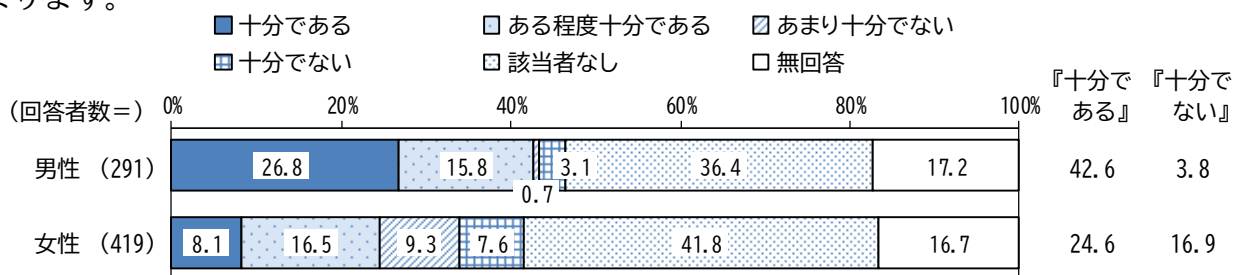
④配偶者・パートナー〈家事〉

男性は配偶者等の家事について『十分である』が『十分でない』を大きく上回りますが、女性は『十分である』が『十分である』を約10ポイント上回るとどまり、『十分でない』26.7%と高くなっています。



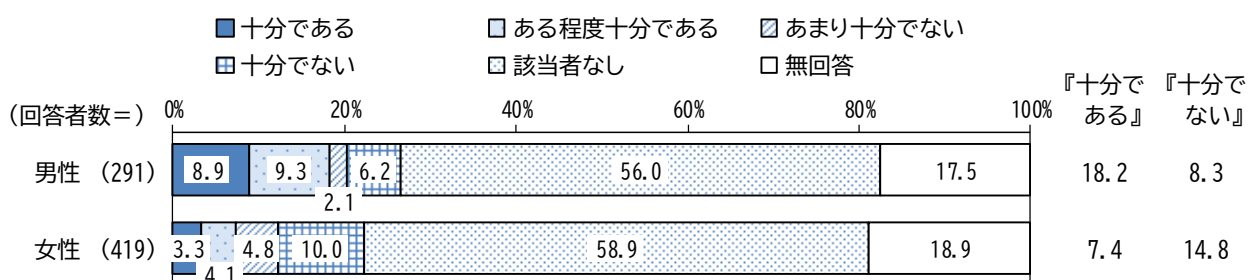
⑤配偶者・パートナー〈子育て〉

男性は、配偶者等の子育てについて『十分である』42.6%ですが、女性は24.6%にとどまります。



⑥配偶者・パートナー〈介護・看護〉

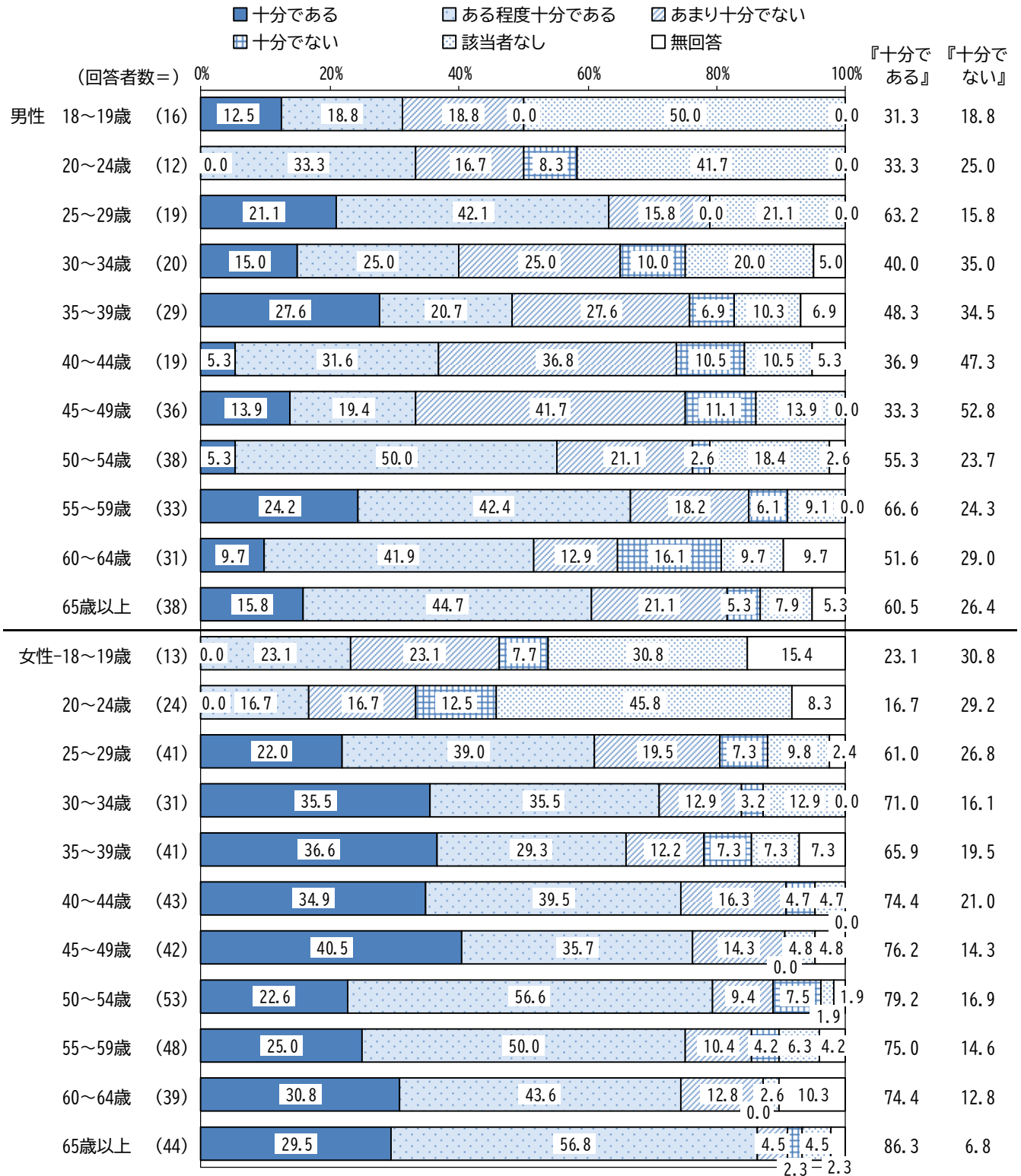
女性では配偶者等の介護・看護について、『十分でない』が『十分である』を上回ります。



【性・年齢別】

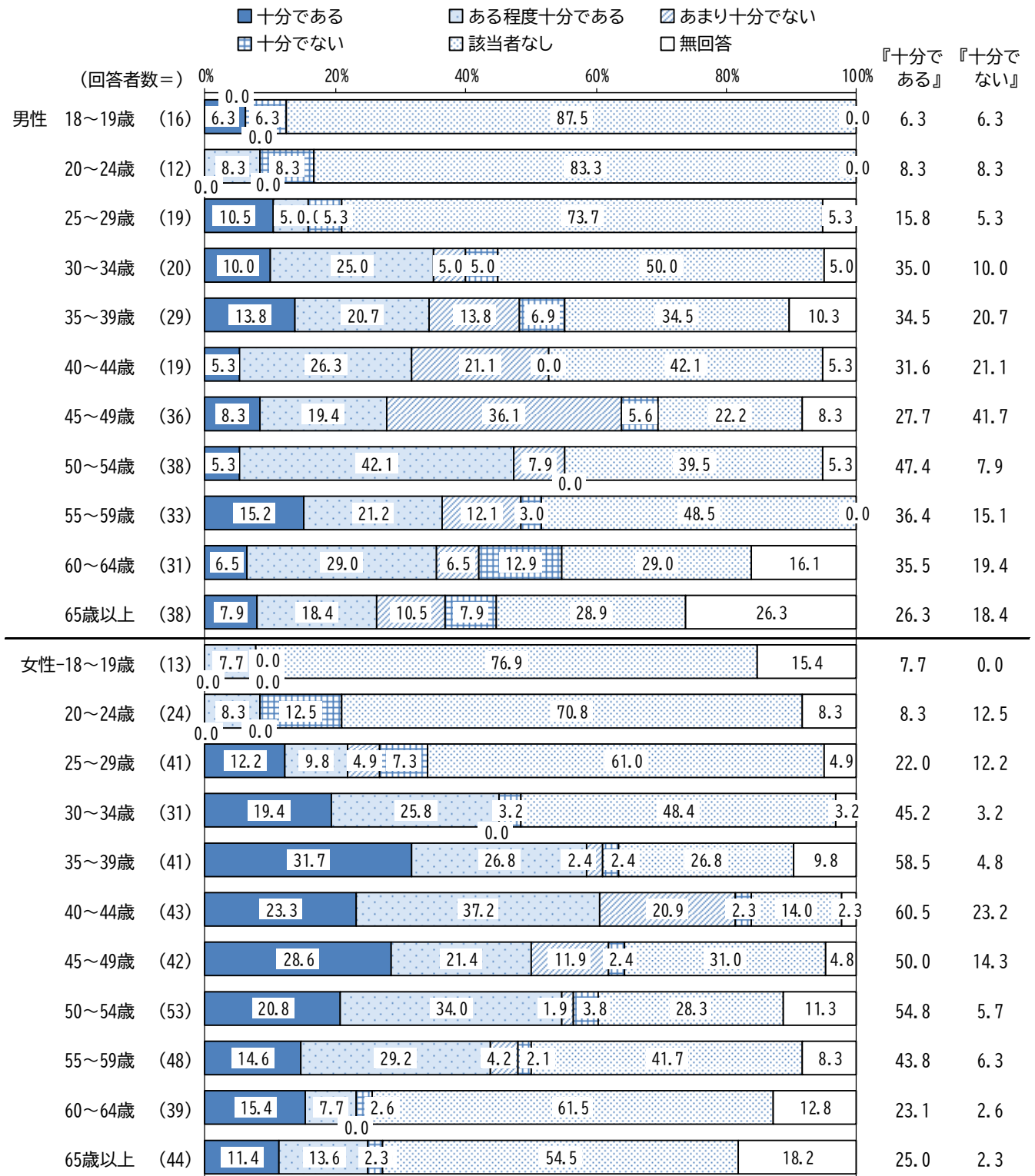
①あなた〈家事〉

『十分である』は、男性25～29歳、55～59歳、65歳以上と女性25～29歳以上で6割を超えます。対して『十分でない』は男性30～34歳から45～49歳で3割を超え、なかでも45～49歳では52.8%と高くなっています。



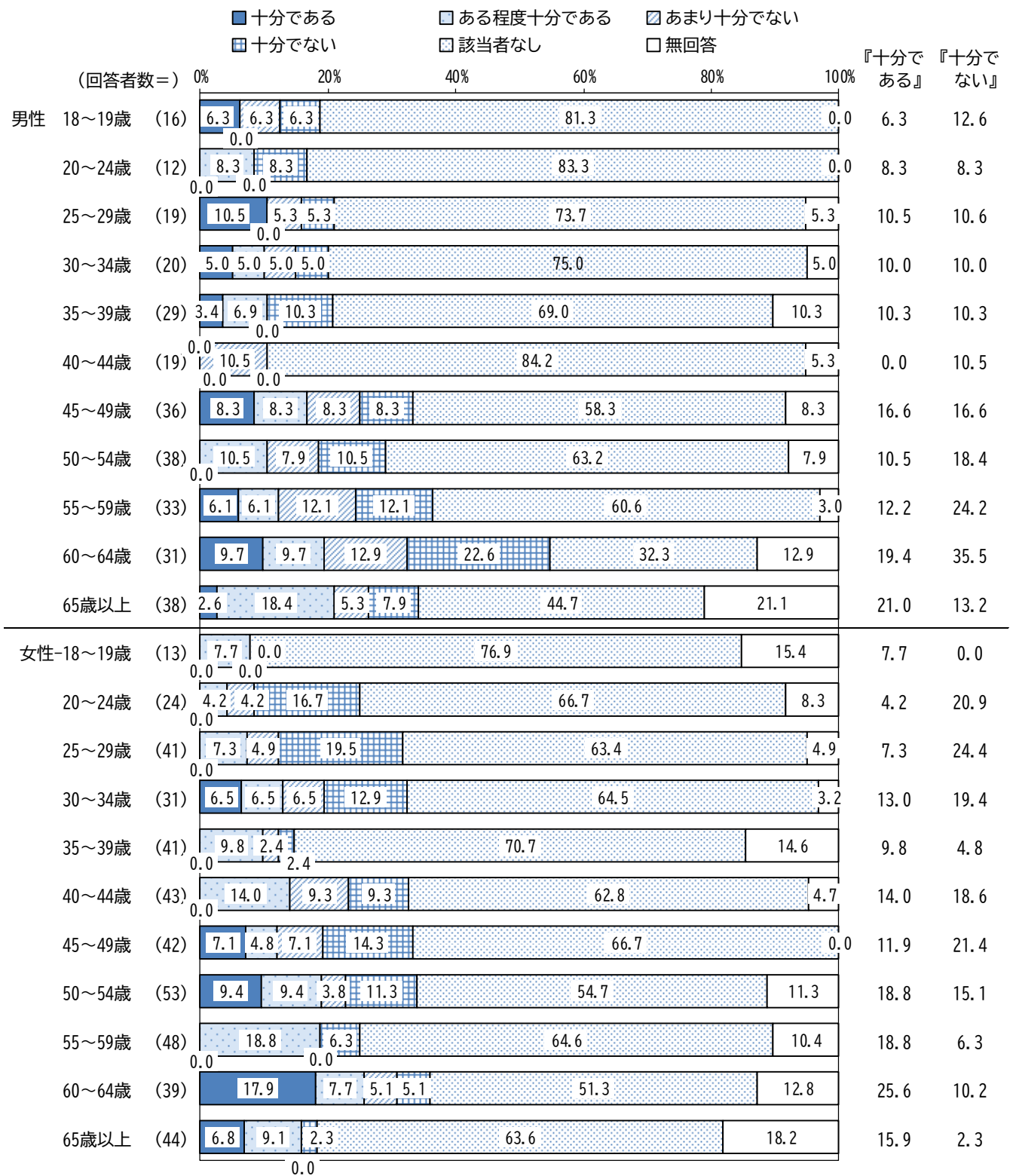
②あなた〈子育て〉

『十分である』は女性35～39歳から50～54歳で5割を超えますが、男性は50～54歳47.4%が最も多く、45～49歳では『十分でない』が『十分である』を上回っています。



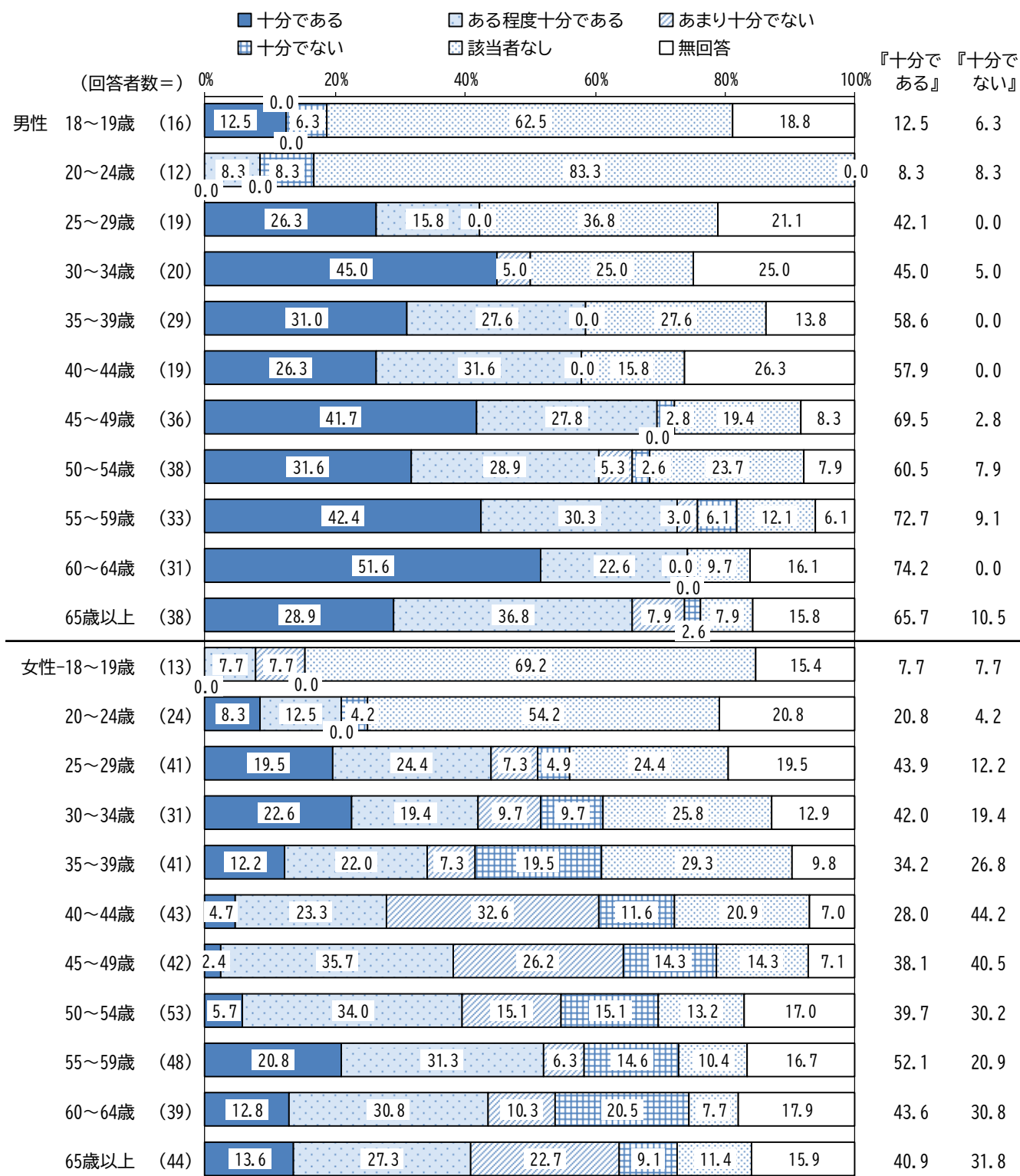
③あなた〈介護・看護〉

男性は65歳以上を除いて、『十分でない』が『十分である』と同等か上回っています。女性では、『十分でない』が『十分である』を上回るのは20～34歳、40～49歳となっています。



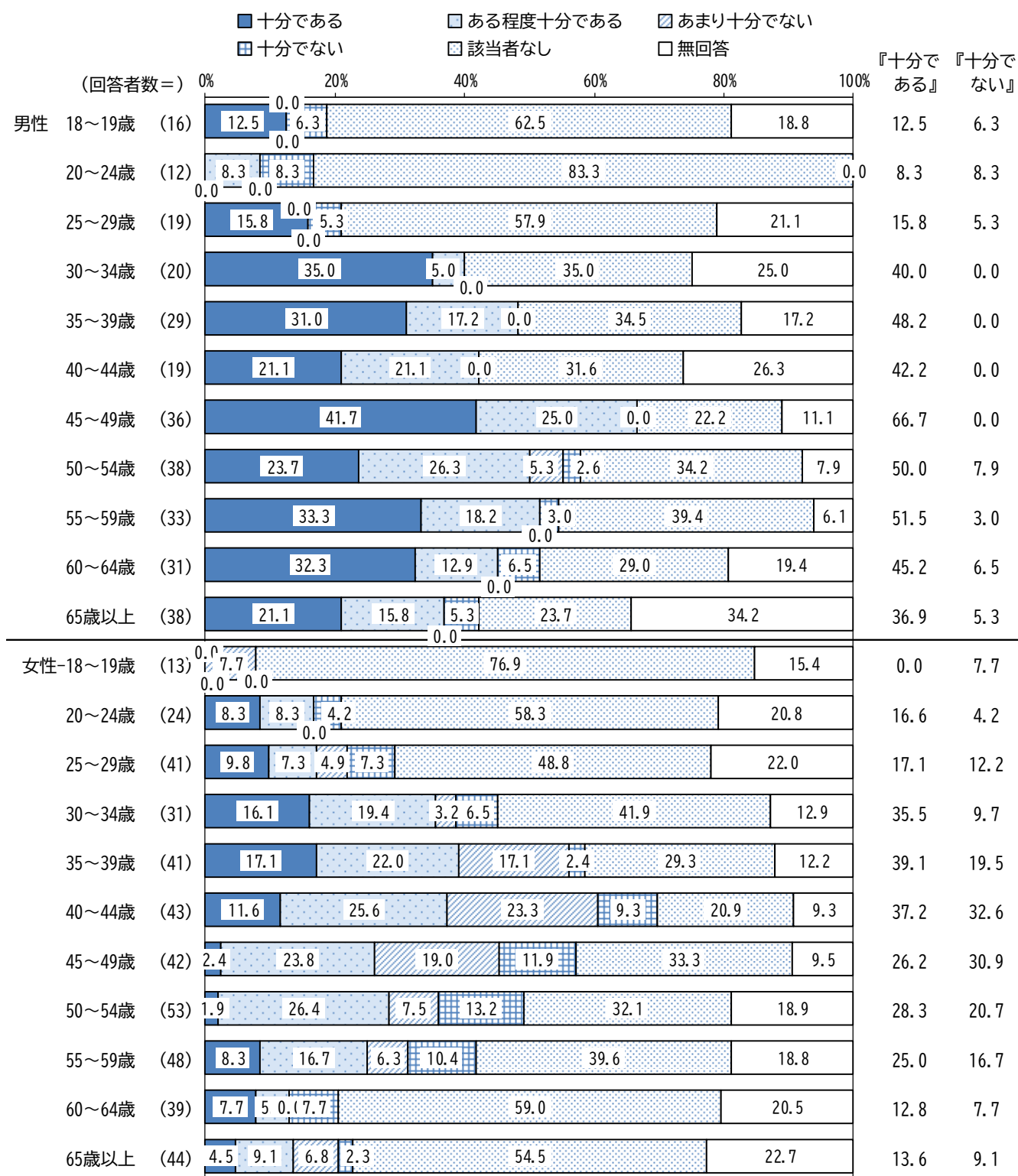
④配偶者・パートナー〈家事〉

男性は、『十分である』が35歳以上で5割以上、25～29歳、30～34歳で4割台となっています。女性では、55～59歳52.1%が最も高く、25～34歳、60歳以上で4割台となっていますが、40～49歳では『十分でない』が『十分である』を上回っています。



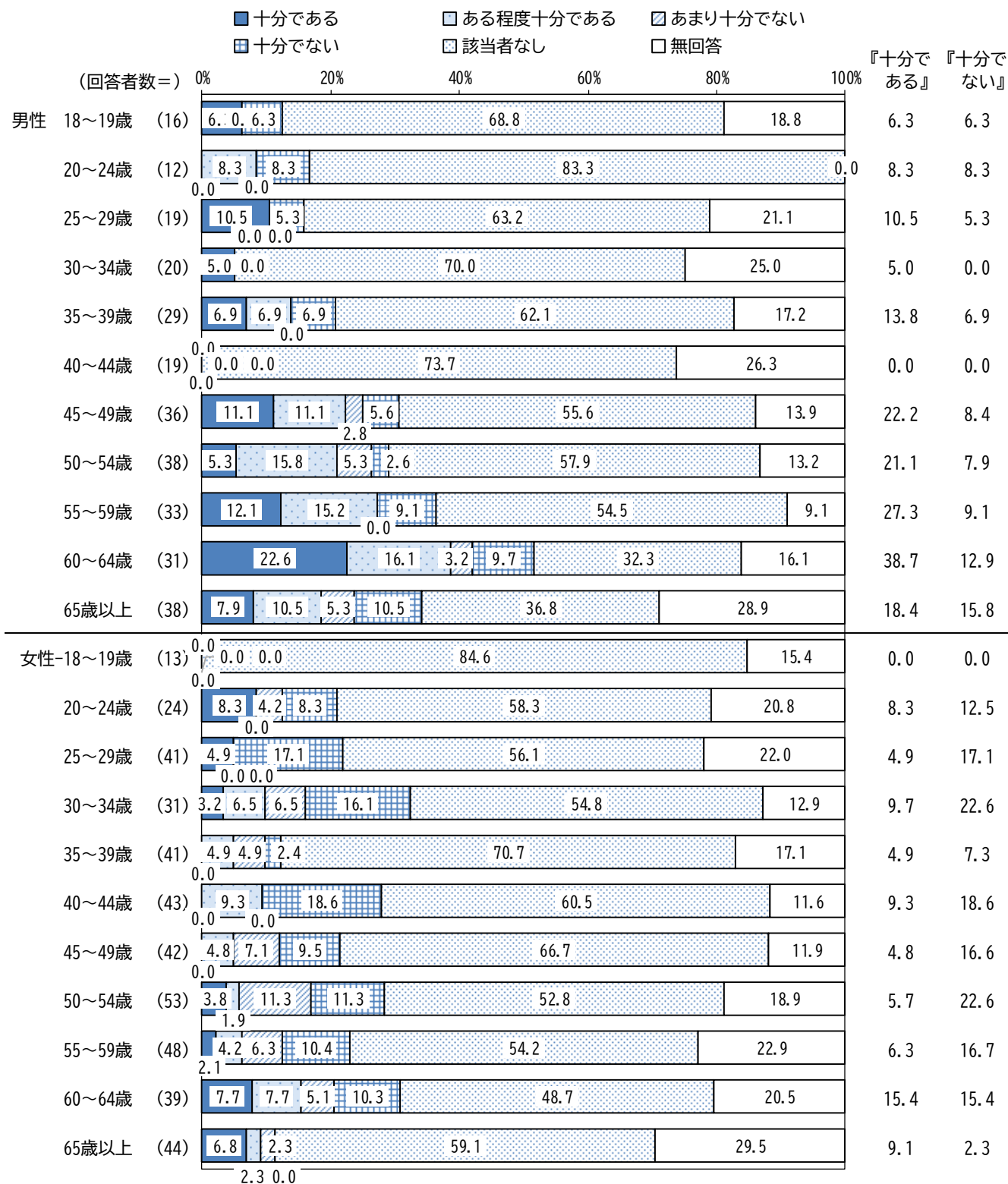
⑤配偶者・パートナー〈子育て〉

『十分である』は、男性では30～34歳から60～64歳で4割以上となっていますが、女性では35～39歳39.1%が最も多く、45～49歳では『十分でない』が『十分である』をやや上回っています。



⑥配偶者・パートナー〈介護・看護〉

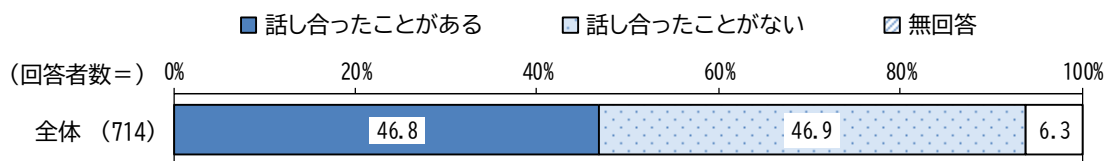
男性はすべての年齢で、『十分である』が『十分でない』と同等か上回っています。女性では、20～24歳から55～59歳で『十分でない』が『十分である』を上回っています。



(3) 家事・子育て・介護・看護への関わりや役割分担について

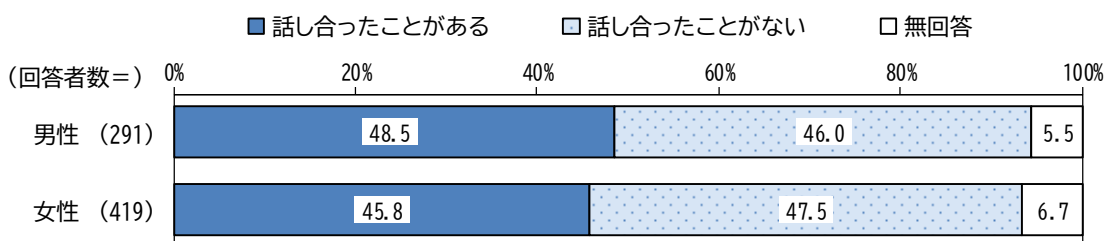
問9 あなたは、家事・子育て・介護・看護への関わりや役割分担について配偶者・パートナーと話し合ったことはありますか（○は1つ）

「話し合ったことがある」46.8%、「話し合ったことがない」46.9%と、ほぼ同じとなっています。



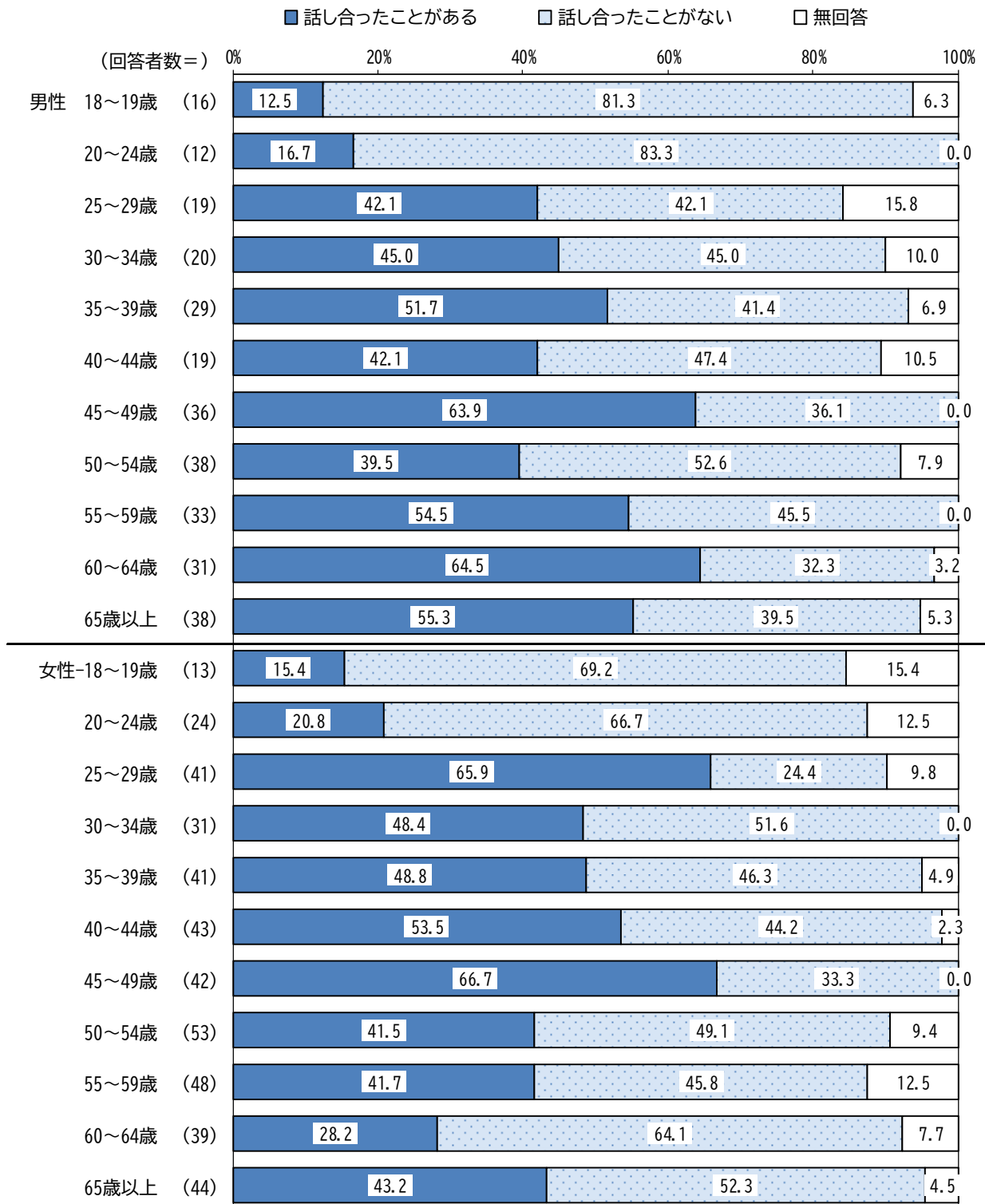
【性別】

「話し合ったことがある」は、男性48.5%が女性45.8%をやや上回っています。



【性・年齢別】

「話し合ったことがない」が「話し合ったことがある」を上回るのは、男性18～24歳、40～44歳、50～54歳、女性18～24歳、30～34歳、50歳以上となっています。



(4) 休業制度の取得

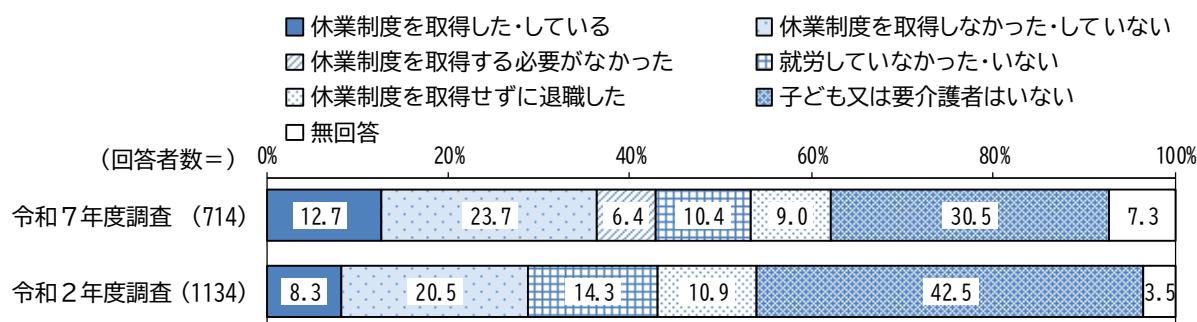
問10 あなたは、これまで次の休業制度を取得したことはありますか(それぞれ○は1つだけ)

①育児休業〈取得の有無〉

「休業制度を取得しなかった・していない」23.7%、「休業制度を取得した・している」12.7%、「就労していなかった・いない」10.4%、「休業制度を取得せずに退職した」9.0%、「休業制度を取得する必要がなかった」6.4%となっています。

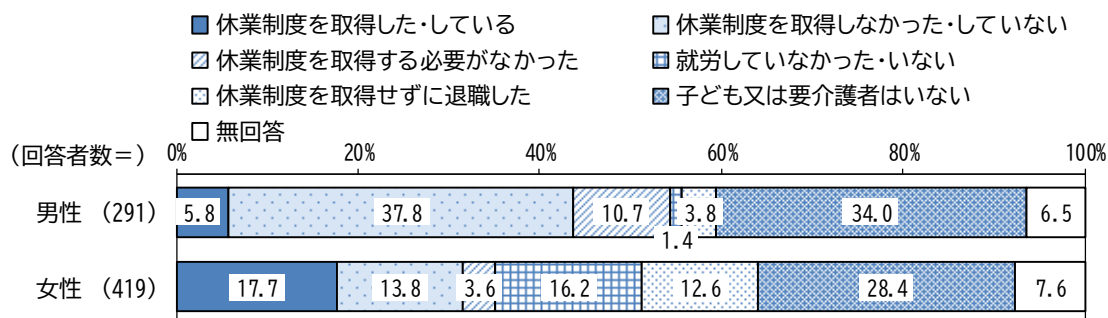
【経年比較】

「子ども又は要介護者はいない」割合は、令和2年度調査と比較して低くなっています。また、「休業制度を取得した・している」、「休業制度を取得しなかった・していない」は、ともに令和2年度調査を上回り、「休業制度を取得せずに退職した」はやや下回ります。



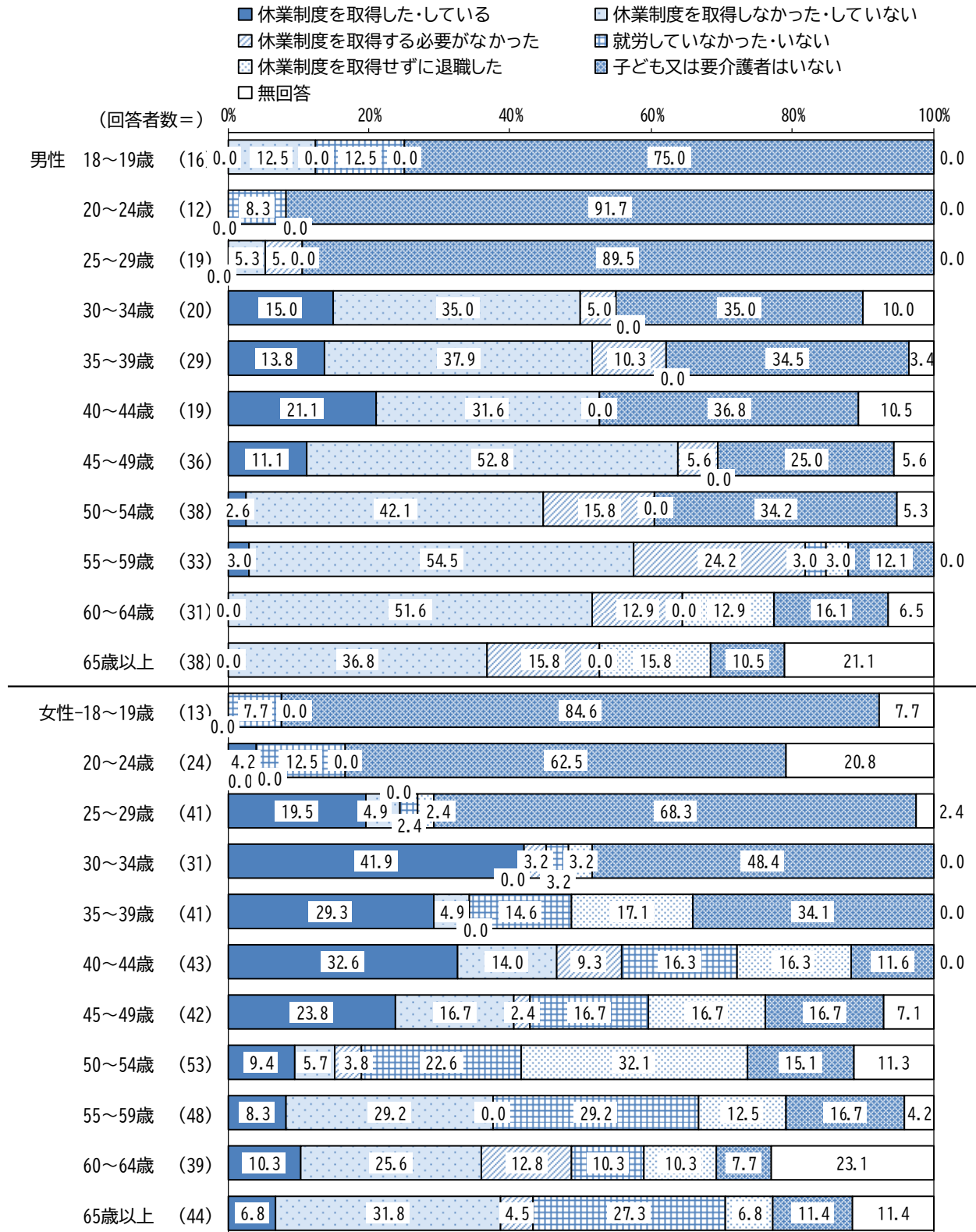
【性別】

「休業制度を取得した・している」「就労していなかった・いない」「休業制度を取得せずに退職した」は女性が男性を上回り、「休業制度を取得しなかった・していない」「休業制度を取得する必要がなかった」は男性が女性を上回っています。



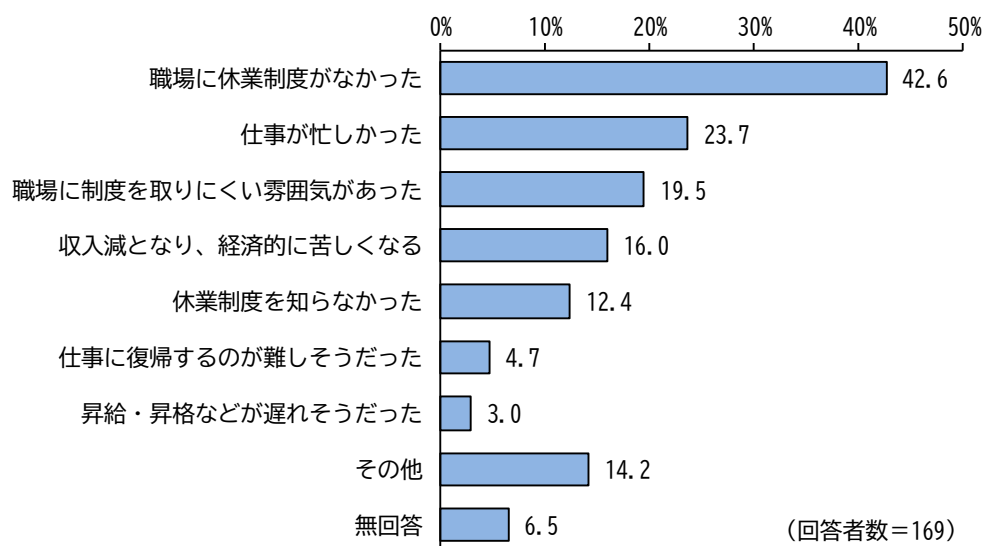
【性・年齢別】

「休業制度を取得した・している」割合は女性30～34歳41.9%が最も高く、次いで女性40～44歳32.6%、女性35～39歳29.3%、女性45～49歳23.8%、男性40～44歳21.1%の順となっています。「休業制度を取得せずに退職した」は、女性50～54歳で32.1%と高くなっています。



②育児休業〈取得しなかった理由〉

「職場に休業制度がなかった」42.6%が最も高く、「仕事が忙しかった」23.7%、「職場に制度を取りにくい雰囲気があった」19.5%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」16.0%、「休業制度を知らなかった」12.4%などとなっています。



【性別】

男女とも「職場に休業制度がなかった」割合が最も高く、次いで男性は「仕事が忙しかった」、女性は「職場に制度を取りにくい雰囲気があった」となっています。

【性・年齢別】

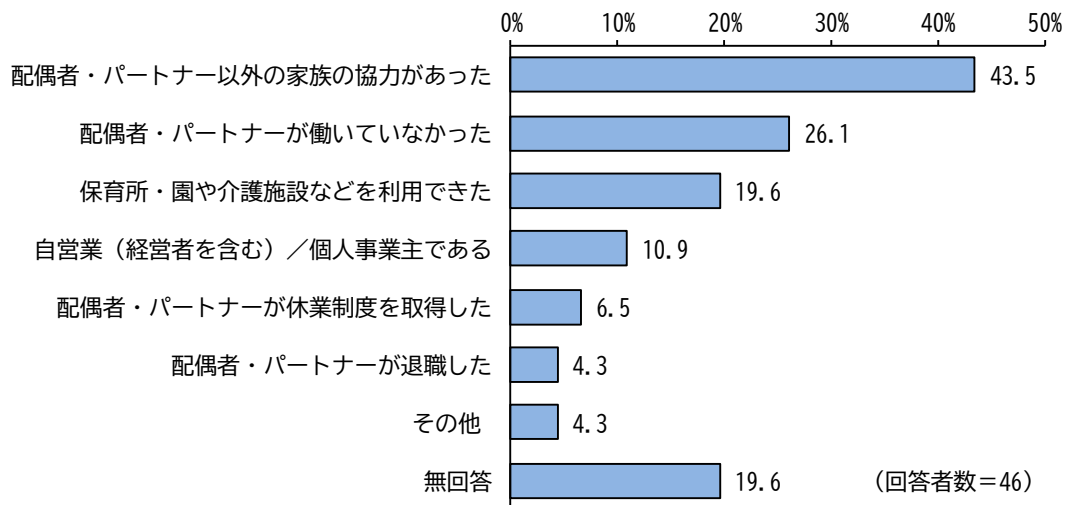
「職場に休業制度がなかった」割合は、男女とも高い年代で高くなっています。

単位：%

性別	年齢	(回答者数)	職場に休業制度が	仕事が忙しかった	職場に制度を取りにくい雰囲気があった	収入減となり、経済的に苦しくなる	休業制度を知らなかった	仕事に復帰するのが難しそうだった	昇給・昇格などが遅れそうだった	その他	無回答	
			なかった	かった	あった	なる	らな	の	が			
性別	男性	110	40.9	31.8	23.6	19.1	13.6	4.5	3.6	10.0	6.4	
	女性	58	46.6	8.6	12.1	8.6	10.3	5.2	1.7	22.4	6.9	
性・年齢別	男性	18~19歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		20~24歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		25~29歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		30~34歳	7	14.3	28.6	14.3	71.4	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0
		35~39歳	11	27.3	63.6	45.5	36.4	9.1	27.3	27.3	0.0	0.0
		40~44歳	6	33.3	50.0	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
		45~49歳	19	31.6	26.3	21.1	26.3	31.6	5.3	0.0	10.5	0.0
		50~54歳	16	56.3	31.3	12.5	6.3	18.8	6.3	0.0	12.5	6.3
		55~59歳	18	33.3	27.8	16.7	22.2	11.1	0.0	0.0	22.2	5.6
		60~64歳	16	50.0	31.3	31.3	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3
		65歳以上	14	71.4	21.4	21.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性	18~19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20~24歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		25~29歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
		30~34歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		35~39歳	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		40~44歳	6	33.3	33.3	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
		45~49歳	7	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0
		50~54歳	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
55~59歳		14	42.9	0.0	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	35.7	0.0	
60~64歳	10	50.0	0.0	0.0	10.0	20.0	10.0	0.0	10.0	20.0		
65歳以上	14	57.1	7.1	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	28.6	7.1		

③育児休業〈取得する必要がなかった理由〉

「配偶者・パートナー以外の家族の協力があった」43.5%が最も高く、次いで「配偶者・パートナーが働いていなかった」26.1%、「保育所・園や介護施設などを利用できた」19.6%、「自営業（経営者を含む）／個人事業主である」10.9%などとなっています。



【性別】

男女とも「配偶者・パートナー以外の家族の協力があった」が最も高く、次いで男性は「配偶者・パートナーが働いていなかった」、女性は「保育所・園や介護施設などを利用できた」となっています。

単位：%

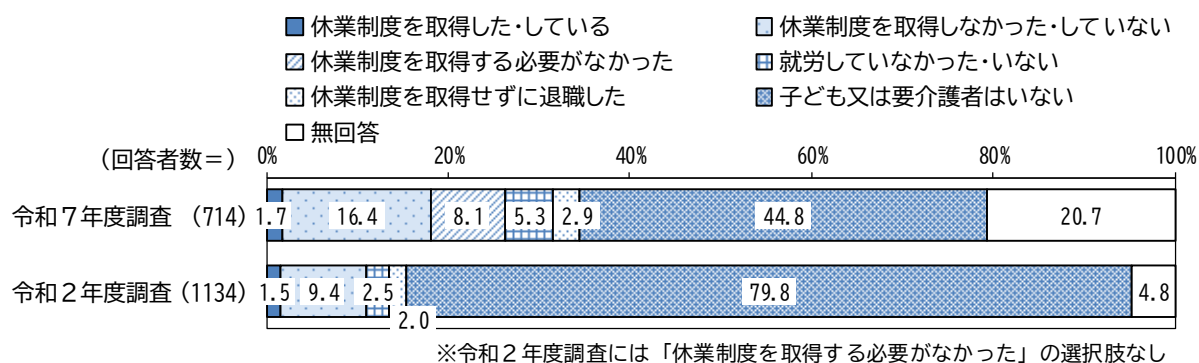
性別		(回答者数)	配偶者・パートナー以外の家族の協力があった	配偶者・パートナーが働いていなかった	保育所・園や介護施設などを利用できた	自営業（経営者を含む）／個人事業主である	配偶者・パートナーが休業制度を取得した	配偶者・パートナーが退職した	その他	無回答
			男性	31	41.9	38.7	16.1	6.5	6.5	6.5
女性	15	46.7	0.0	26.7	20.0	6.7	0.0	6.7	26.7	

④介護休業〈取得の有無〉

「休業制度を取得しなかった・していない」16.4%、「休業制度を取得する必要がなかった」8.1%、「就労していなかった・いない」5.3%、「休業制度を取得せずに退職した」2.9%、「休業制度を取得した・している」1.7%となっています。

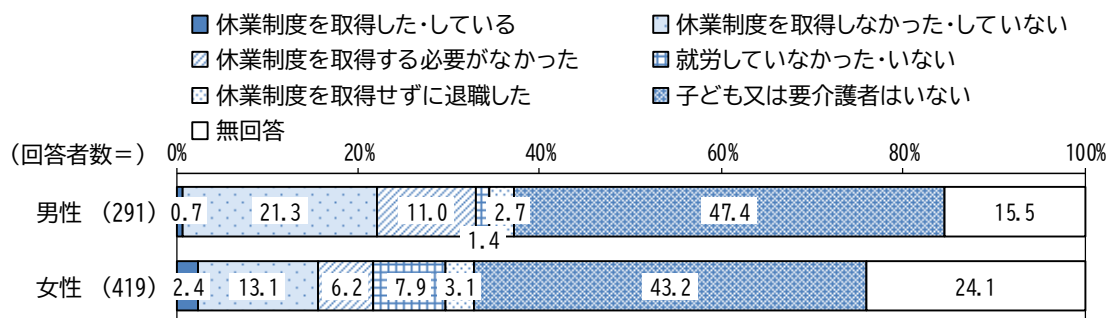
【経年比較】

「子ども又は要介護者はいない」割合は、令和2年度調査と比較して低くなっています。また、「休業制度を取得した・している」は令和2年度調査とほぼ同じですが、「休業制度を取得しなかった・していない」は令和2年度調査を上回ります。



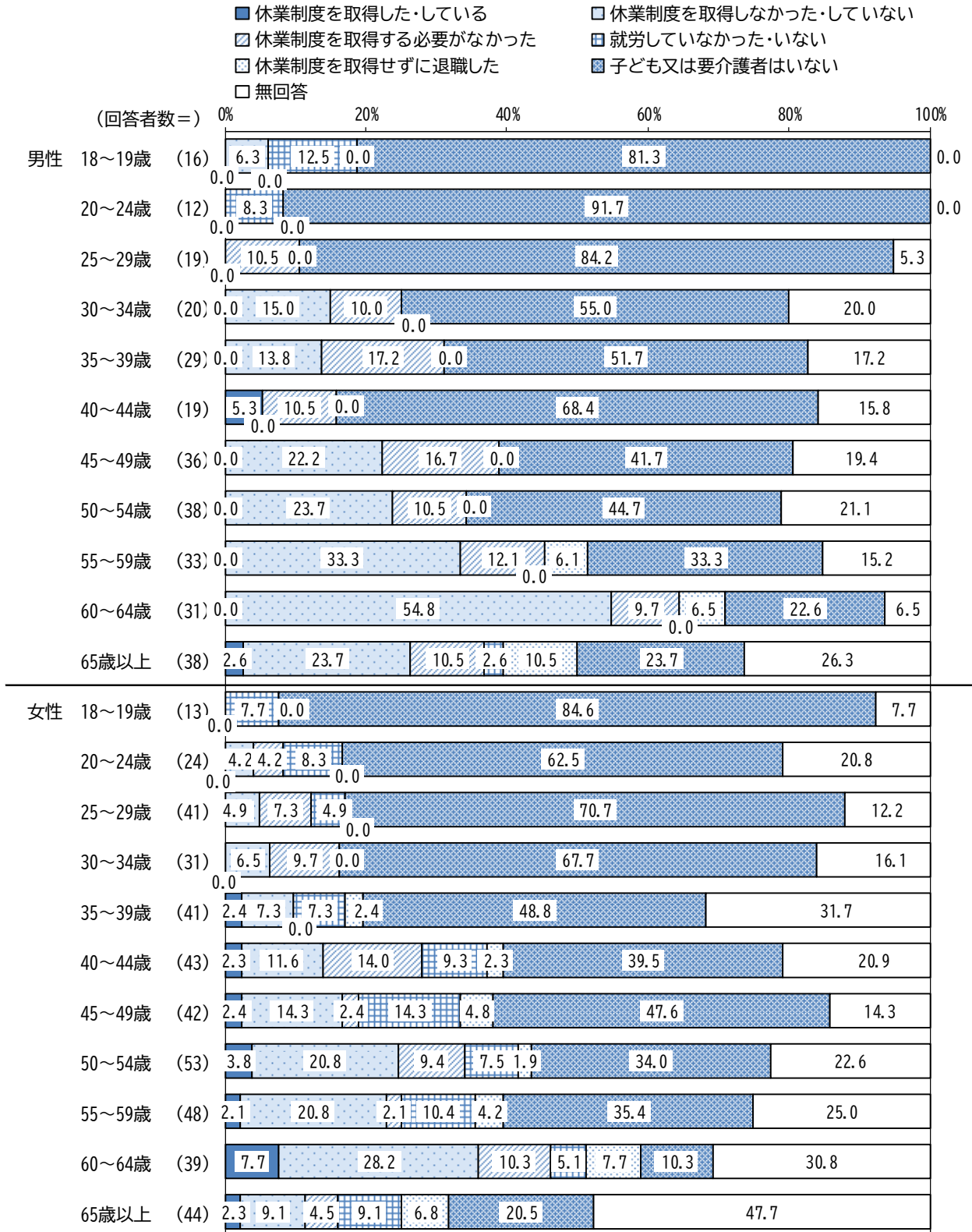
【性別】

「休業制度を取得しなかった・していない」「休業制度を取得する必要がなかった」は男性が女性を上回り、「就労していなかった・いない」は女性が男性を上回ります。



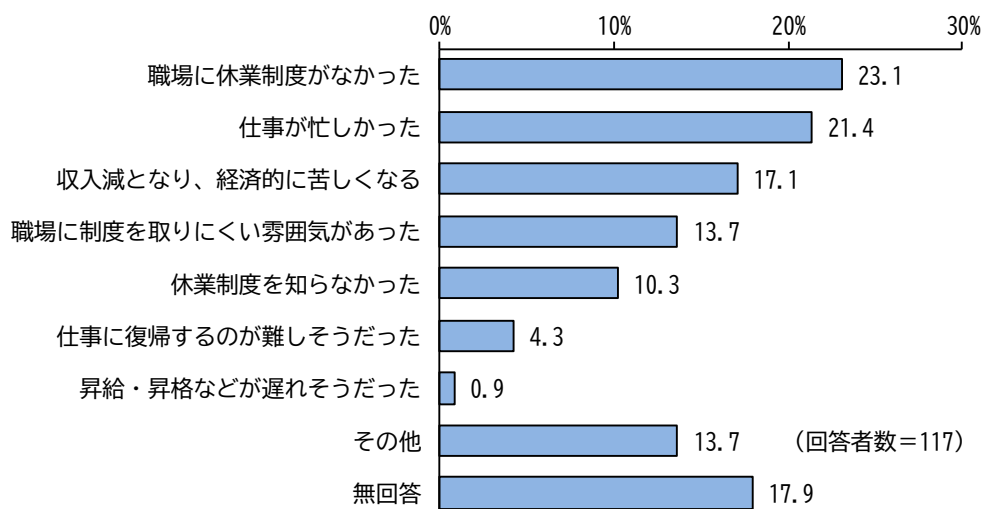
【性・年齢別】

「休業制度を取得した・している」は女性60～64歳7.7%、男性40～44歳5.3%でやや高くなっています。男女とも、60～64歳までは年齢が高くなるほど「休業制度を取得しなかった・していない」割合は高くなりますが、65歳以上ではその割合はやや低くなっています。



⑤介護休業〈取得しなかった理由〉

「職場に休業制度がなかった」23.1%が最も高く、次いで「仕事が忙しかった」21.4%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」17.1%、「職場に制度を取りにくい雰囲気があった」13.7%、「休業制度を知らなかった」10.3%などとなっています。



【性別】

割合が最も高いのは、男性は「仕事が忙しかった」25.8%、女性は「収入減となり、経済的に苦しくなる」25.5%となっています。

【性・年齢別】

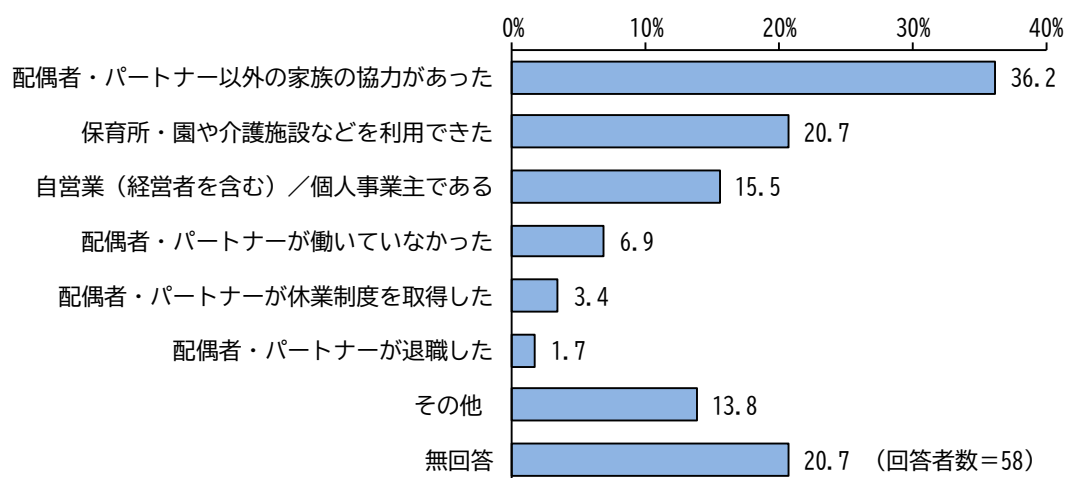
「職場に休業制度がなかった」割合は、男女とも高い年代でやや高くなっています。

単位：%

性別	年齢	(回答者数)	職場に休業制度が	仕事が忙しかった	収入減となり、経済的に苦しくなる	職場に制度を取りにくい雰囲気があった	休業制度を知らなかった	仕事に復帰するのが難しそうだった	昇給・昇格などが遅れそうだった	その他	無回答	
			なかった	かった	なる	あった	知らな	の	遅れ	が	他	答
性	男性	62	22.6	25.8	9.7	11.3	11.3	3.2	0.0	14.5	16.1	
	女性	55	23.6	16.4	25.5	16.4	9.1	5.5	1.8	12.7	20.0	
性・年齢別	18~19歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	20~24歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	25~29歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30~34歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	
	35~39歳	4	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40~44歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	45~49歳	8	25.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5	
	50~54歳	9	11.1	22.2	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2	22.2	
	55~59歳	11	27.3	54.5	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	
	60~64歳	17	29.4	41.2	5.9	23.5	11.8	0.0	0.0	5.9	5.9	
	65歳以上	9	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	22.2	22.2	
	女性	18~19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20~24歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		25~29歳	2	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
		30~34歳	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
		35~39歳	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
		40~44歳	5	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
		45~49歳	6	33.3	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
		50~54歳	11	27.3	18.2	45.5	18.2	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1
55~59歳		10	0.0	10.0	30.0	10.0	20.0	0.0	0.0	10.0	30.0	
60~64歳		11	45.5	27.3	9.1	9.1	9.1	18.2	9.1	0.0	18.2	
65歳以上	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0		

⑥介護休業〈取得する必要がなかった理由〉

「配偶者・パートナー以外の家族の協力があつた」36.2%が最も高く、次いで「保育所・園や介護施設などを利用できた」20.7%、「自営業（経営者を含む）／個人事業主である」15.5%などとなっています。



【性別】

男女とも「配偶者・パートナー以外の家族の協力があつた」割合が最も高くなっていますが、男性43.8%、女性26.9%と差があります。

単位：%

性別		(回答者数)	配偶者・パートナー以外の家族の協力があつた	保育所・園や介護施設などを利用できた	自営業（経営者を含む）／個人事業主である	配偶者・パートナーが働いていなかった	配偶者・パートナーが休業制度を取得した	配偶者・パートナーが退職した	その他	無回答
			男性	32	43.8	21.9	18.8	12.5	6.3	3.1
女性	26	26.9	19.2	11.5	0.0	0.0	0.0	23.1	26.9	

(5) 生き方や家庭生活等について

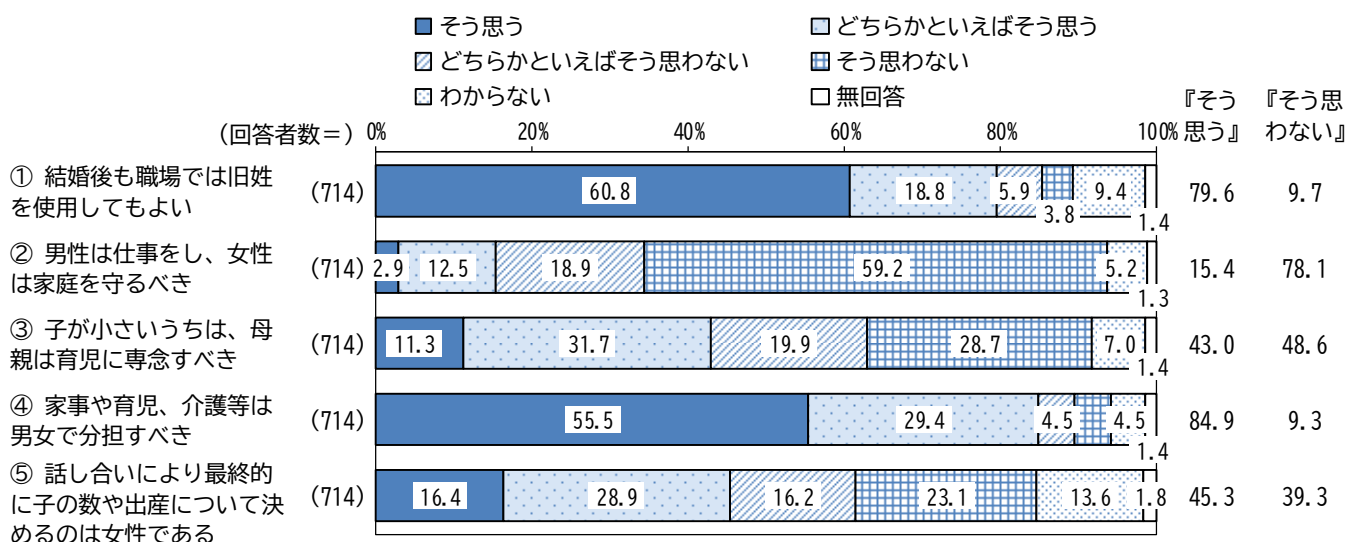
問11 生き方や家庭生活等について(①~⑤について、それぞれ該当する番号に○は1つだけ)

「そう思う」は、「①結婚後も職場では旧姓を使用してもよい」60.8%、「④家事や育児、介護等は男女で分担すべき」55.5%で高く、「そう思わない」は「②男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」59.2%で高くなっています。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』と、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』をみると、「①結婚後も職場では旧姓を使用してもよい」「④家事や育児、介護等は男女で分担すべき」は『そう思う』が『そう思わない』を大きく上回っています。

対して、「②男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」は『そう思わない』が『そう思う』を大きく上回ります。

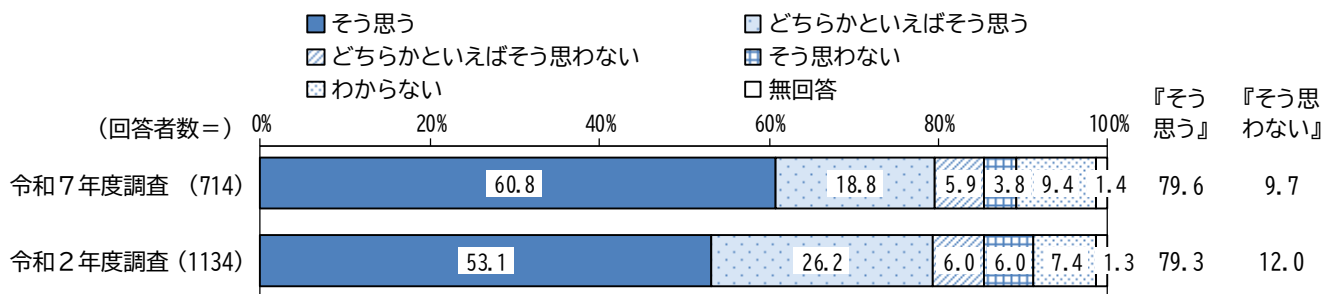
また、「③子が小さいうちは、母親は育児に専念すべき」「⑤話し合いにより最終的に子の数や出産について決めるのは女性である」は『そう思う』と『そう思わない』が拮抗しています。



①結婚後も職場では旧姓を使用してもよい

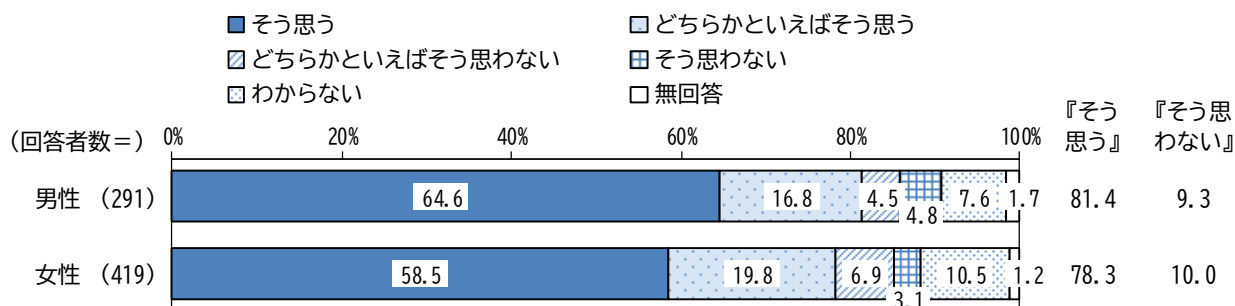
【経年比較】

『そう思う』は令和2年度調査とほぼ同じですが、「そう思う」60.8%は令和2年度調査を上回ります。



【性別】

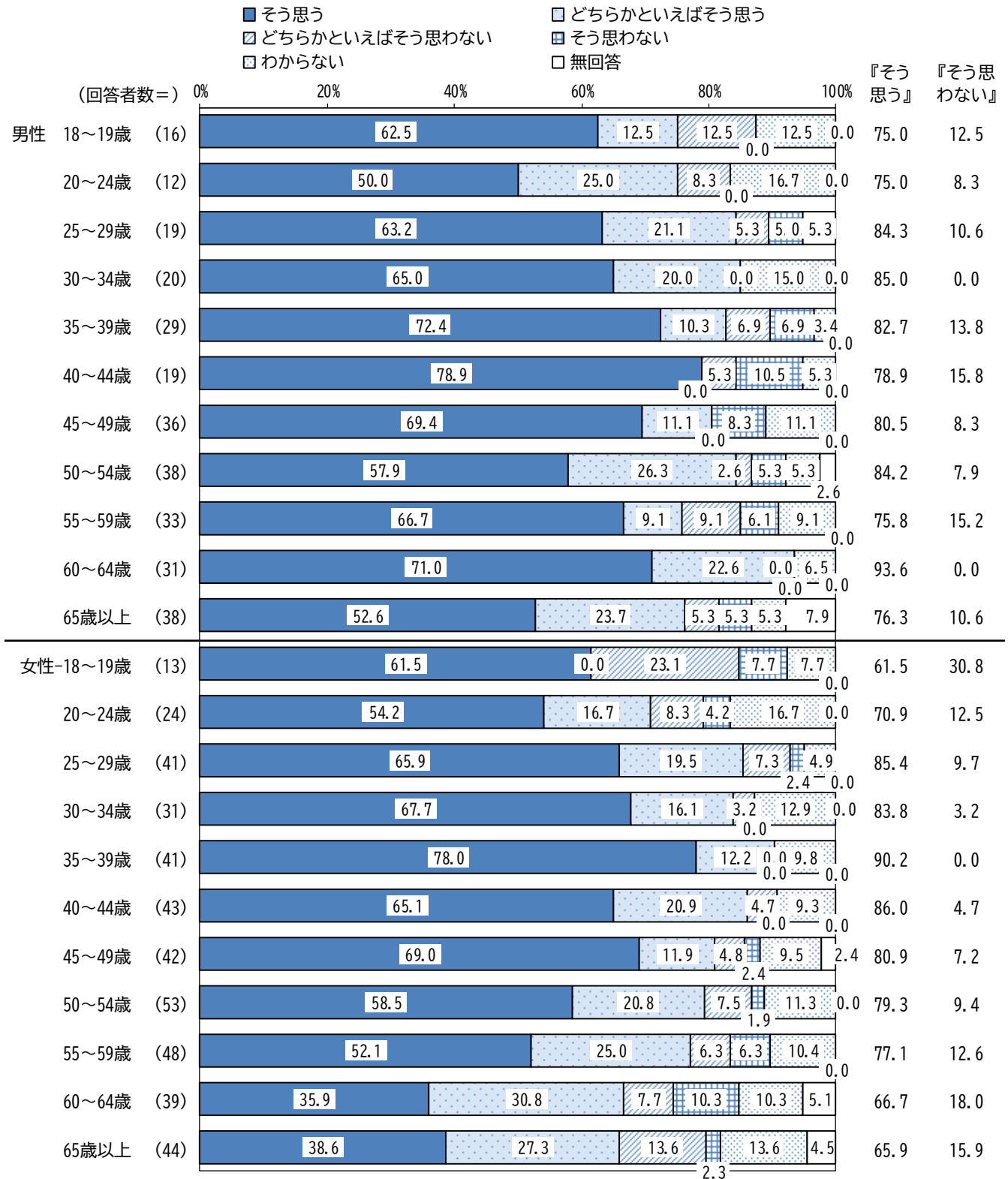
『そう思う』は、男性が女性をやや上回ります。



【性・年齢別】

「そう思う」割合は年齢が上がるにつれ高くなり、男性は40～44歳78.9%、女性は35～39歳78.0%をピークに低くなる傾向にあります。

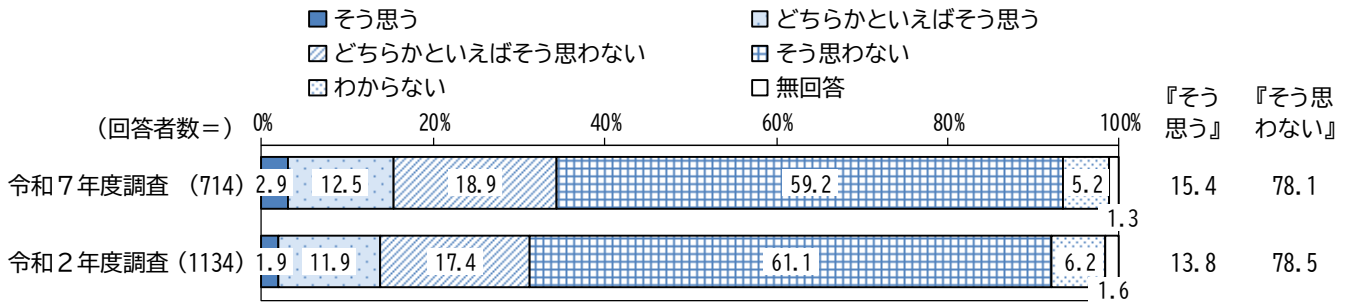
『そう思う』は男性のすべての年代と、女性の20～24歳から55～59歳で7割を超えますが、女性18～19歳、60～64歳、65歳以上では6割台とやや低くなっています。



②男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき

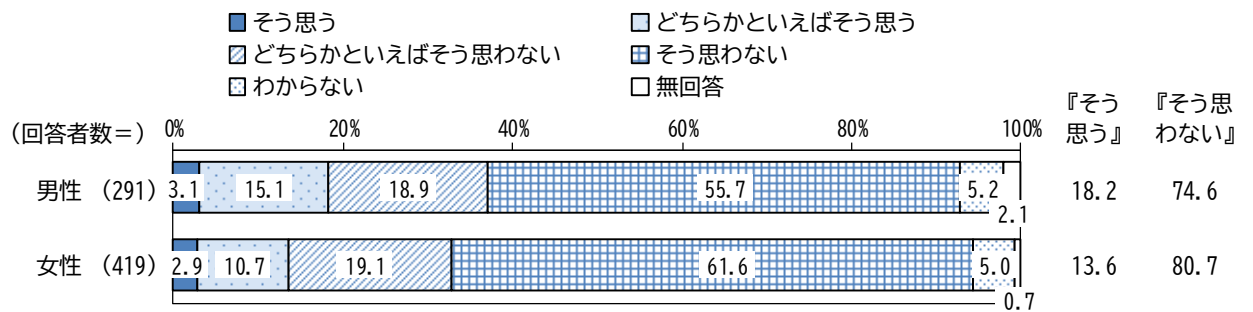
【経年比較】

『そう思う』『そう思わない』とも、令和2年度調査とほぼ同じとなっています。



【性別】

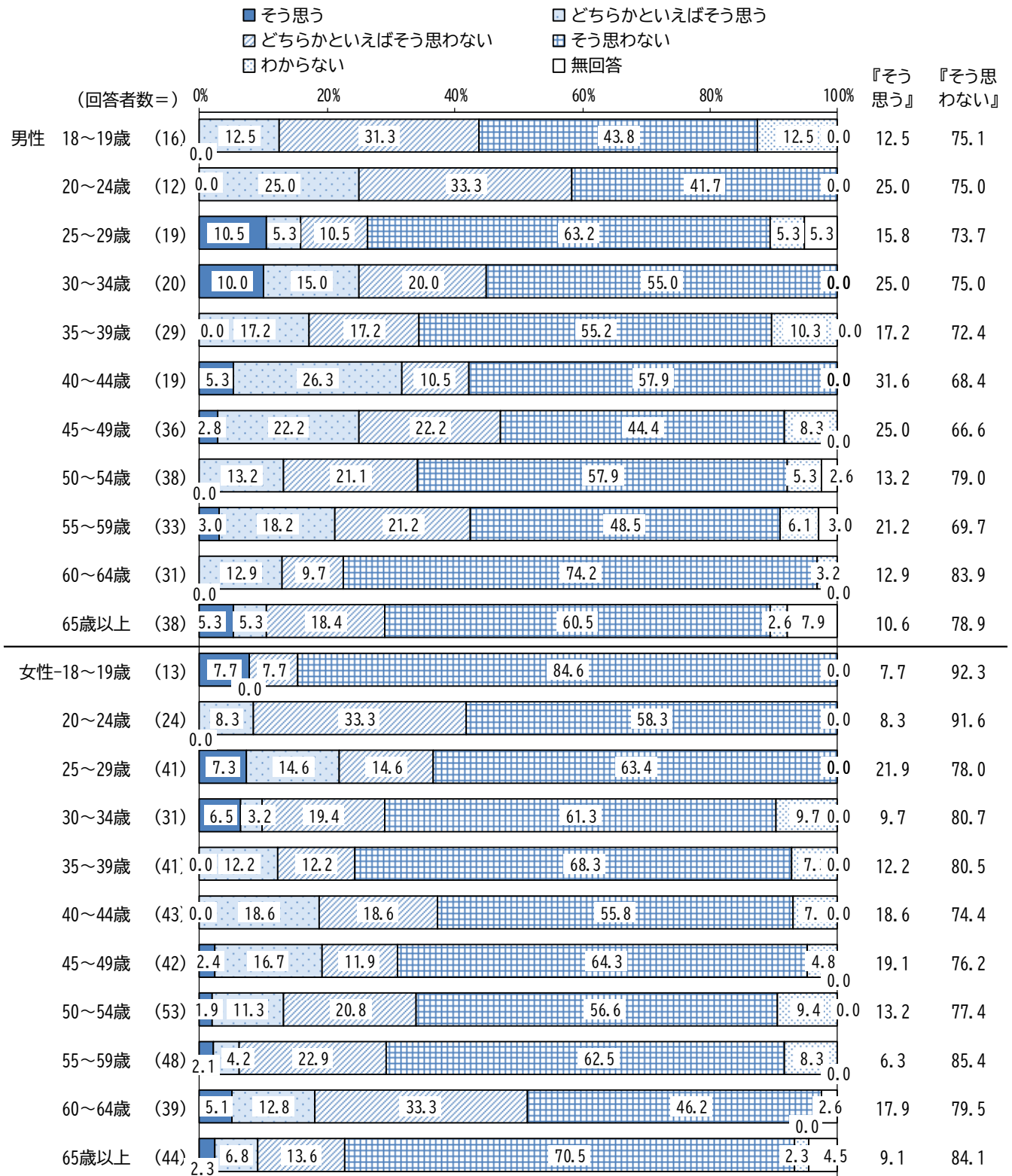
『そう思う』は男性でやや高く、『そう思わない』は女性でやや高くなっています。



【性・年齢別】

「そう思う」は、男性25～29歳、30～34歳、女性18～19歳、25～29歳、30～34歳でやや高くなっています。『そう思う』割合は、男性40～44歳で31.6%と最も高く、男性20～24歳、30～34歳、45～49歳、55～59歳と女性25～29歳で2割を超えます。

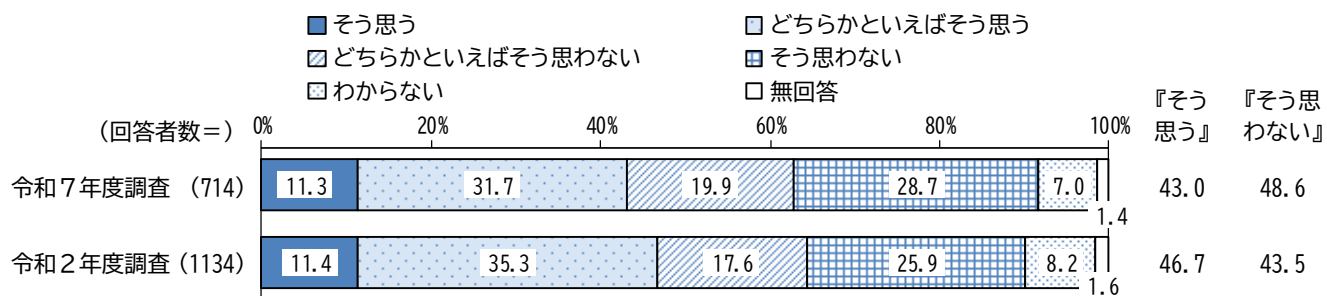
いずれの性・年齢でも『そう思わない』が『そう思う』を上回り、なかでも女性18～19歳、20～24歳で9割を超えます。



③子が小さいうちは、母親は育児に専念すべき

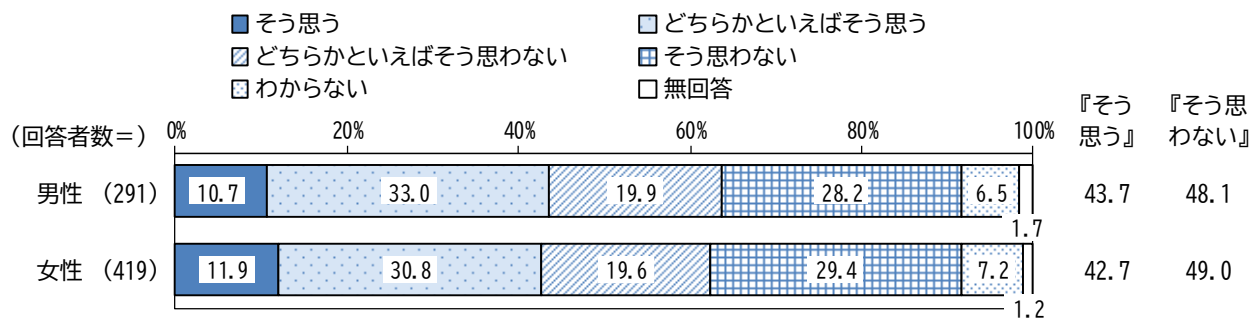
【経年比較】

『そう思う』は、令和2年度調査より、やや少なくなっています。



【性別】

男女であまり差はありません。

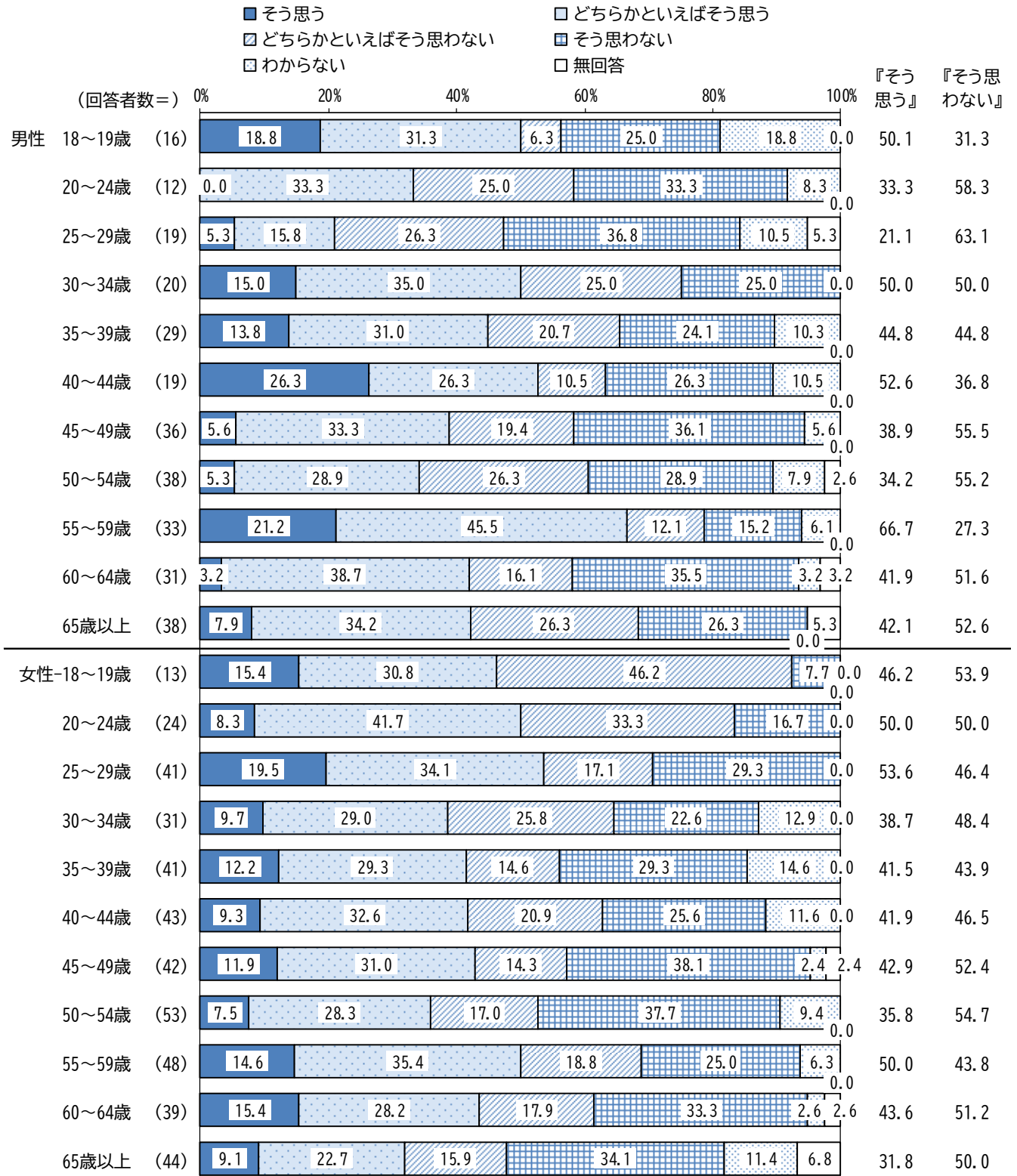


【性・年齢別】

「そう思う」は男性40～44歳、55～59歳で2割を超えています。

『そう思う』は男性55～59歳が66.7%と最も高く、『そう思う』が『そう思わない』を上回るのは、男性18～19歳、40～44歳、55～59歳、女性25～29歳、55～59歳となっています。

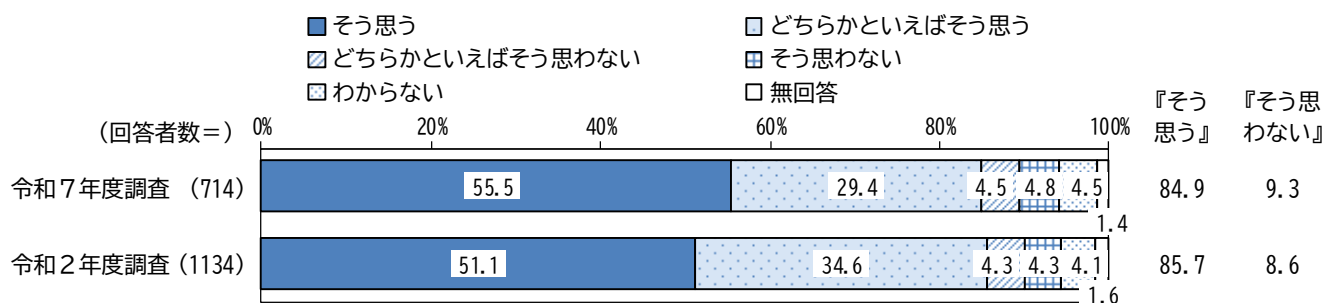
対して『そう思わない』は、男性25～29歳が63.1%で最も高く、次いで男性20～24歳、45～49歳、50～54歳、女性50～54歳の順となっています。



④家事や育児、介護等は男女で分担すべき

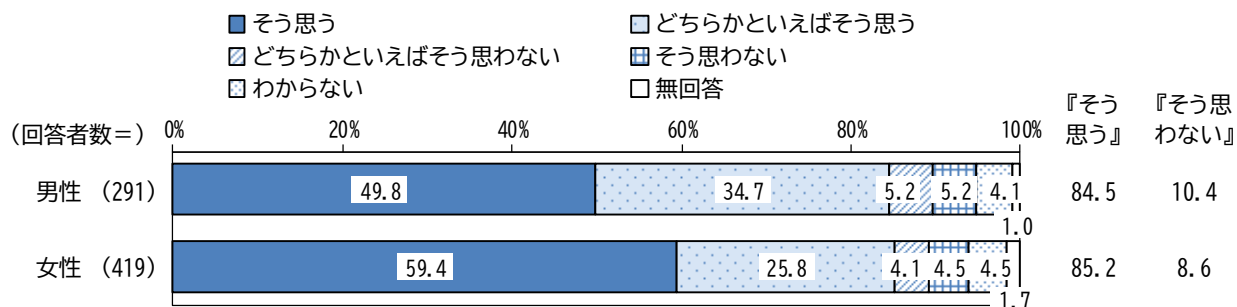
【経年比較】

『そう思う』割合は令和2年度調査よりやや低くなっていますが、「そう思う」は高くなっています。



【性別】

『そう思う』は男女でほとんど変わりませんが、「そう思う」は女性が男性を大きく上回ります。

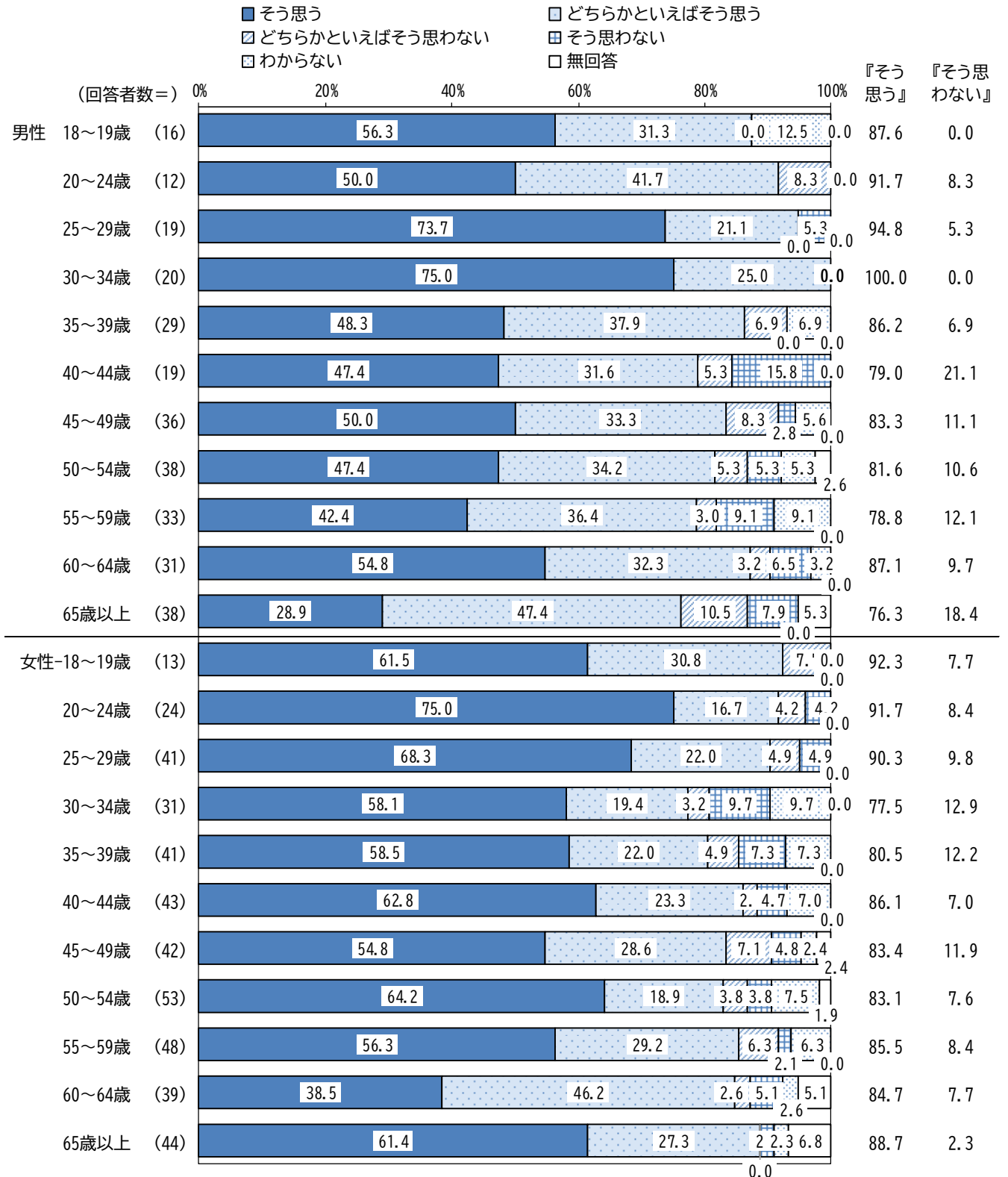


【性・年齢別】

「そう思う」は男性25～29歳、30～34歳、女性20～24歳で7割を超えており、男性は年齢が上がるにつれ低くなる傾向にあります。

『そう思う』は男性30～34歳で100%、男性20～24歳、25～29歳、女性18～19歳から25～29歳で9割を超え、若い世代で多くなっています。

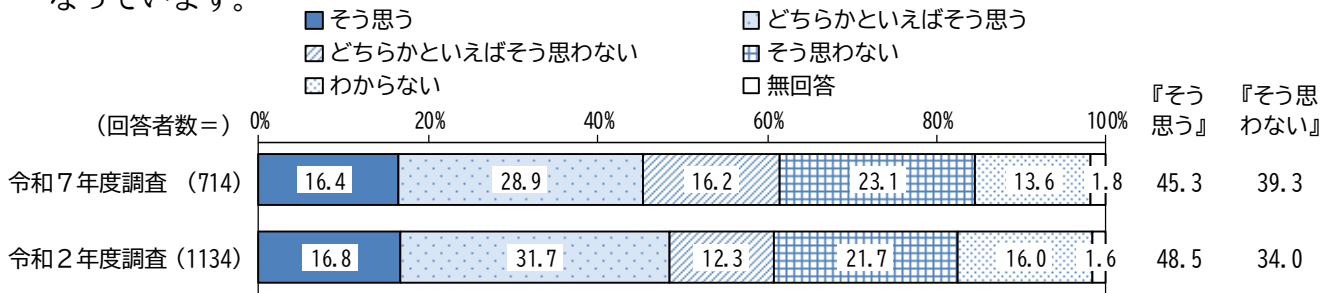
対して『そう思わない』は男性40～44歳で21.1%、男性65歳以上で18.4%と他の性・年齢と比較して高くなっています。



⑤話し合いにより最終的に子の数や出産について決めるのは女性である

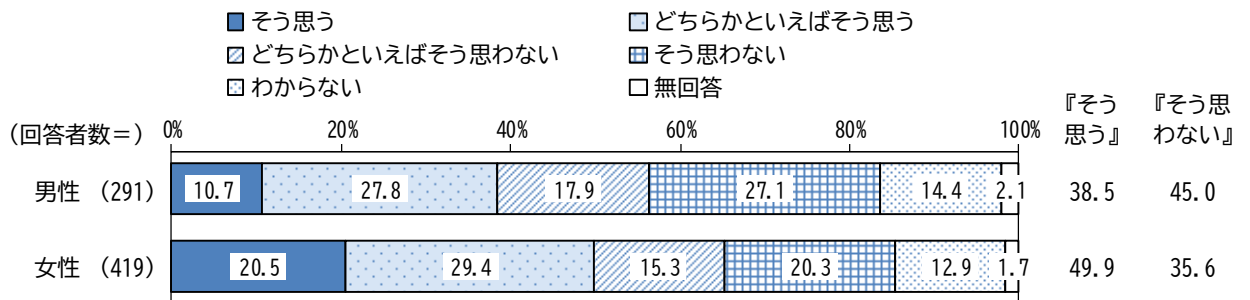
【経年比較】

令和2年度調査と比較して、『そう思う』割合はやや低くなり、『そう思わない』が高くなっています。



【性別】

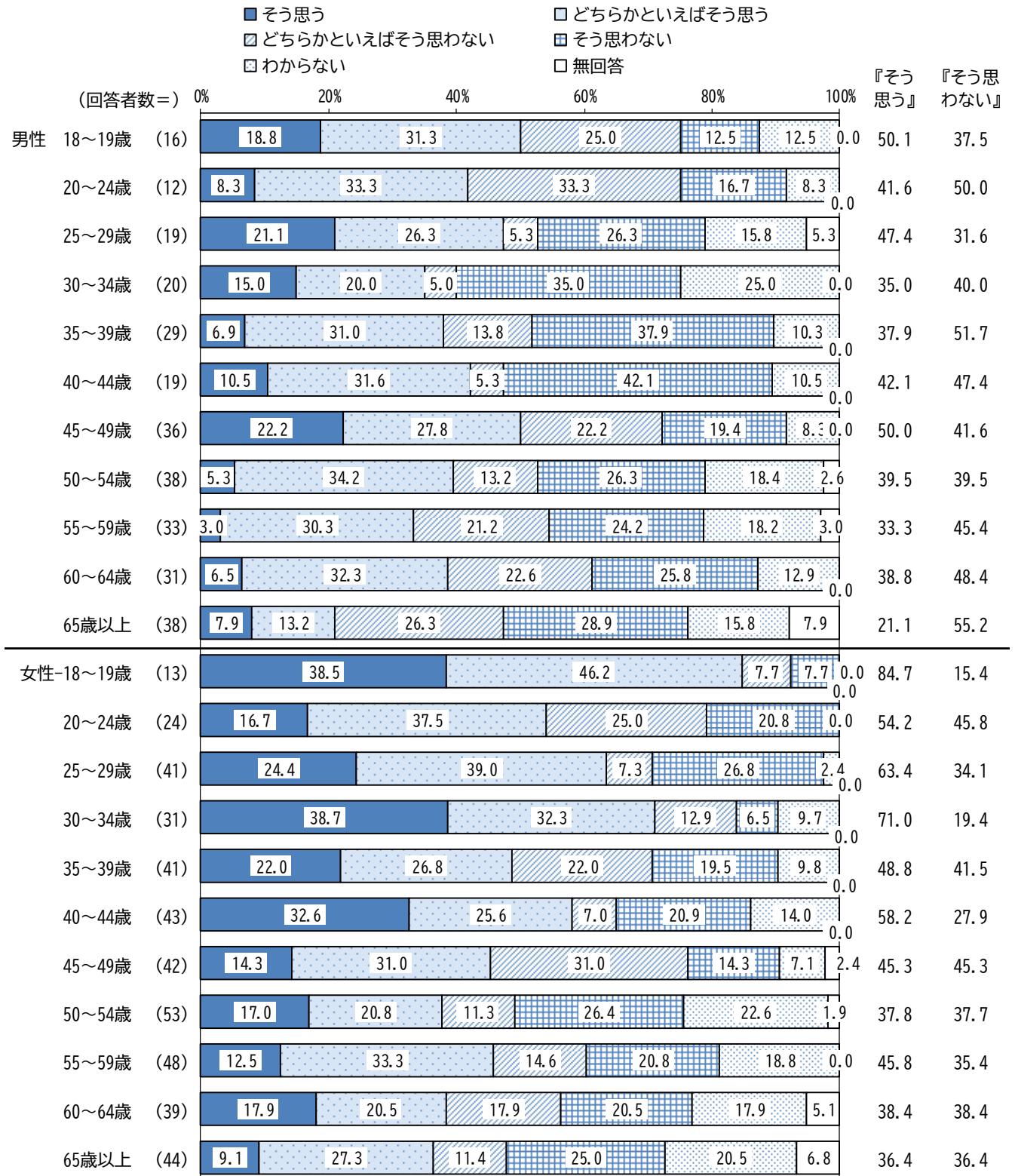
『そう思う』は女性が男性を大きく上回ります。



【性・年齢別】

『そう思う』は、女性30～34歳で71.0%、25～29歳で63.4%と高くなっています。対して、『そう思わない』は男性35～39歳で51.7%と最も高くなっています。

女性はすべての年齢で、『そう思う』が『そう思わない』と同値あるいは上回っています。男性は多くの年齢で『そう思わない』が『そう思う』を上回っています。



3 就業について

(1) 職業

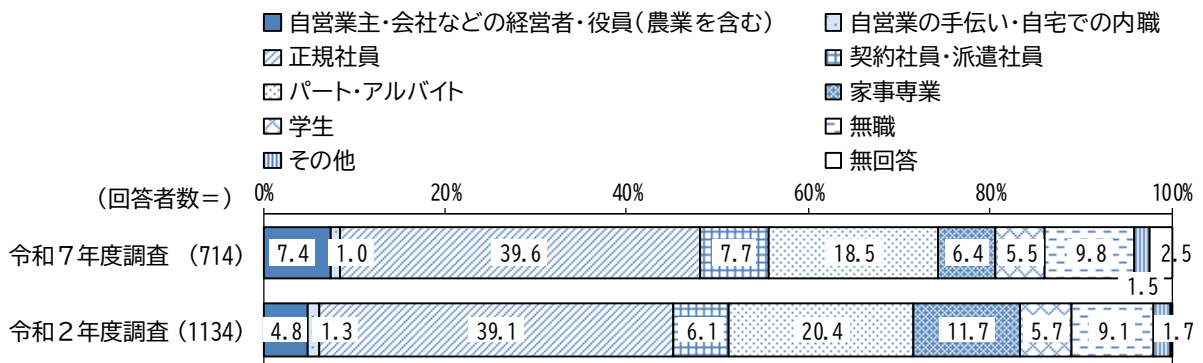
問12 あなたと配偶者・パートナーの職業をお答えください（それぞれ○は1つだけ）

①あなた

「正規社員」の割合が39.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」18.5%、「無職」9.8%、「契約社員・派遣社員」7.7%、「自営業主・会社などの経営者・役員（農業を含む）」7.4%、「家事専業」6.4%、「学生」5.5%、「自営業の手伝い・自宅での内職」1.0%となっています。

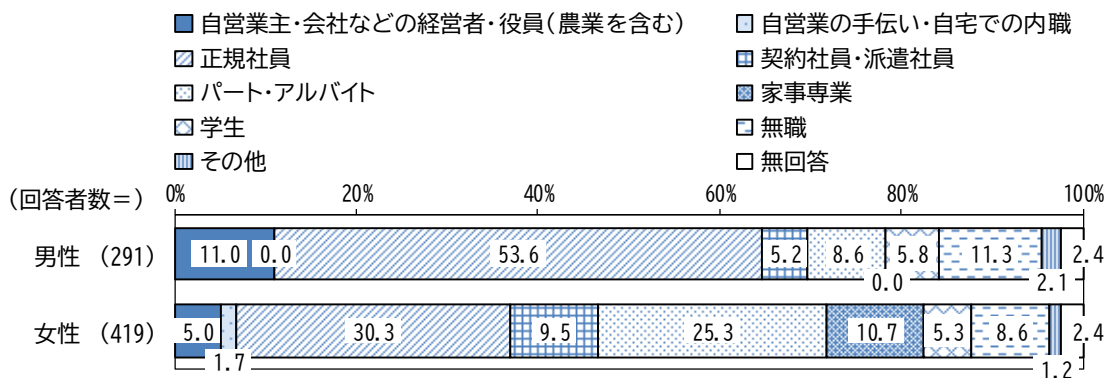
【経年比較】

令和2年度調査と比較して、「自営業主・会社などの経営者・役員（農業を含む）」の割合がやや高くなり、「家事専業」が低くなっています。



【性別】

男女とも「正規社員」の割合が最も高くなっていますが、男性53.6%、女性30.3%と大きな差があります。



【性・年齢別】

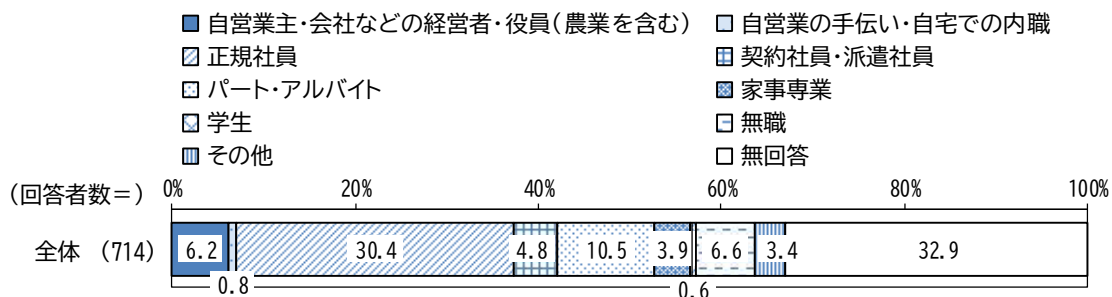
男性は25～29歳から54～59歳で「正規社員」が6割以上ですが、女性は25～29歳、30～34歳で5割台が最も高く、以降年齢が高くなるほど「正規社員」は減り、「パート・アルバイト」の割合が高くなっています。

単位：％

		(回答者数)	自営業主・会社などの経営者・役員(農業を含む)	自営業の手伝い・自宅での内職	正規社員	契約社員・派遣社員	パート・アルバイト	家事専業	学生	無職	その他	無回答	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	68.8	0.0	0.0	6.3
		20～24歳	12	0.0	0.0	33.3	0.0	8.3	0.0	50.0	8.3	0.0	0.0
		25～29歳	19	5.3	0.0	73.7	0.0	15.8	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0
		30～34歳	20	10.0	0.0	70.0	0.0	10.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0
		35～39歳	29	3.4	0.0	82.8	0.0	6.9	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4
		40～44歳	19	21.1	0.0	63.2	5.3	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0
		45～49歳	36	11.1	0.0	72.2	8.3	0.0	0.0	0.0	5.6	2.8	0.0
		50～54歳	38	15.8	0.0	68.4	0.0	5.3	0.0	0.0	2.6	2.6	5.3
		55～59歳	33	24.2	0.0	60.6	0.0	3.0	0.0	0.0	12.1	0.0	0.0
		60～64歳	31	12.9	0.0	45.2	22.6	3.2	0.0	0.0	12.9	3.2	0.0
	65歳以上	38	5.3	0.0	5.3	10.5	23.7	0.0	0.0	44.7	5.3	5.3	
	女性	18～19歳	13	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	76.9	0.0	0.0	7.7
		20～24歳	24	4.2	0.0	29.2	0.0	20.8	0.0	41.7	0.0	0.0	4.2
		25～29歳	41	2.4	0.0	56.1	14.6	12.2	2.4	4.9	0.0	4.9	2.4
		30～34歳	31	3.2	0.0	54.8	19.4	12.9	0.0	0.0	6.5	0.0	3.2
		35～39歳	41	4.9	0.0	46.3	7.3	17.1	19.5	0.0	4.9	0.0	0.0
		40～44歳	43	2.3	2.3	32.6	11.6	32.6	9.3	0.0	4.7	2.3	2.3
		45～49歳	42	4.8	4.8	38.1	14.3	21.4	7.1	0.0	7.1	2.4	0.0
		50～54歳	53	5.7	1.9	30.2	7.5	28.3	13.2	0.0	11.3	0.0	1.9
		55～59歳	48	4.2	2.1	16.7	16.7	35.4	16.7	0.0	6.3	0.0	2.1
60～64歳		39	7.7	2.6	12.8	2.6	35.9	23.1	0.0	12.8	0.0	2.6	
65歳以上	44	11.4	2.3	4.5	2.3	31.8	11.4	0.0	29.5	2.3	4.5		

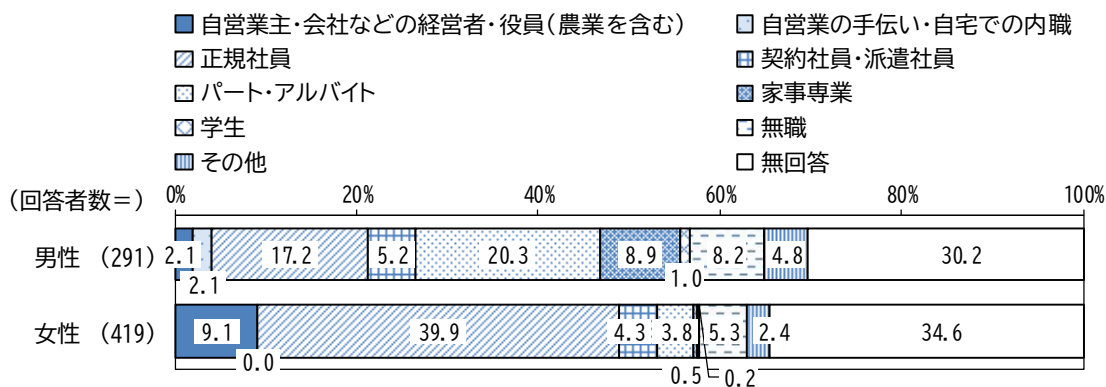
②配偶者・パートナー

「正規社員」30.4%、「パート・アルバイト」10.5%、「無職」6.6%、「自営業主・会社などの経営者・役員（農業を含む）」6.1%などとなっています。



【性別】

男性は、配偶者・パートナーが「パート・アルバイト」の割合が最も高く、女性は「正規社員」が最も高くなっています。



【性・年齢別】

男性は、配偶者・パートナーが「正規社員」は25～29歳で約3割ですが、年齢があがるにつれ割合は減少し、「パート・アルバイト」「契約社員」が高くなっています。対して、女性は25歳から64歳まで「正規社員」が最も高くなっています。

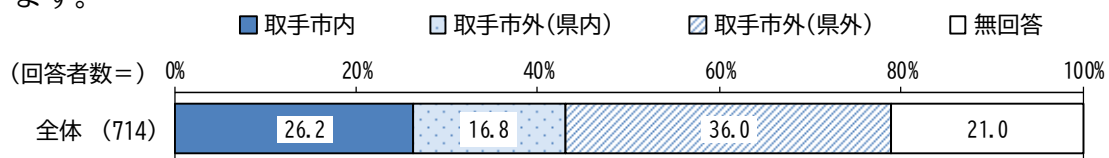
単位：％

		(回答者数)	自営業主・会社などの経営者・役員 (農業を含む)	自営業の手伝い・自宅での内職	正規社員	契約社員・派遣社員	パート・アルバイト	家事専業	学生	無職	その他	無回答	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3	75.0
		20～24歳	12	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	83.3
		25～29歳	19	0.0	0.0	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	15.8	47.4
		30～34歳	20	0.0	0.0	25.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	5.0	40.0
		35～39歳	29	0.0	0.0	17.2	3.4	20.7	10.3	0.0	6.9	3.4	37.9
		40～44歳	19	0.0	0.0	10.5	10.5	26.3	15.8	0.0	0.0	0.0	36.8
		45～49歳	36	5.6	2.8	19.4	8.3	16.7	8.3	0.0	5.6	8.3	25.0
		50～54歳	38	2.6	7.9	26.3	7.9	21.1	2.6	0.0	5.3	7.9	18.4
		55～59歳	33	3.0	0.0	24.2	15.2	30.3	9.1	0.0	3.0	3.0	12.1
		60～64歳	31	6.5	3.2	9.7	0.0	35.5	16.1	0.0	9.7	3.2	16.1
	65歳以上	38	0.0	2.6	5.3	2.6	28.9	15.8	0.0	28.9	0.0	15.8	
	女性	18～19歳	13	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	76.9
		20～24歳	24	0.0	0.0	12.5	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	75.0
		25～29歳	41	4.9	0.0	46.3	4.9	4.9	0.0	0.0	0.0	4.9	34.1
		30～34歳	31	3.2	0.0	51.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	35.5
		35～39歳	41	12.2	0.0	48.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.0
		40～44歳	43	7.0	0.0	62.8	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	23.3
		45～49歳	42	11.9	0.0	61.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	21.4
		50～54歳	53	11.3	0.0	45.3	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0
		55～59歳	48	8.3	0.0	37.5	6.3	4.2	2.1	0.0	4.2	0.0	37.5
60～64歳		39	17.9	0.0	25.6	12.8	10.3	0.0	0.0	5.1	2.6	25.6	
65歳以上	44	11.4	0.0	9.1	2.3	13.6	2.3	0.0	36.4	0.0	25.0		

(2) 職場

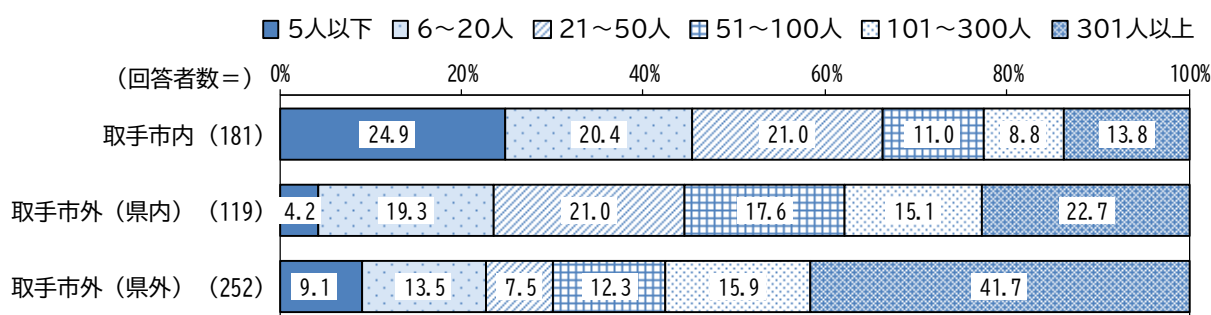
問13 あなたの職場についてお答えください (○は1つだけ)

「取手市内」は26.3%、「取手市外（県内）」16.9%、「取手市外（県外）」35.9%となっています。



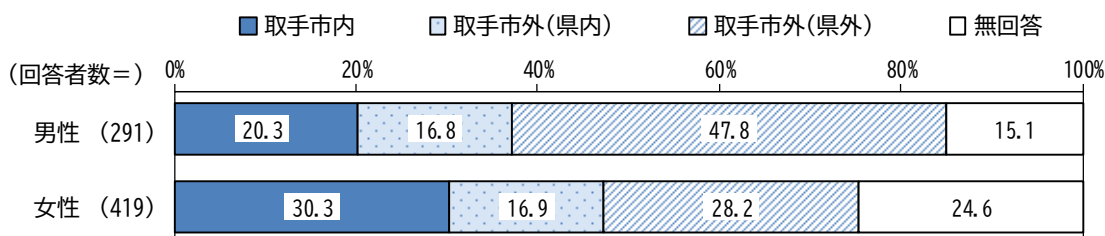
〈従業員規模〉

職場の従業員規模は、取手市内は「5人以下」の割合が最も高く、取手市外（県内）及び取手市外（県外）は「301人以上」が最も高くなっています。



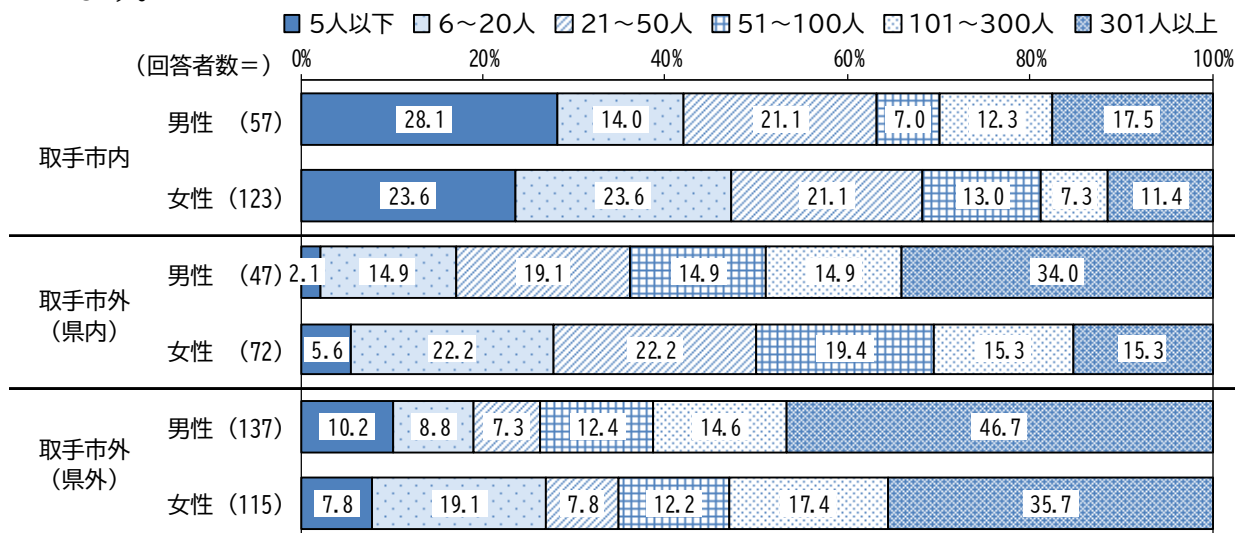
【性別】

男性は「取手市外（県外）」が、女性は「取手市内」が最も高くなっています。



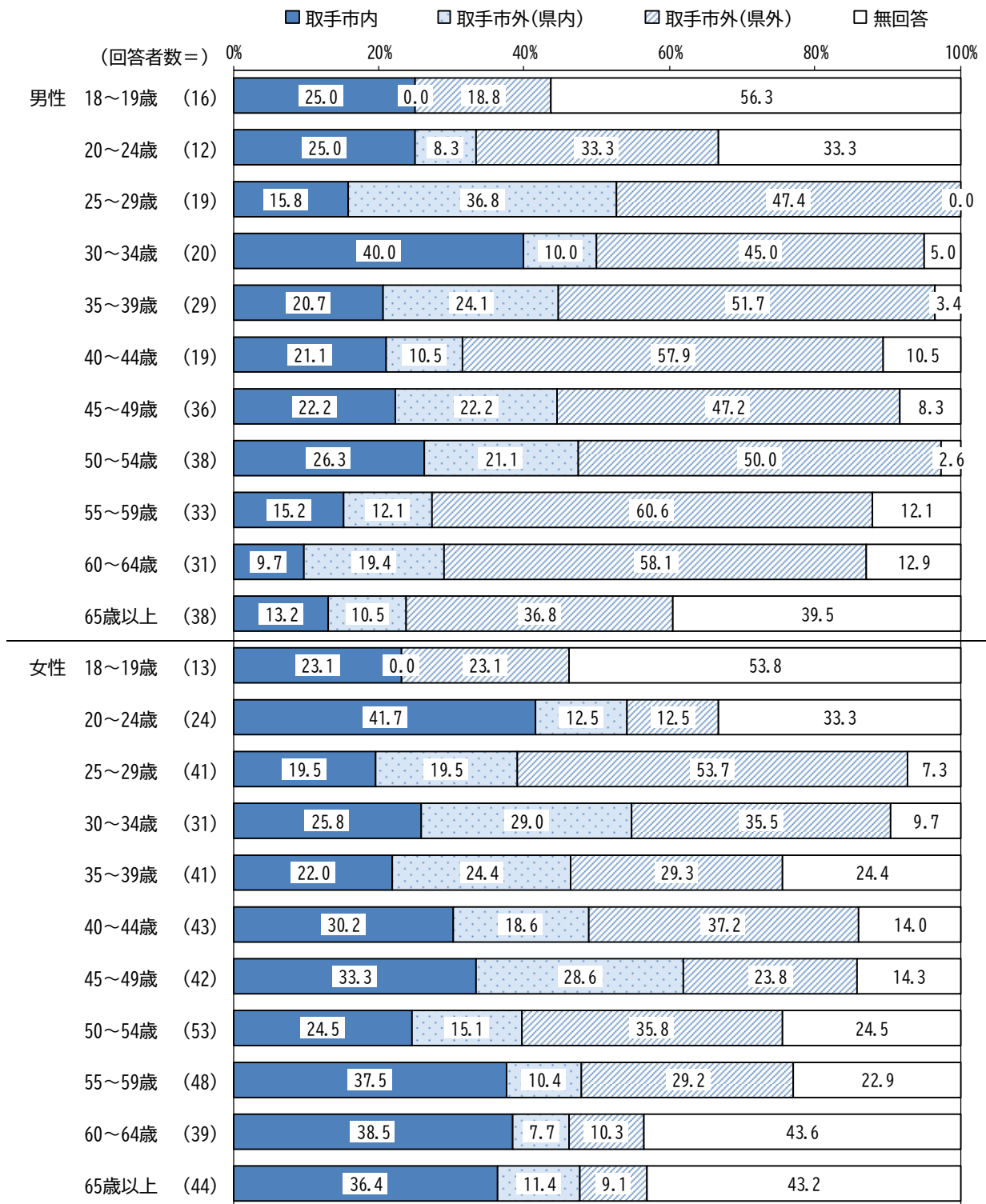
〈従業員規模〉

「301人以上」の職場は、取手市内、取手市外（県内）、（県外）とも男性の方が高くなっています。



【性・年齢別】

男性は、18～19歳を除いて「取手市外（県外）」の割合が最も高くなっています。対して、女性は「取手市外（県外）」は25～29歳の約5割から年齢があがるにつれ割合は低くなり、「取手市内」が高くなっています。

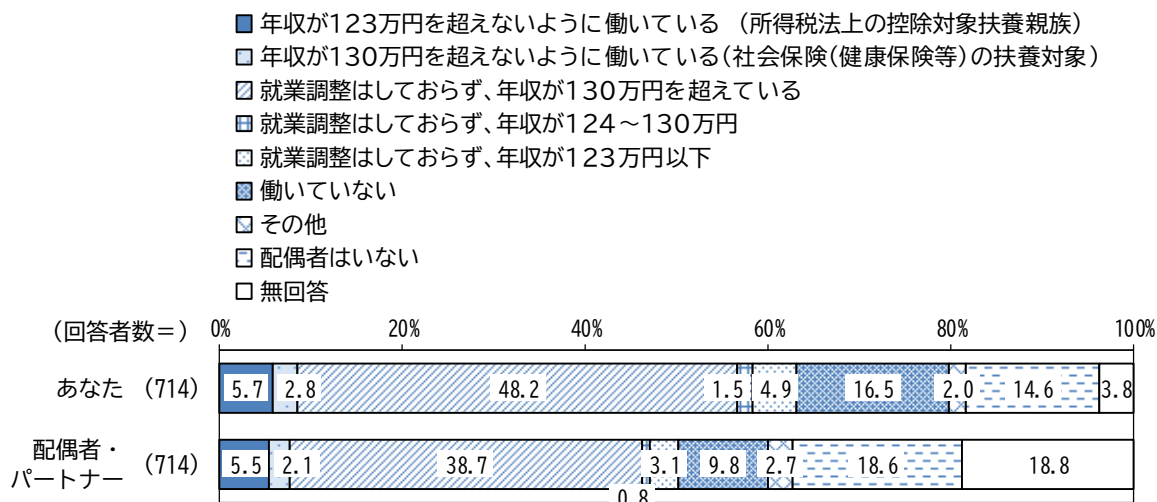


(3) 就業調整

問14 あなたと配偶者・パートナーは、就業調整*をしていますか（それぞれ○は1つだけ）

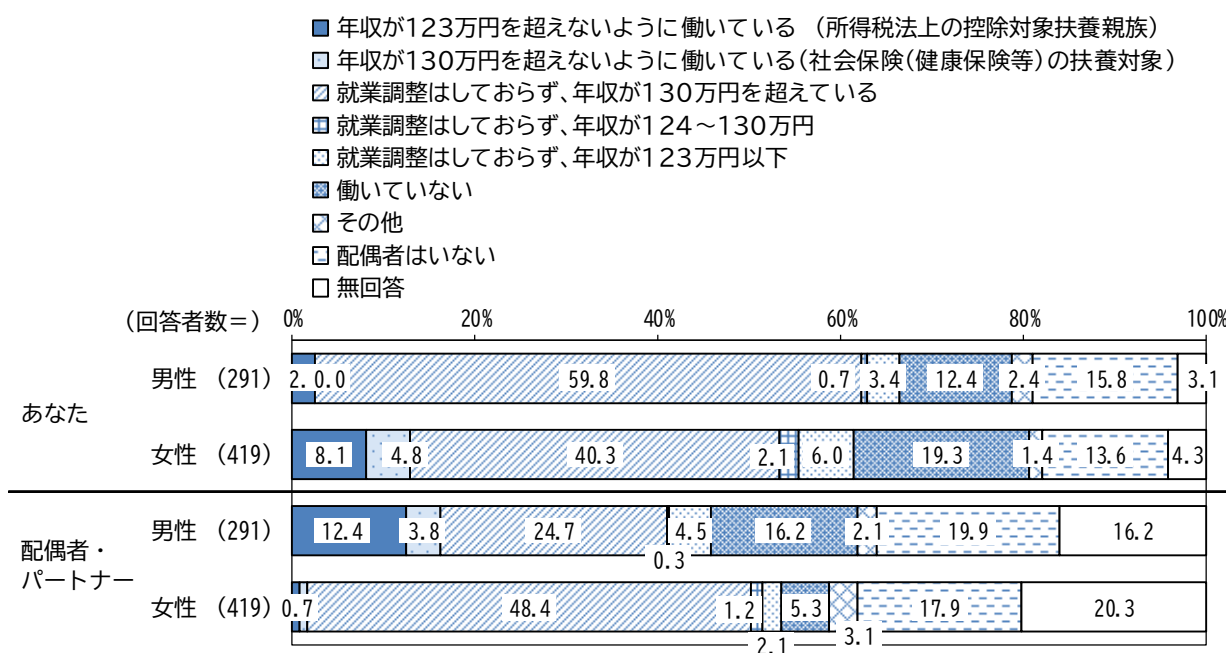
※就業調整：税や社会保険料負担などを考慮して働く時間や年収額を自主的に抑えること

本人、配偶者・パートナーともに、「就業調整はしておらず、年収が130万円を超えている」割合が最も高く、次いで「年収が123万円を超えないように働いている（所得税法上の控除対象扶養親族）」、「就業調整はしておらず、年収が123万円以下」、「年収が130万円を超えないように働いている（社会保険（健康保険等）の扶養対象）」、「就業調整はしておらず、年収が124～130万円」の順となっています。



【性別】

「年収が123万円を超えないように働いている（所得税法上の控除対象扶養親族）」「年収が130万円を超えないように働いている（社会保険（健康保険等）の扶養対象）」は、女性本人と、男性の配偶者・パートナーで高くなっています。



(4) 仕事をする上での問題

問15 現在、働いている又は過去5年以内に退職した方のみお答えください

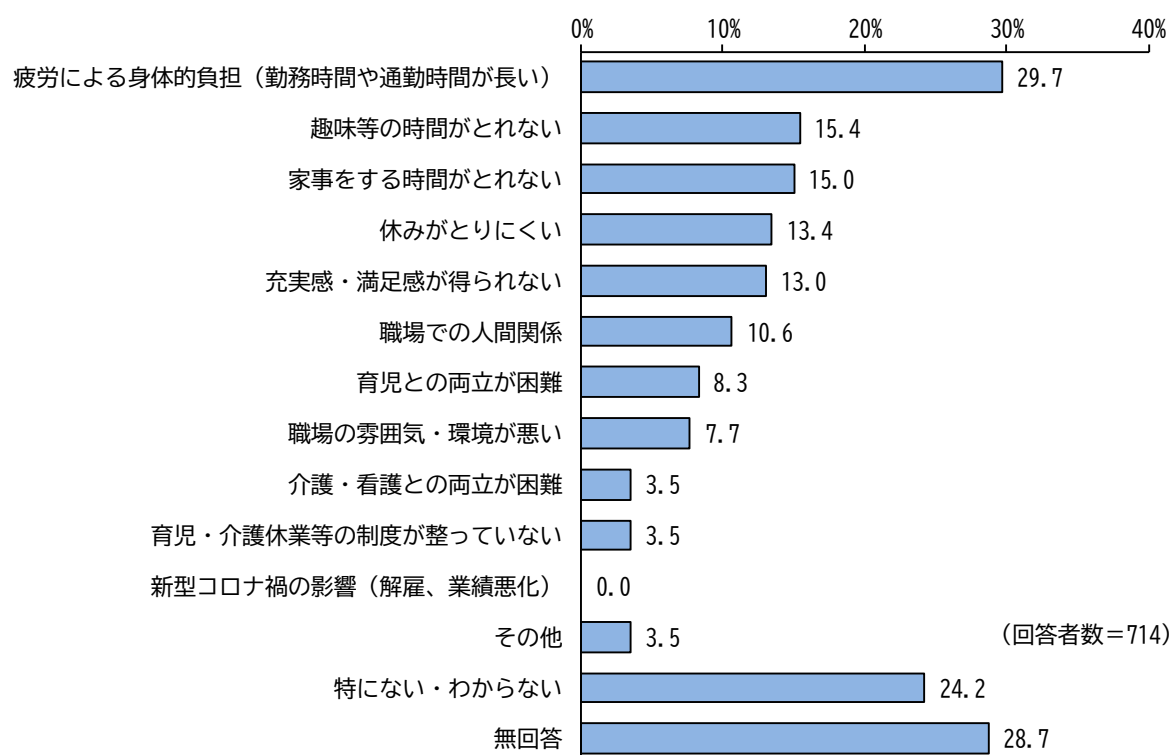
※現在、働いている方は、仕事をする中で困っていることをお答えください

※過去5年以内に退職した方は、退職した原因をお答えください

※どちらにも該当する方は、両方お答えください

①現在仕事をする中で困っていること

「疲労による身体的負担（勤務時間や通勤時間が長い）」29.7%が最も高く、次いで「趣味等の時間がとれない」15.4%、「家事をする時間がとれない」15.0%、「休みがとりにくい」13.4%、「充実感・満足感が得られない」13.0%、「職場での人間関係」10.6%などとなっています。



【性別】

男女とも「疲労による身体的負担（勤務時間や通勤時間が長い）」が最も高く、次いで男性は「充実感・満足感が得られない」、女性は「家事をする時間がとれない」となっています。

【性・年齢別】

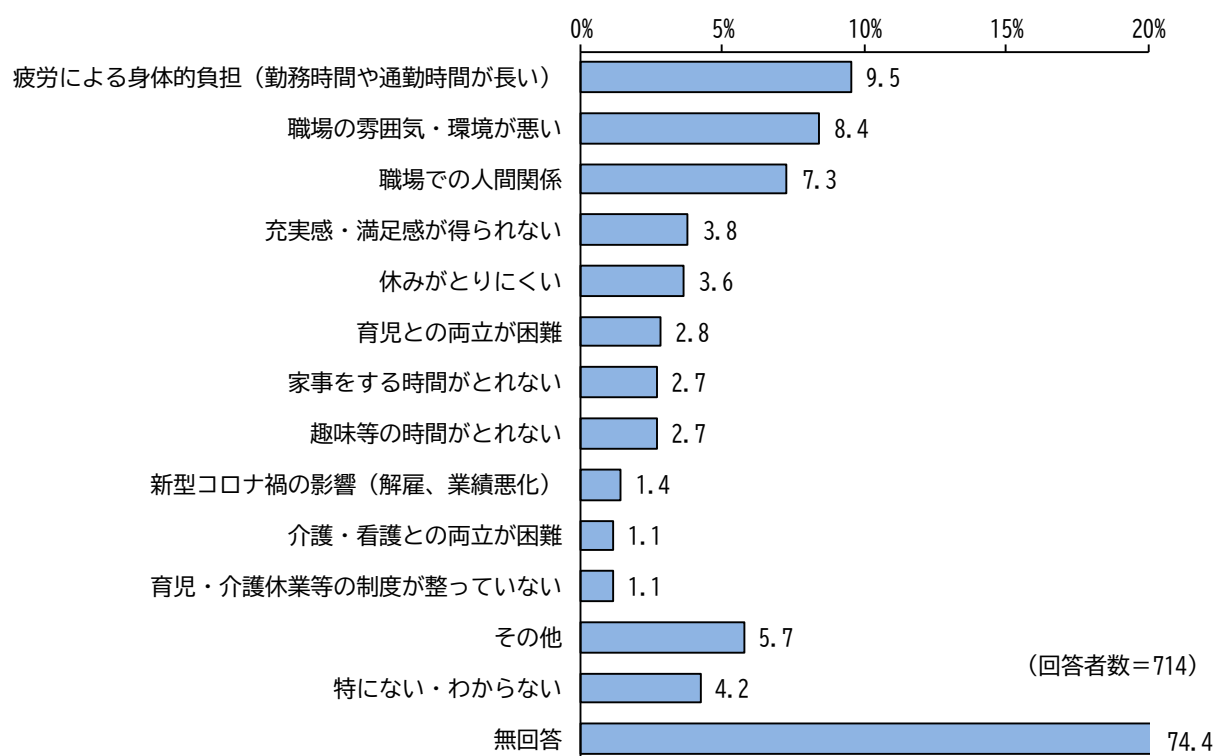
男女とも、50歳代までは「疲労による身体的負担（勤務時間や通勤時間が長い）」が高くなっています。年代で差があるのは、「趣味等の時間がとれない」は男女とも25～29歳から40～44歳で、「家事をする時間がとれない」は男性30～34歳と女性25～29歳から45～49歳で、「職場での人間関係」は女性40～44歳で、「育児との両立が困難」は女性30～34歳で高くなっています。

単位：%

		(回答者数)	疲労による身体的負担(勤務時間や通勤時間が長い)	趣味等の時間がとれない	家事をする時間がとれない	休みがとりにくい	充実感・満足感が得られない	職場での人間関係	育児との両立が困難	職場の雰囲気・環境が悪い	介護・看護との両立が困難	育児・介護休業等の制度が整っていない	新型コロナウイルス禍の影響(解雇、業績悪化)	その他	特にない・わからない	無回答	
性別	男性	291	30.9	14.8	11.7	13.4	15.8	8.9	7.9	7.6	3.4	2.7	0.0	4.1	28.9	23.0	
	女性	419	29.1	16.0	17.4	13.6	11.2	11.7	8.6	7.9	3.6	4.1	0.0	3.1	21.0	32.5	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	12.5	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	75.0
		20～24歳	12	25.0	8.3	8.3	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0	41.7
		25～29歳	19	47.4	21.1	10.5	26.3	15.8	15.8	0.0	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	36.8	5.3
		30～34歳	20	40.0	30.0	35.0	20.0	15.0	10.0	15.0	5.0	5.0	0.0	0.0	10.0	5.0	15.0
		35～39歳	29	44.8	27.6	20.7	6.9	27.6	13.8	27.6	13.8	0.0	3.4	0.0	13.8	20.7	13.8
		40～44歳	19	47.4	36.8	21.1	21.1	31.6	5.3	15.8	15.8	0.0	10.5	0.0	0.0	15.8	10.5
		45～49歳	36	36.1	11.1	11.1	19.4	11.1	8.3	22.2	8.3	13.9	5.6	0.0	8.3	25.0	13.9
		50～54歳	38	34.2	13.2	13.2	10.5	18.4	15.8	0.0	7.9	2.6	2.6	0.0	2.6	47.4	7.9
		55～59歳	33	33.3	12.1	6.1	18.2	21.2	9.1	3.0	9.1	6.1	3.0	0.0	3.0	33.3	21.2
		60～64歳	31	22.6	9.7	6.5	19.4	16.1	12.9	0.0	3.2	0.0	3.2	0.0	0.0	41.9	12.9
	65歳以上	38	5.3	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	2.6	31.6	55.3	
	女性	18～19歳	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	84.6
		20～24歳	24	20.8	8.3	0.0	8.3	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	50.0
		25～29歳	41	56.1	24.4	36.6	24.4	9.8	9.8	14.6	12.2	9.8	4.9	0.0	4.9	9.8	7.3
		30～34歳	31	38.7	29.0	22.6	19.4	19.4	16.1	32.3	9.7	3.2	9.7	0.0	0.0	25.8	9.7
		35～39歳	41	39.0	29.3	29.3	24.4	22.0	14.6	17.1	9.8	7.3	12.2	0.0	4.9	4.9	31.7
		40～44歳	43	48.8	25.6	25.6	18.6	18.6	32.6	20.9	11.6	4.7	4.7	0.0	4.7	14.0	16.3
		45～49歳	42	28.6	14.3	23.8	14.3	16.7	21.4	9.5	14.3	0.0	9.5	0.0	4.8	23.8	21.4
		50～54歳	53	24.5	11.3	18.9	15.1	9.4	11.3	0.0	11.3	1.9	0.0	0.0	0.0	26.4	32.1
		55～59歳	48	25.0	14.6	10.4	4.2	2.1	4.2	0.0	2.1	4.2	0.0	0.0	2.1	25.0	43.8
60～64歳		39	15.4	10.3	5.1	7.7	7.7	2.6	0.0	7.7	5.1	0.0	0.0	5.1	25.6	43.6	
65歳以上	44	4.5	0.0	2.3	4.5	4.5	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	4.5	34.1	52.3		

②過去5年以内に退職した原因

「疲労による身体的負担（勤務時間や通勤時間が長い）」9.5%が最も高く、次いで「職場の雰囲気・環境が悪い」8.4%、「職場での人間関係」7.3%、「充実感・満足感が得られない」3.8%、「休みがとりにくい」3.6%などとなっています。



【性別】

男女とも「疲労による身体的負担（勤務時間や通勤時間が長い）」が最も高くなっています。男女で差があるものは、「疲労による身体的負担（勤務時間や通勤時間が長い）」「職場の雰囲気・環境が悪い」「職場での人間関係」「休みがとりにくい」で女性が男性を上回っています。

【性・年齢別】

「疲労による身体的負担（勤務時間や通勤時間が長い）」「職場の雰囲気・環境が悪い」「職場での人間関係」は、20歳代から50歳代で高く、なかでも女性25～29歳では、いずれも約3割となっています。55～59歳から65歳代以上では「その他」が多くなりますが、内容としては年齢や定年によるものとなっています。

単位：%

		(回答者数)	疲労による身体的負担(勤務時間や通勤時間が長い)	職場の雰囲気・環境が悪い	職場での人間関係	充実感・満足感が得られない	休みがとりにくい	育児との両立が困難	家事をする時間がとれない	趣味等の時間がとれない	新型コロナウイルスの影響(解雇、業績悪化)	介護・看護との両立が困難	育児・介護休業等の制度が整っていない	その他	特にない・わからない	無回答	
性別	男性	291	6.2	4.5	3.8	3.4	1.7	1.7	0.3	2.1	0.7	0.7	0.3	5.5	6.9	77.7	
	女性	419	11.9	11.2	9.8	4.1	5.0	3.6	4.3	3.1	1.9	1.4	1.7	6.0	2.1	72.1	
性・年齢別	男性	18~19歳	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	93.8
		20~24歳	12	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	83.3
		25~29歳	19	5.3	10.5	15.8	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	68.4
		30~34歳	20	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	80.0
		35~39歳	29	13.8	3.4	3.4	3.4	0.0	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	82.8
		40~44歳	19	15.8	15.8	5.3	10.5	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	84.2
		45~49歳	36	2.8	2.8	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0	2.8	8.3	83.3
		50~54歳	38	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	5.3	10.5	81.6
		55~59歳	33	3.0	0.0	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	75.8
	60~64歳	31	9.7	9.7	3.2	9.7	6.5	0.0	3.2	6.5	0.0	3.2	0.0	19.4	3.2	61.3	
	65歳以上	38	7.9	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	10.5	7.9	71.1	
	女性	18~19歳	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		20~24歳	24	0.0	4.2	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	91.7
		25~29歳	41	29.3	31.7	31.7	17.1	19.5	4.9	9.8	7.3	0.0	4.9	2.4	4.9	2.4	48.8
		30~34歳	31	12.9	12.9	12.9	3.2	3.2	3.2	3.2	6.5	0.0	0.0	0.0	3.2	9.7	61.3
		35~39歳	41	14.6	7.3	0.0	2.4	7.3	14.6	2.4	4.9	9.8	0.0	2.4	9.8	0.0	65.9
		40~44歳	43	14.0	14.0	9.3	2.3	4.7	7.0	7.0	4.7	0.0	4.7	4.7	4.7	0.0	76.7
		45~49歳	42	14.3	11.9	11.9	2.4	2.4	4.8	7.1	2.4	2.4	0.0	2.4	4.8	0.0	66.7
		50~54歳	53	15.1	15.1	15.1	3.8	7.5	1.9	9.4	1.9	1.9	1.9	3.8	1.9	0.0	75.5
55~59歳		48	8.3	6.3	4.2	0.0	2.1	0.0	2.1	2.1	2.1	2.1	0.0	10.4	2.1	75.0	
60~64歳	39	2.6	5.1	2.6	5.1	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	10.3	2.6	82.1		
65歳以上	44	6.8	4.5	6.8	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	9.1	4.5	72.7		

(5) 職場での問題の有無

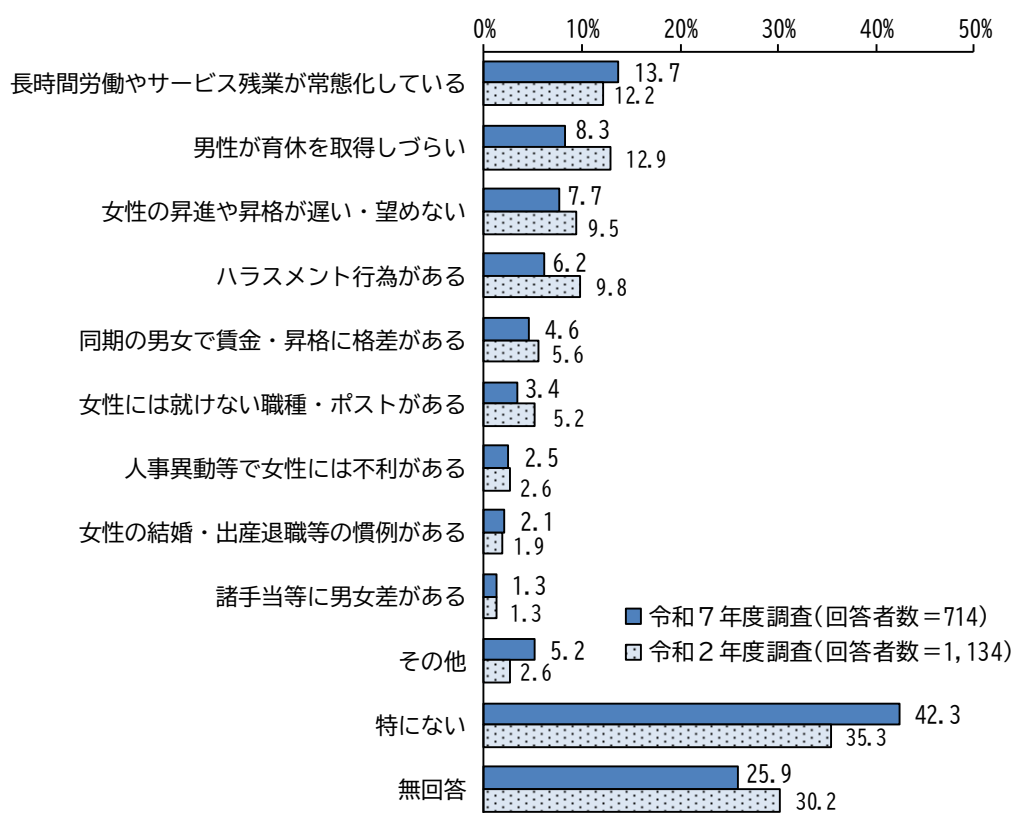
問16 現在、働いている方のみお答えください

あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか（○はいくつでも）

「長時間労働やサービス残業が常態化している」13.7%が最も高く、次いで「男性が育休を取得しづらい」8.3%、「女性の昇進や昇格が遅い・望めない」7.7%、「ハラスメント行為がある」6.2%、「同期の男女で賃金・昇格に格差がある」4.6%などとなっています。「特にない」は42.3%です。

【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、多くの項目で今回調査の方が割合が低く、「特にない」が増えています。また、「長時間労働やサービス残業が常態化している」はやや増えています。



※令和2年度調査には、「定年に男女差がある」0.2%、「一定年齢の女性に対する退職圧力がある」1.0%の選択肢あり。

【性別】

男女いずれも「特にない」が最も高くなっています。「男性が育休を取得しづらい」は男性が女性を大きく上回ります。

【性・年齢別】

他の性・年齢と比較して割合が高いのは、男性25～29歳、20～34歳、45～49歳で「長時間労働やサービス残業が常態化している」、男性25～29歳、35～39歳、40～44歳で「男性が育休を取得しづらい」、女性35～39歳で「女性の昇進や昇格が遅い・望めない」となっています。

単位：％

		(回答者数)	長時間労働やサービス残業が常態化している	男性が育休を取得しづらい	女性の昇進や昇格が遅い・望めない	ハラスメント行為がある	同期の男女で賃金・昇格に格差がある	女性には就けない職種・ポストがある	人事異動等で女性には不利がある	女性の結婚・出産退職等の慣例がある	諸手当等に男女差がある	その他	特にない	無回答	
性別	男性	291	15.5	13.4	6.9	5.5	4.1	5.5	3.1	1.4	1.0	4.8	46.4	18.2	
	女性	419	12.6	4.8	8.4	6.4	5.0	1.9	2.1	2.6	1.4	5.5	39.9	30.8	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.3	68.8
		20～24歳	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	41.7	58.3
		25～29歳	19	36.8	21.1	0.0	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0	10.5	5.3	47.4	0.0
		30～34歳	20	25.0	15.0	5.0	10.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0	55.0	10.0
		35～39歳	29	17.2	27.6	13.8	6.9	3.4	13.8	3.4	0.0	0.0	6.9	48.3	6.9
		40～44歳	19	15.8	21.1	5.3	10.5	5.3	10.5	5.3	0.0	0.0	5.3	42.1	10.5
		45～49歳	36	27.8	16.7	8.3	8.3	8.3	2.8	2.8	2.8	0.0	5.6	41.7	8.3
		50～54歳	38	18.4	18.4	5.3	2.6	7.9	5.3	2.6	0.0	0.0	7.9	57.9	0.0
		55～59歳	33	15.2	12.1	9.1	3.0	0.0	9.1	6.1	3.0	0.0	3.0	54.5	12.1
		60～64歳	31	6.5	9.7	16.1	6.5	3.2	9.7	3.2	3.2	3.2	6.5	45.2	12.9
	65歳以上	38	2.6	0.0	2.6	5.3	2.6	0.0	2.6	2.6	0.0	2.6	36.8	47.4	
	女性	18～19歳	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	84.6
		20～24歳	24	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	29.2	45.8
		25～29歳	41	19.5	9.8	4.9	7.3	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	4.9	48.8	12.2
		30～34歳	31	19.4	16.1	6.5	3.2	6.5	0.0	3.2	6.5	0.0	3.2	54.8	16.1
		35～39歳	41	19.5	9.8	22.0	7.3	9.8	4.9	2.4	9.8	2.4	9.8	26.8	29.3
		40～44歳	43	11.6	14.0	9.3	7.0	4.7	7.0	4.7	0.0	0.0	11.6	37.2	18.6
		45～49歳	42	11.9	2.4	16.7	11.9	7.1	4.8	4.8	7.1	9.5	9.5	45.2	16.7
		50～54歳	53	17.0	0.0	11.3	11.3	7.5	1.9	3.8	1.9	1.9	1.9	37.7	28.3
		55～59歳	48	10.4	0.0	4.2	2.1	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.9	33.3
60～64歳		39	7.7	0.0	5.1	7.7	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	5.1	38.5	41.0	
65歳以上	44	2.3	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	38.6	52.3		

4 子どもへの男女共同参画教育について

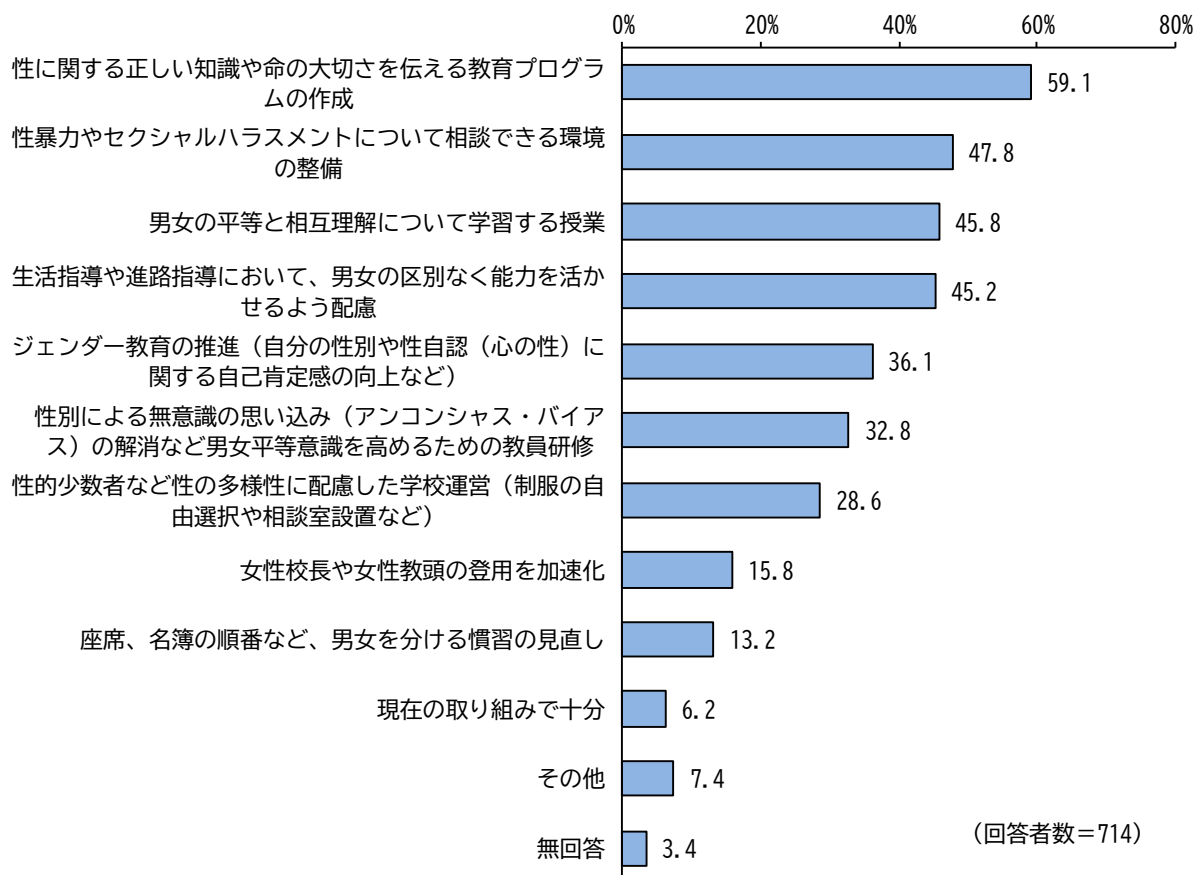
(1) 学校教育で力を入れるべきこと

問17 学校教育（小・中学校）で、どのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか（〇はいくつでも）

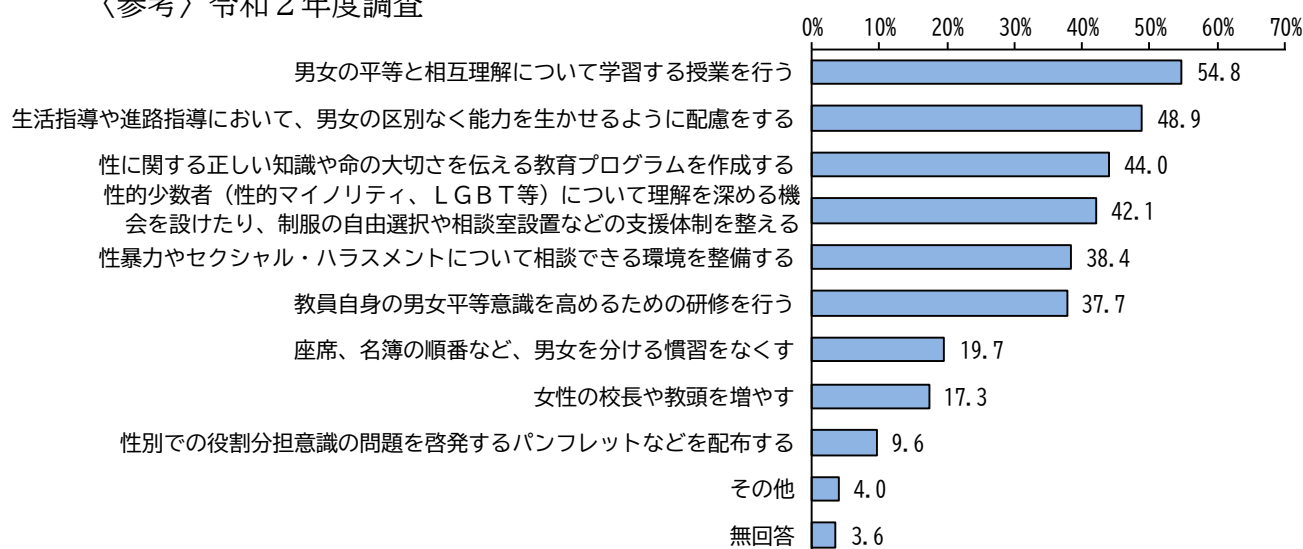
「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムの作成」59.1%が最も高く、次いで「性暴力やセクシャルハラスメントについて相談できる環境の整備」47.8%、「男女の平等と相互理解について学習する授業」45.8%、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮」45.2%、「ジェンダー教育の推進（自分の性別や性自認（心の性）に関する自己肯定感の向上など）」36.1%、「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消など男女平等意識を高めるための教員研修」32.8%などとなっています。

【経年比較】

令和2年度調査とは、項目が異なるため単純な比較はできませんが、「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムの作成」「性暴力やセクシャルハラスメントについて相談できる環境の整備」の割合は高くなり、「男女の平等と相互理解について学習する授業」は低くなっています。



〈参考〉令和2年度調査



【性別】

男女とも、「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムの作成」が最も高くなっています。女性の割合が高い項目が多く、「ジェンダー教育の推進」は約10ポイントの差となっています。

【性・年齢別】

多くの性・年齢で、「性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムの作成」が最も高くなっています。男性20～24歳と40～44歳では「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮」、男性25～29歳、50～54歳、65歳以上では「男女の平等と相互理解について学習する授業」、女性18～19歳、65歳以上では「性暴力やセクシャルハラスメントについて相談できる環境の整備」が最も高くなっています。

		(回答者数)	性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムの作成	性暴力やセクシャルハラスメントについて相談できる環境の整備	男女の平等と相互理解について学習する授業	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮	ジェンダー教育の推進	性別による無意識の思い込みの解消など男女平等意識を高めるための教員研修	性的少数者など性の多様性に配慮した学校運営	女性校長や女性教頭の登用を加速化	座席、名簿の順番など、男女を分ける慣習の見直し	現在の取り組みで十分	その他	無回答	
性別	男性	291	54.3	43.6	46.4	43.0	30.2	32.3	24.1	14.4	11.3	7.2	12.7	2.7	
	女性	419	62.5	50.6	45.6	47.3	40.1	33.2	31.7	16.7	14.3	5.3	3.8	3.8	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	68.8	56.3	62.5	43.8	43.8	62.5	43.8	18.8	6.3	6.3	0.0	0.0
		20～24歳	12	25.0	25.0	41.7	50.0	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0
		25～29歳	19	52.6	31.6	52.6	42.1	36.8	31.6	21.1	10.5	5.3	5.3	5.3	0.0
		30～34歳	20	55.0	40.0	40.0	35.0	10.0	20.0	20.0	5.0	5.0	5.0	15.0	5.0
		35～39歳	29	62.1	51.7	31.0	48.3	31.0	27.6	37.9	17.2	10.3	13.8	17.2	0.0
		40～44歳	19	73.7	47.4	68.4	73.7	47.4	42.1	36.8	10.5	10.5	0.0	15.8	0.0
		45～49歳	36	41.7	30.6	36.1	22.2	25.0	22.2	8.3	8.3	8.3	8.3	19.4	8.3
		50～54歳	38	44.7	39.5	44.7	36.8	23.7	23.7	13.2	18.4	13.2	13.2	18.4	0.0
		55～59歳	33	54.5	51.5	51.5	39.4	36.4	30.3	30.3	15.2	15.2	0.0	15.2	3.0
		60～64歳	31	71.0	51.6	41.9	51.6	35.5	48.4	35.5	9.7	12.9	3.2	6.5	3.2
	65歳以上	38	50.0	47.4	52.6	47.4	31.6	39.5	18.4	26.3	21.1	7.9	7.9	5.3	
	女性	18～19歳	13	46.2	53.8	30.8	38.5	38.5	23.1	30.8	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0
		20～24歳	24	83.3	54.2	50.0	45.8	54.2	33.3	37.5	12.5	12.5	4.2	0.0	0.0
		25～29歳	41	73.2	56.1	34.1	48.8	48.8	39.0	46.3	24.4	12.2	4.9	0.0	0.0
		30～34歳	31	77.4	54.8	54.8	51.6	45.2	48.4	35.5	16.1	16.1	3.2	6.5	3.2
		35～39歳	41	75.6	53.7	51.2	48.8	48.8	46.3	36.6	22.0	24.4	2.4	7.3	2.4
		40～44歳	43	62.8	48.8	41.9	44.2	51.2	37.2	37.2	25.6	11.6	7.0	0.0	2.3
		45～49歳	42	45.2	38.1	38.1	33.3	23.8	26.2	16.7	2.4	9.5	11.9	7.1	4.8
		50～54歳	53	54.7	52.8	50.9	43.4	49.1	35.8	32.1	22.6	24.5	5.7	3.8	3.8
		55～59歳	48	62.5	43.8	37.5	56.3	25.0	27.1	25.0	12.5	4.2	4.2	2.1	4.2
60～64歳		39	71.8	59.0	61.5	61.5	43.6	23.1	33.3	7.7	12.8	2.6	7.7	5.1	
65歳以上	44	40.9	47.7	45.5	43.2	20.5	22.7	22.7	18.2	15.9	6.8	2.3	11.4		

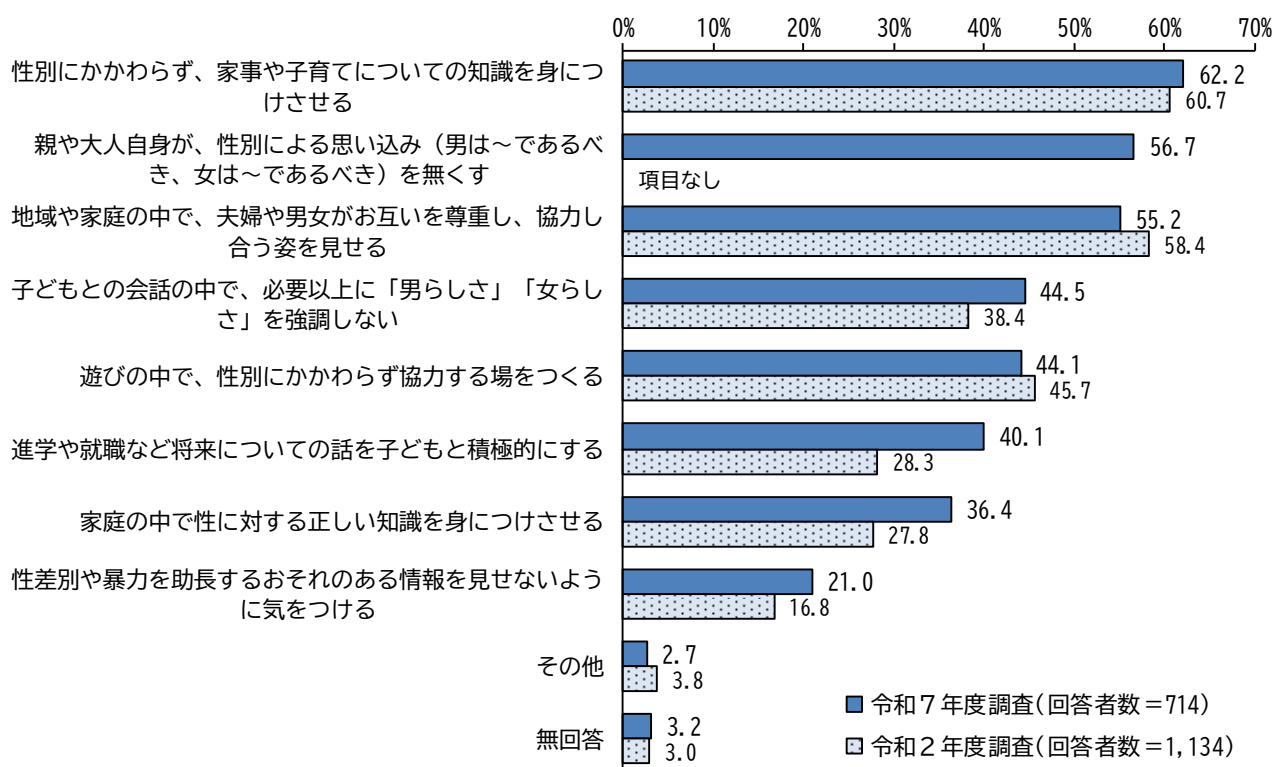
(2) 子どもたちが性別差別意識を持たないために大人が心がけること

問18 子どもたちが性別による差別意識を持たないために、親や大人はどのようなことを心がけるべきだと思いますか（〇はいくつでも）

「性別にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」62.2%が最も高く、次いで「親や大人自身が、性別による思い込み（男は～であるべき、女は～であるべき）を無くす」56.7%、「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる」55.2%、「子どもとの会話の中で、必要以上に「男らしさ」「女らしさ」を強調しない」44.5%、「遊びの中で、性別にかかわらず協力する場をつくる」44.1%などとなっています。

【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「進学や就職など将来についての話を子どもと積極的にする」「家庭の中で性に対する正しい知識を身につけさせる」は令和2年度調査を大きく上回ります。



【性別】

男性は「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる」、女性は「性別にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」が最も高くなっています。「進学や就職など将来についての話を子どもと積極的にする」を除いた項目で、女性の方が高くなっています。

【性・年齢別】

上位はいずれの性・年齢も、「性別にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」「親や大人自身が、性別による思い込み(男は～であるべき、女は～であるべき)を無くす」「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる」となっています。「子どもとの会話の中で、必要以上に「男らしさ」「女らしさ」を強調しない」は若い年齢ほど高くなっています。

単位：%

		(回答者数)	性別にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる	親や大人自身が、性別による思い込みを無くす	地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる	子どもとの会話の中で、必要以上に「男らしさ」「女らしさ」を強調しない	遊びの中で、性別にかかわらず協力する場をつくる	進学や就職など将来についての話を子どもと積極的にする	家庭の中で性に対する正しい知識を身につけさせる	性差別や暴力を助長するおそれのある情報を見せないように気をつける	その他	無回答	
性別	男性	291	52.6	49.5	54.3	36.1	40.2	42.6	33.7	17.2	4.5	4.8	
	女性	419	69.2	61.6	55.6	50.4	46.8	38.2	38.4	23.9	1.4	2.1	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	68.8	62.5	68.8	43.8	62.5	56.3	62.5	31.3	0.0	0.0
		20～24歳	12	41.7	50.0	16.7	41.7	41.7	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0
		25～29歳	19	57.9	31.6	63.2	52.6	47.4	47.4	26.3	26.3	0.0	0.0
		30～34歳	20	65.0	55.0	55.0	30.0	45.0	30.0	40.0	0.0	5.0	5.0
		35～39歳	29	62.1	37.9	44.8	41.4	41.4	55.2	48.3	20.7	6.9	3.4
		40～44歳	19	63.2	57.9	63.2	47.4	47.4	42.1	52.6	26.3	5.3	0.0
		45～49歳	36	52.8	50.0	52.8	30.6	38.9	27.8	27.8	16.7	5.6	11.1
		50～54歳	38	42.1	47.4	57.9	28.9	34.2	39.5	23.7	18.4	7.9	0.0
		55～59歳	33	45.5	42.4	57.6	30.3	30.3	51.5	27.3	12.1	6.1	12.1
		60～64歳	31	54.8	64.5	48.4	22.6	41.9	38.7	32.3	12.9	3.2	0.0
		65歳以上	38	42.1	50.0	57.9	44.7	34.2	47.4	28.9	18.4	2.6	10.5
	女性	18～19歳	13	61.5	76.9	23.1	61.5	46.2	23.1	30.8	7.7	0.0	0.0
		20～24歳	24	70.8	70.8	54.2	62.5	62.5	50.0	33.3	20.8	0.0	0.0
		25～29歳	41	70.7	65.9	63.4	68.3	58.5	41.5	53.7	29.3	0.0	0.0
		30～34歳	31	67.7	71.0	51.6	51.6	54.8	45.2	51.6	32.3	0.0	3.2
		35～39歳	41	90.2	70.7	68.3	70.7	56.1	51.2	65.9	31.7	2.4	0.0
		40～44歳	43	69.8	65.1	51.2	62.8	39.5	34.9	41.9	25.6	2.3	0.0
		45～49歳	42	66.7	52.4	42.9	35.7	35.7	47.6	26.2	23.8	4.8	2.4
		50～54歳	53	64.2	67.9	50.9	43.4	47.2	32.1	35.8	18.9	1.9	3.8
55～59歳	48	66.7	45.8	60.4	31.3	37.5	37.5	31.3	14.6	2.1	4.2		
60～64歳	39	64.1	51.3	66.7	33.3	51.3	38.5	28.2	38.5	0.0	2.6		
65歳以上	44	65.9	56.8	56.8	50.0	36.4	18.2	22.7	13.6	0.0	4.5		

(3) 学校でのジェンダー教育について

問19 ジェンダー教育（自分の性別や性自認（心の性）に関する自己肯定感の向上などが学校で行われることについて、どのように感じますか

ジェンダー教育が学校で行われることについて訊ねたところ、369件の意見がありました。そのうち肯定的な「必要（賛成）」は300件、否定的な「不要（反対）」は38件、「どちらとも言えない」が32件、「わからない」が14件、「特にない・その他」が12件となっています。

以下に「必要（賛成）」、「不要（反対）」、「どちらとも言えない」の主な意見を記載します。

【必要（賛成）】

回答内容	性別	年齢
若いうちから自分のことについて知る機会をつくることは、今後の生き方にも関係するので大切だと思う。	男性	18～19歳
多様性の社会なので、学校でジェンダー教育することは良いことだと思う。	女性	18～19歳
そういった教育は、性自認について悩む人たちに社会に参画することへの自信や安心感を身につけさせる事に繋がるので、とても良い事だと思っています	男性	18～19歳
良いと思う。幼い頃から教育をすることにより、理解できる人が増え、生きやすくなると思う。	女性	20～24歳
歳をとるにつれ理解が深まるので学生の頃から知識をつけるのは良い事だと思います。	女性	20～24歳
誰かに相談しにくいことだし、ジェンダーで悩む子供が以前より少しでも減りそうだと感じる	女性	20～24歳
小さいうちに学ばば、将来仕事や趣味など、好きなものを選べる幅が広がると思うのでとても良いと思う。	女性	25～29歳
取り入れると非常に有望だと感じます。これからの教育では、こうであるべきからこれも一つの考え方、多様性を子供達へアピールし、より広い視野で物事をとらえる力を養う事は、大事だと感じています。	男性	25～29歳
私の時代は「入り」の時だったので、世間との乖離を感じたが、今は当たり前的事案である為、そういったカリキュラムがあることは大変望ましい。	男性	25～29歳
様々な特性を持った人たちが、自分らしく生きていくことができるようになっていくと思う。	女性	25～29歳
現代は、性的少数者も多いと思うので、そのような教育で学べるのは良い機会だと思う。	女性	25～29歳

外国のジェンダー教育と比べると、まだまだ意識が低いと思うので、保健体育の中の少しの時間、男女を分けてでじゃなく、しっかり時間を取って実施してほしい。	女性	25～29 歳
自他を理解するうえで必要な時間だと感じる。ただ、知識として知るだけではなく、当事者の生きにくさなどの実体験も含めて知る機会が設定できるとよいと思う。	女性	25～29 歳
悪くないと思うが、いじめなどにつながらないように注意はすべきだと思う。	男性	30～34 歳
マイノリティへの理解を深めることは大切だと思う。ただ、それがいじめにつながらないように細心の注意を払うべきだとも思う。	男性	30～34 歳
良い事です。ジェンダー関係なく正しい事に対して自信を持ってない新入社員が多いので、教育段階で改善してほしいです。	男性	30～34 歳
良いと思う。はじめから、制服でのズボンを女児も選べるようにしたらジェンダーとしても、防寒としても良いのでは。	女性	30～34 歳
子供が柔軟な考え方もつきっかけになると思う。知識として必要。ただ、教え方も大事だと思う。	女性	30～34 歳
学び、それを前提にしつつより良い社会に出来るように発展応用出来る機会があると良いと思います。より良い社会の具体像はつかめていませんが。	男性	30～34 歳
良いと思います。少しでも知識として持っておくことが、性的少数者への理解への一歩になると思います。	男性	30～34 歳
賛成。性自認が人により異なることや、性別の違いよる問題、相互の理解が不足しやすい部分を教育すべきと考える。	女性	30～34 歳
どんな事にもいい面、悪い面があるので、偏りなく教育するならいいと思う。（トランスジェンダー女性のトイレ問題やスポーツ大会への女性選手としての参加問題など）	男性	30～34 歳
とても大切なことだと思う。児童生徒の視野や考え方を広げられるきっかけになる。	女性	30～34 歳
性別にかかわらず様々な生き方を学べることは、社会での様々な生き方の選択、受容に役立つ。	女性	35～39 歳
性的少数者がいるということ（身近に）を知って、普段から接していることで差別的な見方をする人が少なくなればいいと思います。	男性	35～39 歳
知識をもつ事で考えの視野が広がる事は良いと思います。ただ、性別等関係なく「人」として協調性や思いやり、個人を尊重する、良い事と悪い事、礼儀正しさ等をしっかり学んで頂きたいです。	女性	35～39 歳
自分で教える（伝える？）ことがむずかしい内容と感じるので、専門の方や勉強されている方々から子ども達に教えることができるのは良いと思う。	女性	35～39 歳

自分は大学でジェンダー論を学んだので、今時は小学校でもやるんだなあという感想を持った。性に関することは、どの分野・領域で、どういう立場で論ずるかによって見解が分かれる非常にセンシティブなことなので、義務教育レベルでは教師個人の思想が入らないように注意して欲しい。各家庭に教育した内容の共有が必要だと思う。	男性	35～39 歳
性の多様性を知ることによって受け入れ、差別意識を無くす、持たせないようにするにはいいことだと思います。また、悩んでいる当事者にとっても自己肯定感を向上できればいいことだと思います。	女性	35～39 歳
教育自体は良い事だと思いますが、教える人によっては片寄ったものになりそうなので、1人からではなく複数人から考えを聞く形だと良いのかと…	女性	40～44 歳
なかなか家庭内で話し合えていないテーマなので学校で正しい知識をきくことは良いと思う。	女性	40～44 歳
今はメディアや SNS 等で調べれば何でもわかる時代になってきてます。その調べた事がいよいよさらに詳しい事柄を学校の授業で学べるといいと思います。	女性	40～44 歳
必要なことだと思いますが、知識の深い人（一般の教師ではなく）が行う方が良いと感じました	男性	40～44 歳
スクールカウンセラーなどの専門家の方々に積極的に関わって頂けたらと思います。	女性	40～44 歳
教育が行われるのは良いが、教師側が表面上だけでなくジェンダー問題に対してどれだけ理解しているかがまず重要だと思う。	女性	40～44 歳
必要なことだと思う。男女関係なく自分らしさ、アイデンティティを大切にできるよう、ジェンダー教育をしてほしい。	女性	45～49 歳
今の社会通念では必要な事なので、小さいうちから学んでほしい	女性	45～49 歳
学校で話してくれることはいいことだと思う。中学生位で教えてもらえるといいと思う。	女性	45～49 歳
男女平等がさげばれていますが、身体的特徴もあるので、すべてが同じではないと考えます。ジェンダー教育や正しい理解は必要だと思います。	男性	45～49 歳
いいと思う。ジェンダー教育が進んでいるにもかかわらず、他の規則みたいなことが、全く進んでなく、もっとじゅうなん性が必要だと思う。	女性	45～49 歳
良いと思います。特別な授業としてではなく、道徳などと同様に価値観の多様性を受容する力をのばす事に資するものと考えます。	女性	45～49 歳
私達世代では行われなかった事なので、どのような教育をされるのか分からないですが、自己肯定感の向上は、どんな子にも教育されたら良いと思う。	女性	45～49 歳

TVでも大人になってから伝える方が増えているので、その前の段階から例えば制服も高校からスカート、ズボンが選べるのではなく、小・中学校からスカート、ズボンが選べるといいと思います。	女性	45～49歳
とても良い取り組みだと思うが、男女や性別とか関係なく、自分とは違っていたり人が大切にしている事を馬鹿にしたり排除したりしないように教育していく事が大事だと思います。	女性	45～49歳
なかなか学ぶ機会が少ないので良いと思います。自分以外の人はどう考え感じたりしているんだと他人を知る機会になり、知る人が多くなると、お互いさまの心がある優しい社会に近づけられて良いと思います。	女性	45～49歳
心の性と肉体の性との乖離に苦しむ子供が少しでも救われるのであれば有意義な試みだと考えます。ただその苦しみは個人により千差万別であり非常に難解なはずです。実行されるジェンダー教育が一義的で視座の低いものにならないよう注意する必要があるかと思われます。学校で行われるジェンダー教育が、子供一人一人と向き合う心の支えであればと願うばかりです。	男性	45～49歳
よいと思う。でも学習を始める年齢や内容、強調しすぎることは気をつけないといけない。どの性別の人でも特別なわけではなく、同じように大切にしよう、人権教育の意識を持ってもらいたい。	女性	45～49歳
色々な人がいるので差別しない世の中になってほしい。	女性	50～54歳
誰もが知識としてもっておくことは必要だと思う。そのためにも学校で行うことはとても重要だと思う。	女性	50～54歳
現在ほとんどの学校で女子でもスラックスの制服を選ぶことができる。逆のパターンを聞いたことがないが、おそらく男子でもスカートを選ぶことができるのでは？と思う。子供達は私が考えている以上にジェンダーレスが浸透し、あたり前になっていると感じる。学校教育もよい方向で動いているのではないかな。	女性	50～54歳
とても必要を感じる。また、その授業の時間だけ考えたら終わり…ではなく、日常的に向上につながる取り組みを考えてみてほしい	女性	50～54歳
必要。だが、それ以前に教育する側の大人(教師・保護者共に)が、性的マイノリティについてきちんと理解することが大切なのでは？子どもたちの方が相互理解できているように思える。	女性	50～54歳
ジェンダー教育は大切だと思うが、強調しすぎるのは良くない。思い込みへつながるおそれがある。気軽に相談できる雰囲気や場所が必要。	女性	55～59歳
良いと思うが、間違った認識を子供が持っていないか、常にチェックする必要がある。	男性	55～59歳
学校で行われるのはとても良いと思いますが、実際に悩みを抱える子供達に寄り添えるよう、専門的な知識を持つカウンセラーが行うのが望ましいと感じます。	女性	55～59歳

まだまだ男は～あるべき、女は～あるべき、が残っているので、児童期から理解を促し尊重しあえるような教育は重要。	女性	60～64 歳
教員のレベルアップが必要だが、仕事量を減らせないと教員の意識レベルがついていけないか心配。親の関与をもっと求めるべき。	男性	60～64 歳
親も教師も勉強し、ジェンダーだけでなく、自己肯定感が向上するような教育が出来るとよい。	男性	60～64 歳
これからの世界の動きにより、相手への思いやり、批判ではなく、色々な考えがあるということを知る大切さ必要かな～と感じました。	男性	60～64 歳
指導している先生が、たいへんむずかしいと思いますが、十分に勉強して、適切な指導がされるといいと思います。	女性	65 歳以上
良いこと。教育者に専門的知識が必要	男性	65 歳以上
現代の社会では必要な事だと思う。ジェンダーで悩んでいる人がいるということを知るだけでもいいと思う。	女性	65 歳以上

【不要（反対）】

回答内容	性別	年齢
不要だと思う。理由：少数派は少数派の自覚を持った上で、配慮を求めるべき。多数派は、常識外の事例を身をもって経験することでより正しく道徳心や性別による偏見の見直しを学ぶと思う。	男性	18～19 歳
行きすぎた多様性を認めさせるような教育は好ましくないと思う	男性	18～19 歳
心の性についての教育よりも、男と女の違い（生理など）をしっかりと教育すべき。	男性	20～24 歳
実際受けたことがあるが、伝え方が最善ではない気がした。	女性	20～24 歳
ジェンダーの人々がいることへの学びは必要だと思うが、それを重要視するまではいらないと思う。世の中がそこに必要以上にスポットライトを当てすぎだと思う。	女性	25～29 歳
学校で教育としてジェンダー教育をするほどでもないのではと思う。自身を見つめ直す思春期などのタイミングで個人が改めて性自認をする時に、相談できる先（受け皿）のような場は必要だと思う。自己肯定感の向上は、ジェンダー教育というよりも個人の尊重などからくるものなのではないかと考える。	女性	25～29 歳
先生達が考えてあるであろう違和感を支持します。何かしら実践しなければならぬ場合は保健体育などの教科書に多少項目で載せるぐらいにして先生達の負担を増やさないようにしましょう。	男性	35～39 歳
こどもたちに正しく伝えられるのであればやるべきだが誤った捉え方をしてしまうような教育は不要	女性	35～39 歳
どうかと思う。性別は2種類しかないのは事実です。それ以上でも以下でもない。もし、女の子っぽい男の子がいじめにあったらきちんと	女性	40～44 歳

指導していじめをさせない事。人を否定しない事を学ばせる必要はあるが、普通という物があることを否定するのはどうかと思う。その上で普通でなくても良いこと。LGBTの子が生活しやすいのは自分を否定されない事だと思う。		
あくまでも性別は、現状体のつくりで決まっているようなもの。だからこそ、それ以外で決まる部分を尊重できるよう、教育は行われるのが望ましいのではないかと考える。	女性	40～44歳
現状は「こうすべき」という理想の教育体形や教育内容が世界的に定まっておらず、ジェンダー感などについても「昨今の流行り」の枠をでていない。この状況で現在の流行りの付け焼き刃の教育を行うことは子どもたちの混乱を生む可能性が高い。なので、正しい性に関する教育や、男女間の性を越えた交流ができる範囲での交流と理解、旧来の男女感にそぐわない子どもに旧来の男女感を押し付けることをしない、等といった範囲の教育で十分であると思う。	男性	40～44歳
ジェンダー教育などという一方の政治主張を行政が推進すること自体が奇怪。正気に戻ってほしい。利権も解体すべき。やりたいなら、民間が私的に自費で行えばよい。	男性	45～49歳
この質問が思い込み、言葉（ジェンダー平等）にしばられている。1人1人の人権を大切にする社会をつくれれば男女とか自認とか話題にしないで社会が回るのでは？	男性	60～64歳

【どちらとも言えない】

回答内容	性別	年齢
性自認は2択ではなく、グラデーションだと思っているが、身体的な性は2種類しかない。教育においては定義などにこだわらず、自分は自分であると思えるような内容であって欲しい。性自認：自分！	女性	25～29歳
性別とは男女 LGBTQ といった区別するために名前をつけるものではなくグラデーションのようなものだと考えている。殊更に「性別」を意識させるのではなく子供達一人一人を性別に関係なく人との違いによって仲間外れにしない等「人間」を育む教育があるべき姿と考える。	男性	25～29歳
自分は公立教員ですが、性教育については、学校では指導要領を逸脱できないため、難しいところがある。性教育講演会などを外部委託で実施はしているが、学校による差異は少なからずあると思う。	男性	25～29歳
成長期、思春期などもある時期なので、一時的なものかそうでないかの見極めも重要に感じる。過度な多様性配慮も懸念があると思う。適切な知識や大人達の認識が必要。	女性	30～34歳
ほどほどにやってほしい。女性側がトランス女性の存在を受けいれて（着替えや共同浴場などで）被害を被る事は人権侵害になる事も教えてほしい。	女性	30～34歳

教育し過ぎて、敏感になりすぎると心の体の性は合致していても“もしかしたら自分もそうかも！”と必要がない子を変に助長してしまう可能性もあるので、生きづらさや居心地の悪さがあったり、こういう人も居るんだよと言うふうに伝えて欲しいなと思います。	女性	35～39 歳
私たちの時代には、そのような教育がなかった？ような気がします。今の子どもたちにどのような課題？傾向？があり、このような教育を学校現場で教えてくれることになったのか、また実際どのような内容を教えてくださっているのかなと思いました。家庭でも共有できるとよりいいのかなと思いました。	女性	40～44 歳
答えがあることではないので、教育を受けた子ども達がそれぞれに受けとめ、感じる事が自由であってほしいと思います。～だから～しましょう、のように、その後の行動を強制するような指導にならないでほしいです。	男性	45～49 歳
心の性が、はっきり違う人には必要。曖昧な人はわかるまで放っておく方がいい。	女性	45～49 歳
指導するのが一般教員なのか、専門知識をもった外部の方なのかによっても内容や受け止め方が変わると思う。	女性	55～59 歳
理想論であるが、'男はこう、女はこうというような、ステレオタイプな概念”で個人を見なければ、すべて個性として吸収できるはず。ジェンダー教育として行うこと自体がすでにジェンダーの壁を感じている証明である。そんなことを感じない環境で育ててほしい。その上で、現実社会に存在する問題としてジェンダー問題を教えられれば理想的と思う。	男性	55～59 歳
良い取り組みだと思うが、教員自身の教育がまずなされていないとダメだと思う。	女性	65 歳以上
ひとりひとり、すべての人の考え方は違うため、クラスなどひとくくりで教育するのは、むずかしいと思う。	男性	65 歳以上

5 地域活動について

(1) 地域活動への参加

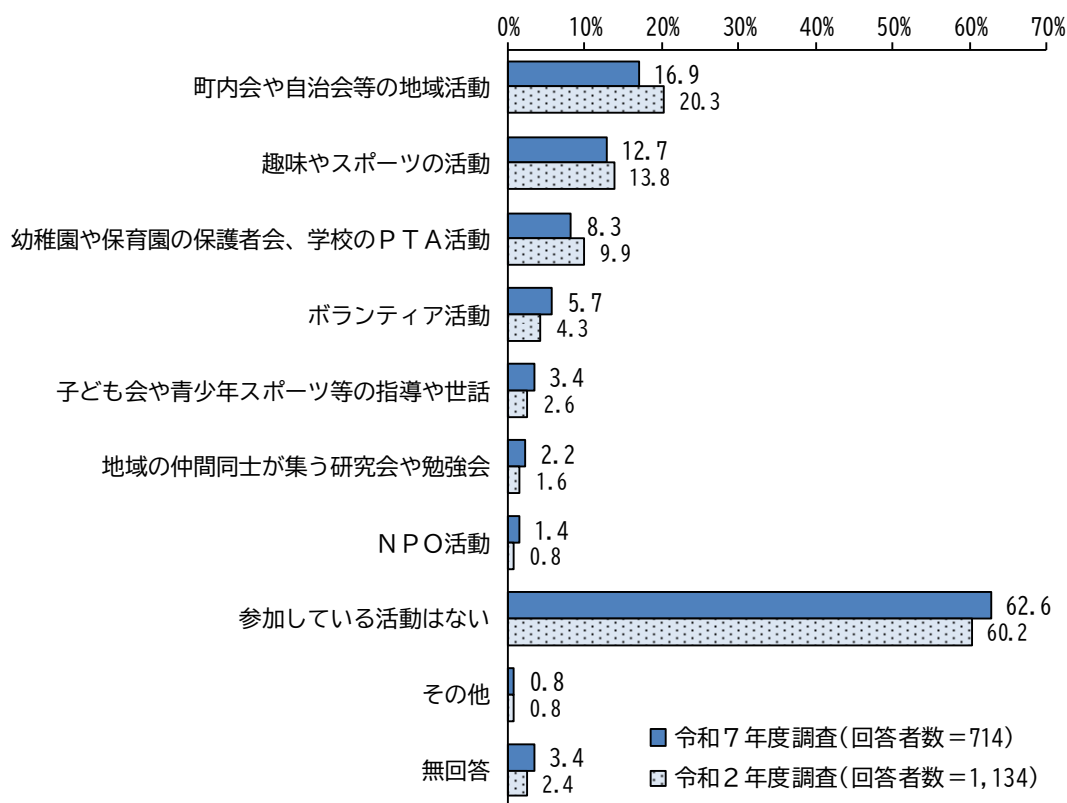
問20 次にあげる地域活動の中であなたが「現在参加している活動」と「今後参加してみたい活動」についてお答えください

①現在参加している活動

「参加している活動はない」割合が62.6%と最も高くなっています。参加しているのは「町内会や自治会等の地域活動」16.9%、「趣味やスポーツの活動」12.7%、「幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動」8.3%、「ボランティア活動」5.7%などとなっています。

【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「参加している活動はない」がやや増え、上位の「町内会や自治会等の地域活動」「趣味やスポーツの活動」「幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動」の割合は、やや減っています。



【性別】

男女とも「参加している活動はない」が最も高くなっています。男性が女性を上回るのは「町内会や自治会等の地域活動」「趣味やスポーツの活動」「ボランティア活動」など、女性が男性を上回るのは、「幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動」などとなっています。

【性・年齢別】

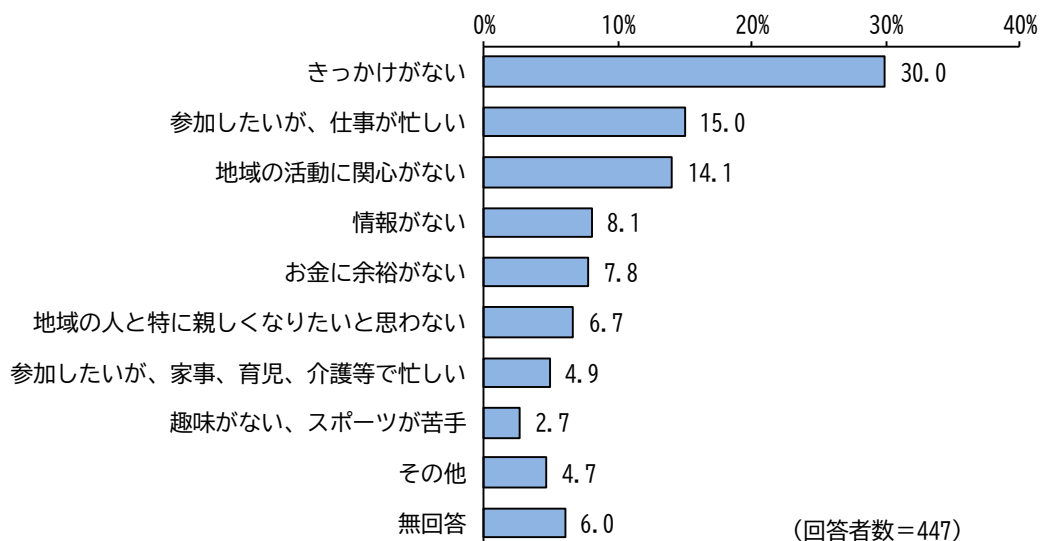
いずれの性・年齢も「参加している活動はない」が最も高くなっています。30歳代、40歳代では「幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動」が高く、年齢が上がるにつれ「町内会や自治会等の地域活動」「趣味やスポーツの活動」が高くなっています。女性の40～44歳で「子ども会や青少年スポーツ等の指導や世話」が約2割と目立ちます。

単位：%

		(回答者数)	町内会や自治会等の地域活動	趣味やスポーツの活動	幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動	ボランティア活動	子ども会や青少年スポーツ等の指導や世話	地域の仲間同士が集う研究会や勉強会	NPO活動	参加している活動はない	その他	無回答	
性別	男性	291	19.9	13.7	5.8	7.6	3.4	2.1	1.7	62.9	1.0	2.1	
	女性	419	14.8	11.9	10.0	4.5	3.3	2.4	1.2	62.5	0.7	4.1	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	12.5	18.8	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	62.5	0.0	6.3
		20～24歳	12	16.7	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0
		25～29歳	19	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	78.9	0.0	5.3
		30～34歳	20	10.0	5.0	10.0	5.0	5.0	5.0	0.0	75.0	5.0	5.0
		35～39歳	29	10.3	10.3	10.3	3.4	3.4	0.0	0.0	72.4	0.0	0.0
		40～44歳	19	5.3	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	78.9	0.0	0.0
		45～49歳	36	27.8	2.8	22.2	8.3	5.6	8.3	2.8	55.6	2.8	0.0
		50～54歳	38	23.7	15.8	7.9	10.5	2.6	2.6	0.0	57.9	0.0	0.0
		55～59歳	33	24.2	30.3	0.0	9.1	6.1	0.0	6.1	51.5	3.0	0.0
	60～64歳	31	25.8	16.1	0.0	9.7	3.2	3.2	6.5	64.5	0.0	0.0	
	65歳以上	38	31.6	18.4	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	47.4	0.0	7.9	
	女性	18～19歳	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		20～24歳	24	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	87.5	0.0	4.2
		25～29歳	41	2.4	7.3	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	90.2	0.0	0.0
		30～34歳	31	6.5	0.0	16.1	0.0	3.2	0.0	0.0	77.4	0.0	0.0
		35～39歳	41	22.0	4.9	29.3	4.9	2.4	2.4	0.0	58.5	0.0	0.0
		40～44歳	43	23.3	7.0	27.9	0.0	20.9	0.0	0.0	51.2	2.3	2.3
		45～49歳	42	7.1	14.3	21.4	2.4	0.0	0.0	0.0	54.8	0.0	7.1
		50～54歳	53	20.8	5.7	7.5	0.0	1.9	0.0	3.8	66.0	0.0	5.7
55～59歳		48	14.6	27.1	0.0	8.3	2.1	6.3	2.1	52.1	0.0	8.3	
60～64歳	39	25.6	25.6	0.0	10.3	2.6	5.1	2.6	46.2	0.0	5.1		
65歳以上	44	20.5	20.5	0.0	18.2	0.0	4.5	2.3	45.5	4.5	6.8		

②参加していない理由

「きっかけがない」30.0%が最も高く、次いで「参加したいが、仕事が忙しい」15.0%、「地域の活動に関心がない」14.1%、「情報がない」8.1%、「お金の余裕がない」7.8%などとなっています。



【性別】

男女とも「きっかけがない」が最も高くなっています。「参加したいが、仕事が忙しい」「地域の活動に関心がない」は男性に高く、「情報がない」「お金の余裕がない」「参加したいが、家事、育児、介護等で忙しい」は女性に高くなっています。

【性・年齢別】

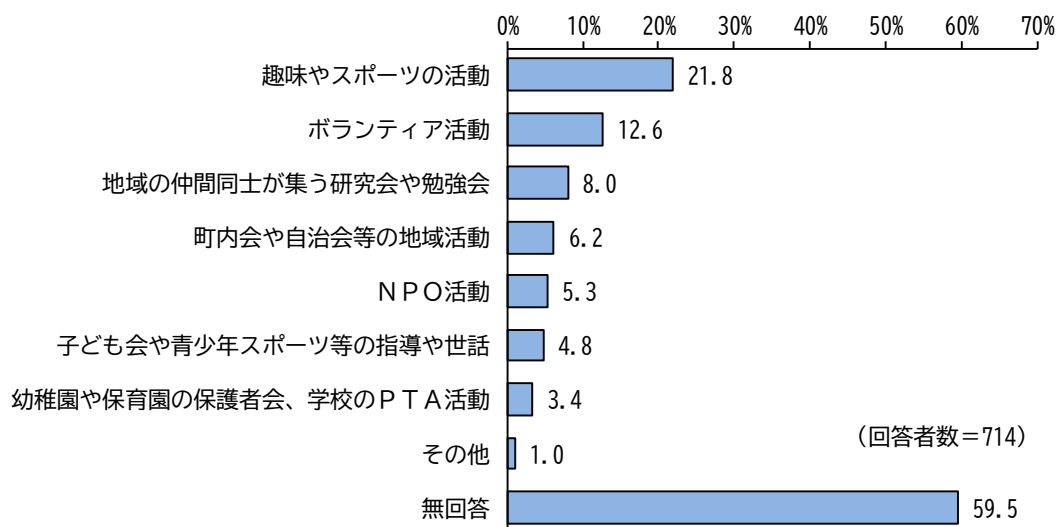
多くの年齢で「きっかけがない」が最も高くなっていますが、男性25～29歳では「地域の活動に関心がない」、男性35～39歳、55～59歳、女性35～39歳、40～44歳では「参加したいが、仕事が忙しい」が最も高くなっています。

単位：%

		(回答者数)	きっかけがない	参加したいが、仕事が忙しい	地域の活動に関心がない	情報がない	お金に余裕がない	地域の人と特に親しくなりたいと思わない	参加したいが、家事、育児、介護等で忙しい	趣味がない、スポーツが苦手	その他	無回答	
性別	男性	183	32.8	18.6	16.9	6.0	4.9	6.6	2.7	2.2	4.9	4.4	
	女性	262	27.9	12.2	12.2	9.5	9.9	6.9	6.5	3.1	4.6	7.3	
性・年齢別	男性	18～19歳	10	40.0	0.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0
		20～24歳	10	60.0	0.0	10.0	0.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		25～29歳	15	20.0	6.7	33.3	13.3	6.7	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7
		30～34歳	15	40.0	13.3	13.3	6.7	0.0	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0
		35～39歳	21	19.0	28.6	23.8	9.5	0.0	0.0	4.8	9.5	4.8	0.0
		40～44歳	15	40.0	13.3	26.7	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0
		45～49歳	20	25.0	20.0	20.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	5.0	10.0
		50～54歳	22	31.8	27.3	13.6	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5
		55～59歳	17	29.4	29.4	23.5	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0
		60～64歳	20	45.0	25.0	0.0	5.0	10.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	18	27.8	16.7	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	5.6	16.7	11.1	
	女性	18～19歳	13	38.5	0.0	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	23.1	0.0
		20～24歳	21	28.6	9.5	19.0	9.5	9.5	4.8	4.8	9.5	0.0	4.8
		25～29歳	37	35.1	8.1	18.9	8.1	8.1	8.1	5.4	0.0	2.7	5.4
		30～34歳	24	20.8	12.5	8.3	16.7	16.7	4.2	8.3	0.0	0.0	12.5
		35～39歳	24	12.5	25.0	8.3	8.3	12.5	4.2	8.3	4.2	8.3	8.3
		40～44歳	22	18.2	27.3	4.5	4.5	0.0	18.2	13.6	4.5	4.5	4.5
		45～49歳	23	30.4	4.3	8.7	8.7	13.0	13.0	8.7	0.0	4.3	8.7
		50～54歳	35	31.4	11.4	8.6	14.3	14.3	5.7	5.7	0.0	2.9	5.7
55～59歳		25	32.0	12.0	20.0	0.0	4.0	4.0	4.0	0.0	8.0	16.0	
60～64歳	18	22.2	11.1	5.6	11.1	22.2	5.6	5.6	11.1	5.6	0.0		
65歳以上	20	35.0	10.0	15.0	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	10.0		

③今後参加してみたい活動

「趣味やスポーツの活動」21.8%が最も高く、次いで「ボランティア活動」12.6%、「地域の仲間同士が集う研究会や勉強会」8.0%などであり、現在参加している活動の「町内会や自治会等の地域活動」は6.2%にとどまります。



【性別】

男女とも「趣味やスポーツの活動」が最も高くなっています。女性は「ボランティア活動」がやや高く、男性は「地域の仲間同士が集う研究会や勉強会」「町内会や自治会等の地域活動」がやや高くなっています。

【性・年齢別】

男性は、いずれの年齢も「趣味やスポーツ活動」が最も高く、50～54歳では「ボランティア活動」「町内会や自治会等の地域活動」、60～64歳では「ボランティア活動」も高くなっています。女性は20～24歳から45～49歳までと65歳以上では「趣味やスポーツ活動」、18～19歳と50～54歳から60～64歳までは「ボランティア活動」が最も高くなっています。

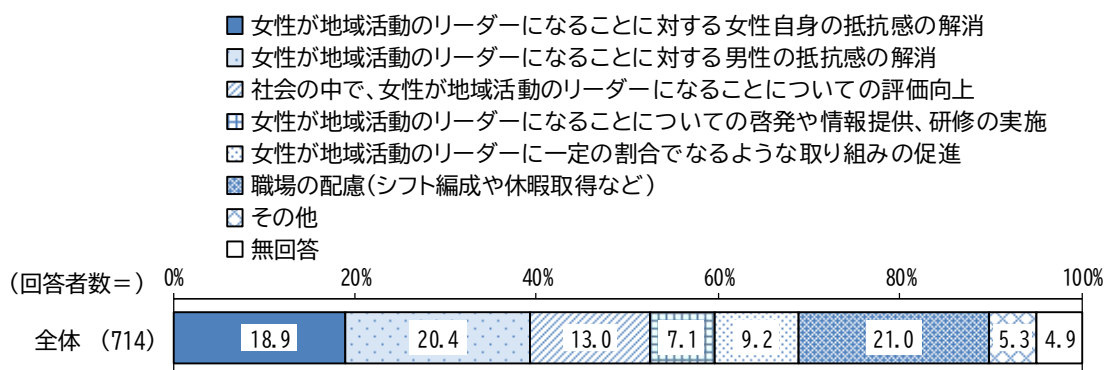
単位：%

		(回答者数)	趣味やスポーツの活動	ボランティア活動	地域の仲間同士が集う研究会や勉強会	町内会や自治会等の地域活動	NPO活動	子ども会や青少年スポーツ等の指導や世話	幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動	その他	無回答	
性別	男性	291	25.8	11.7	10.0	9.6	5.8	5.8	3.8	0.7	55.7	
	女性	419	19.1	13.4	6.7	3.8	5.0	4.1	3.1	1.2	62.1	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	50.0	6.3	12.5	18.8	0.0	25.0	12.5	0.0	37.5
		20～24歳	12	50.0	25.0	16.7	8.3	8.3	16.7	0.0	8.3	33.3
		25～29歳	19	42.1	5.3	5.3	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	47.4
		30～34歳	20	35.0	5.0	20.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	55.0
		35～39歳	29	17.2	10.3	10.3	13.8	3.4	0.0	10.3	3.4	55.2
		40～44歳	19	31.6	15.8	10.5	10.5	0.0	5.3	5.3	0.0	47.4
		45～49歳	36	19.4	5.6	2.8	8.3	5.6	11.1	8.3	0.0	58.3
		50～54歳	38	15.8	15.8	10.5	15.8	7.9	5.3	2.6	0.0	63.2
		55～59歳	33	21.2	15.2	3.0	6.1	12.1	0.0	0.0	0.0	63.6
		60～64歳	31	22.6	22.6	12.9	9.7	9.7	0.0	0.0	0.0	51.6
	65歳以上	38	21.1	5.3	13.2	7.9	2.6	5.3	0.0	0.0	65.8	
	女性	18～19歳	13	30.8	38.5	7.7	7.7	15.4	23.1	0.0	7.7	30.8
		20～24歳	24	29.2	12.5	0.0	4.2	4.2	8.3	8.3	4.2	54.2
		25～29歳	41	22.0	9.8	9.8	2.4	7.3	7.3	9.8	2.4	53.7
		30～34歳	31	22.6	12.9	6.5	6.5	9.7	3.2	3.2	0.0	64.5
		35～39歳	41	24.4	14.6	4.9	7.3	7.3	7.3	7.3	0.0	58.5
		40～44歳	43	32.6	4.7	7.0	2.3	2.3	4.7	4.7	0.0	62.8
		45～49歳	42	26.2	9.5	7.1	4.8	0.0	2.4	2.4	0.0	59.5
		50～54歳	53	9.4	13.2	7.5	5.7	5.7	0.0	0.0	1.9	60.4
		55～59歳	48	8.3	18.8	10.4	2.1	4.2	0.0	0.0	2.1	62.5
60～64歳		39	12.8	23.1	7.7	2.6	7.7	5.1	0.0	0.0	64.1	
65歳以上	44	9.1	6.8	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	86.4		

(2) 女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと

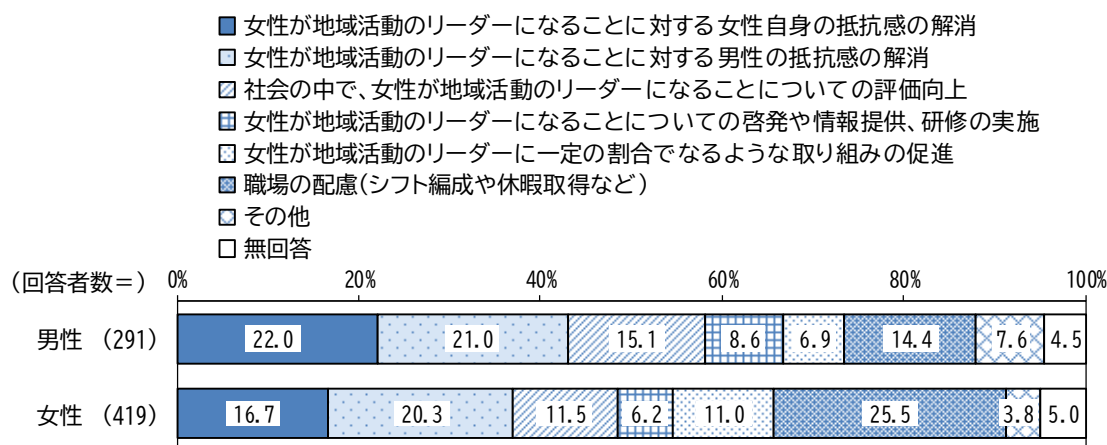
問21 あなたは、女性が地域活動（上記問20にあるような活動）のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか（○は1つ）

「職場の配慮（シフト編成や休暇取得など）」が最も高く21.0%、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感の解消」、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消」、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについての評価向上」の順となっています。



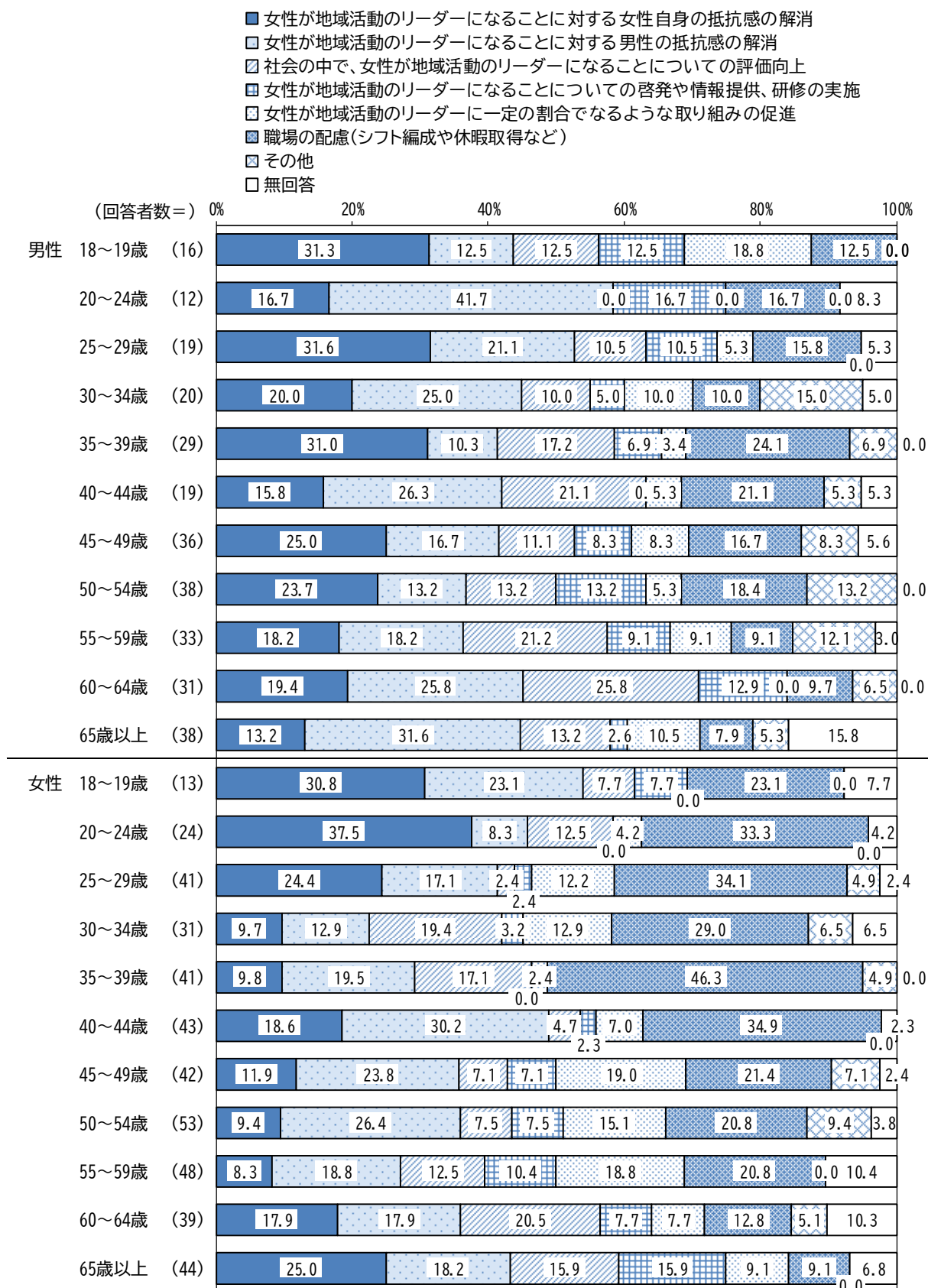
【性別】

男性は「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消」、女性は「職場の配慮（シフト編成や休暇取得など）」が最も高く、男女で差があります。



【性・年齢別】

若い年齢では「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感の解消」が高くなっています。「職場の配慮（シフト編成や休暇取得など）」は女性20歳代から40歳代で高く、なかでも35～39歳では46.3%と5割近くになっています。また、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感の解消」は男性20～24歳と65歳以上、女性40～44歳で多くなっています。

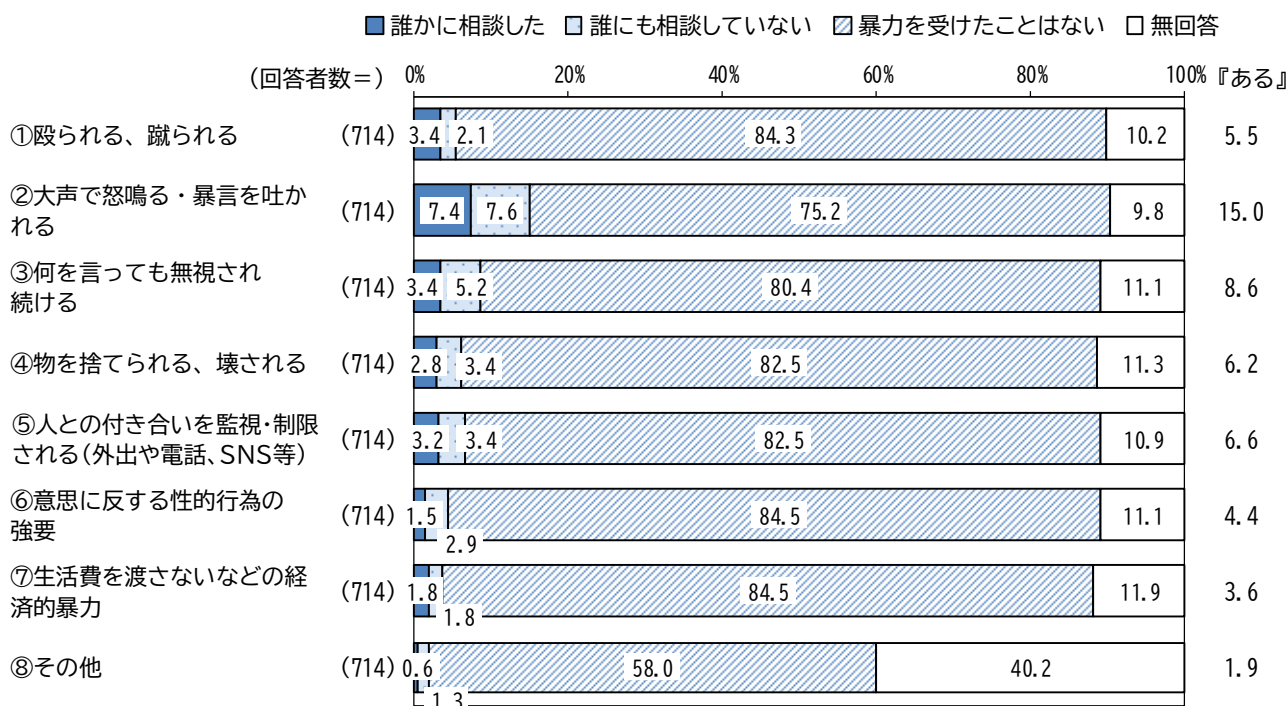


6 配偶者などからの暴力について

(1) 暴力を受けた経験の有無

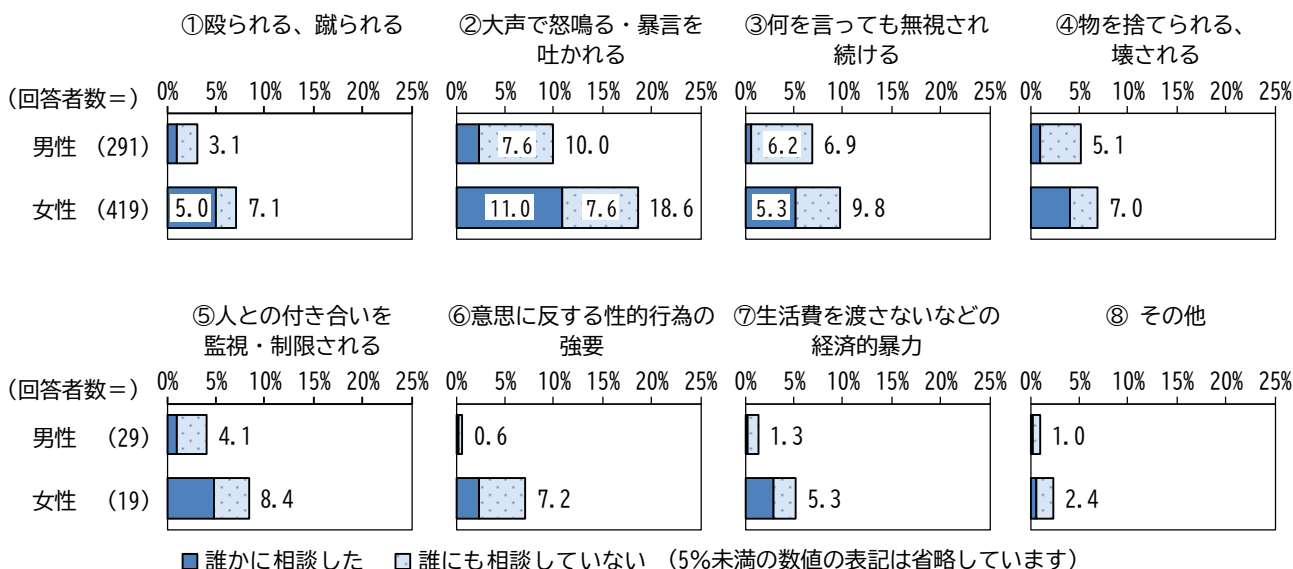
問22 配偶者など（婚姻届を出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者、交際相手も含む）から暴力を受けた経験はありますか（①～⑧について、それぞれ該当する番号に○は1つ）

暴力を受けた経験が『ある』は「大声で怒鳴る・暴言を吐かれる」15.0%が最も高く、次いで「何を言っても無視され続ける」8.6%、「人との付き合いを監視・制限される」6.6%、「物を捨てられる、壊される」6.2%などとなっています。「殴られる、蹴られる」を除いて「誰にも相談していない」が「誰かに相談した」を上回ります。



【性別】

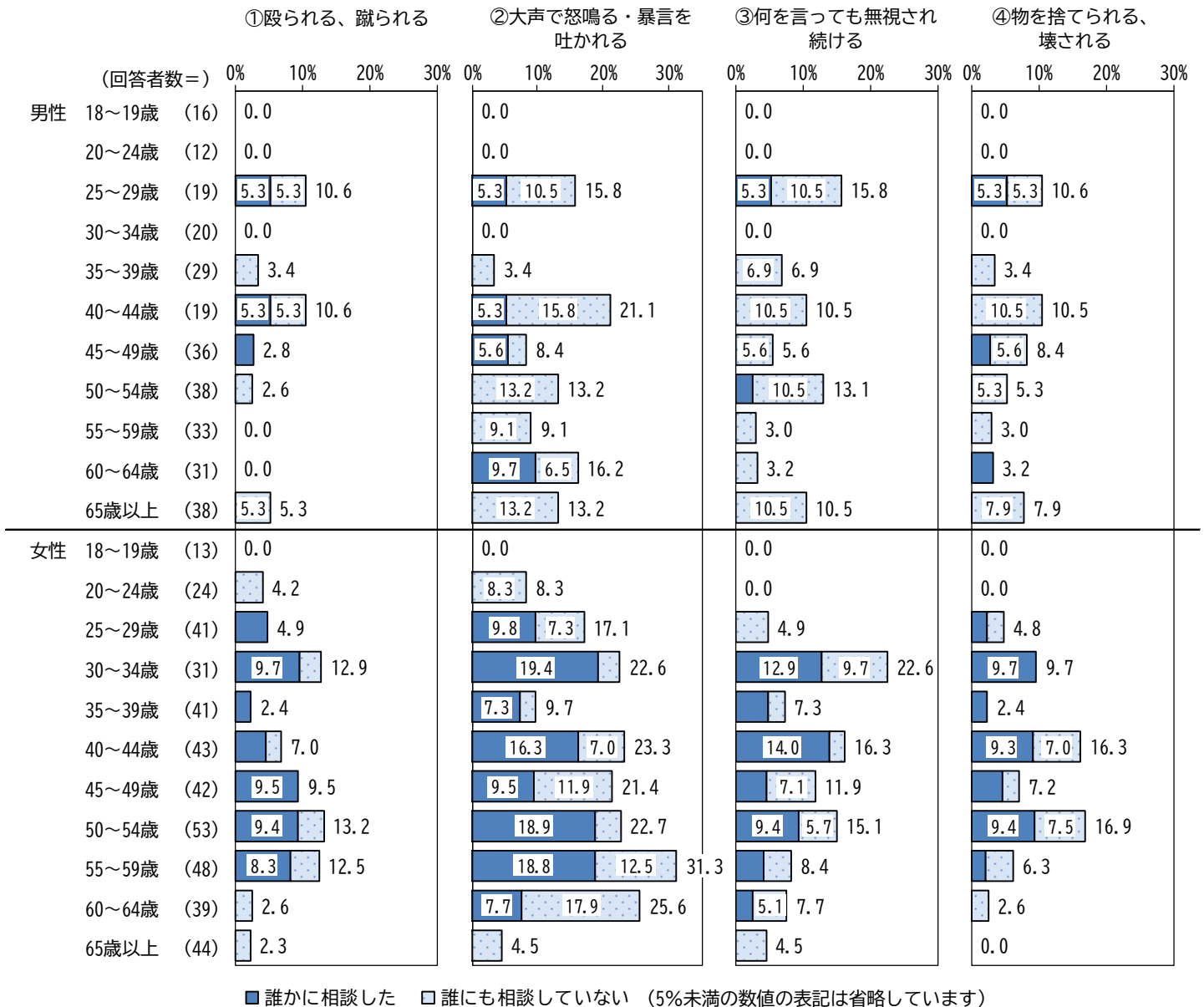
いずれの暴力も、女性の『ある』が男性を上回りますが、男性では「誰にも相談していない」割合が多くなっています。

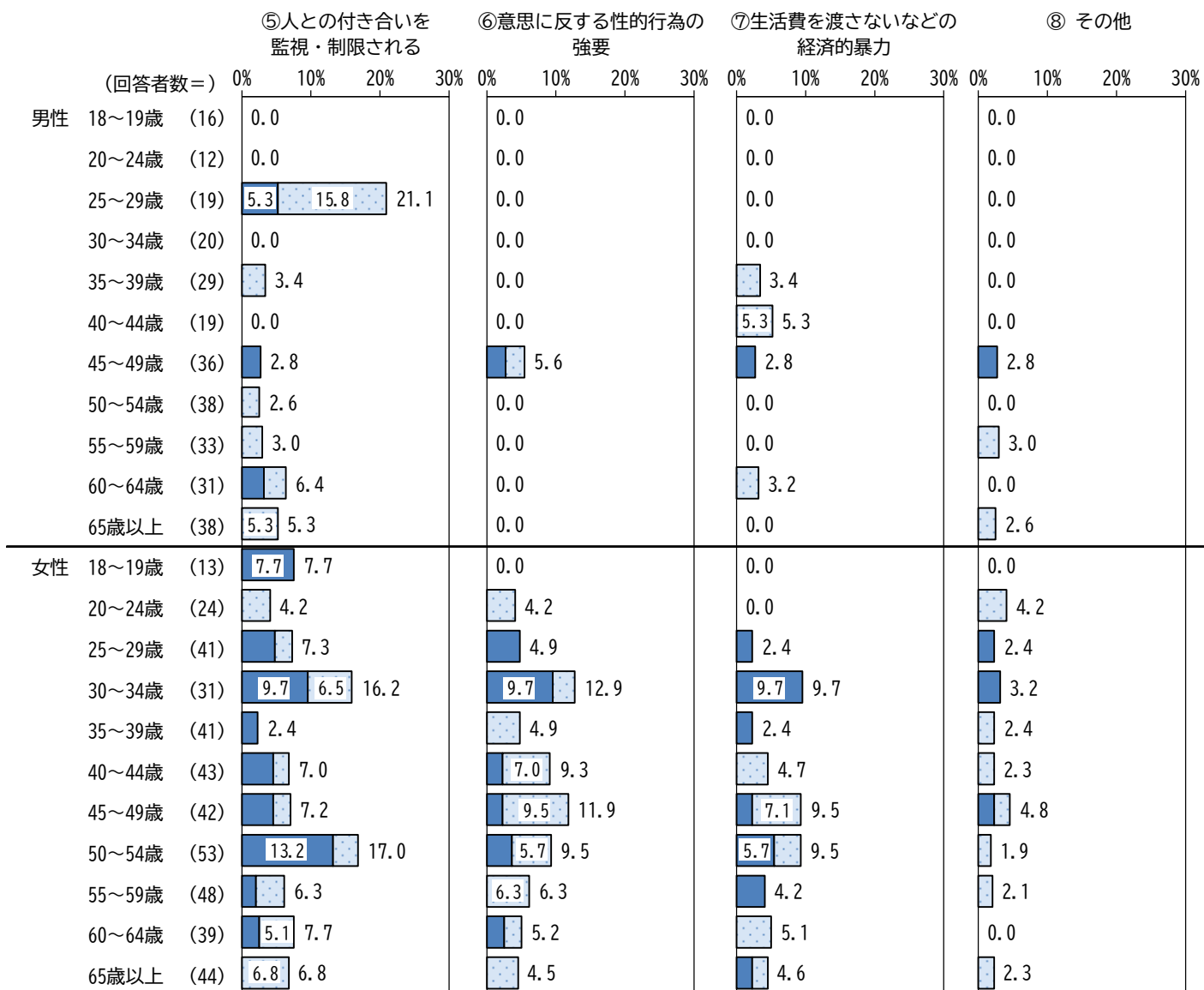


【性・年齢別】

他の年齢と比較して、いずれの暴力も『ある』の割合が高いのは、男性～29歳、40～44歳、女性30～34歳、40～44歳から55～59歳となっています。女性55～59歳では「大声で怒鳴る・暴言を吐かれる」が3割を超えます。

女性は20歳代から50歳代では、比較的「誰かに相談した」が多くなっていますが、男性や、女性の20～24歳と60歳以上では「誰にも相談していない」が多くなっています。





■ 誰かに相談した □ 誰にも相談していない (5%未満の数値の表記は省略しています)

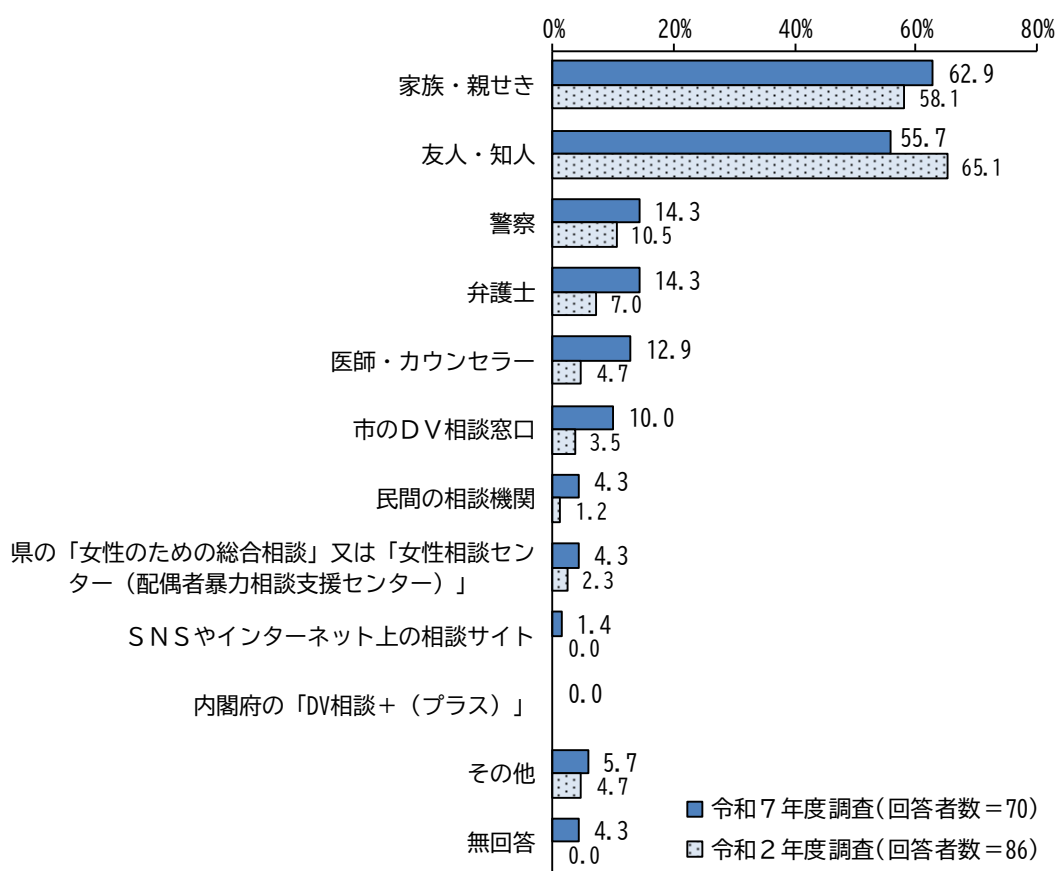
(2) 相談した相手

問22で1つでも「1」（誰かに相談した）とお答えいただいた方にかかっています
 問22-1 あなたが相談した人（場所）をお答えください（〇はいくつでも）

「家族・親せき」62.9%が最も高く、次いで「友人・知人」55.7%、「警察」14.3%、「弁護士」14.3%、「医師・カウンセラー」12.9%、「市のDV相談窓口」10.0%などとなっています。

【経年比較】

令和2年度調査と比較して、「友人・知人」を除いていずれも増えています。



【性別】

男性は「友人・知人」、女性は「家族・親せき」が最も高くなっています。男女で差があるのは、「家族・親せき」は女性が男性を大きく上回り、「医師・カウンセラー」は男性が女性を大きく上回ります。

単位：%

性別		(回答者数)	家族・親せき	友人・知人	警察	弁護士	医師・カウンセラー	市のDV相談窓口	民間の相談機関	県の「女性のための総合相談」又は「女性相談センター」	SNSやインターネット上の相談サイト	内閣府の「DV相談+（プラス）」	その他	無回答
			男性	8	37.5	62.5	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
女性	62	66.1	66.1	54.8	14.5	14.5	11.3	9.7	3.2	4.8	1.6	0.0	3.2	3.2

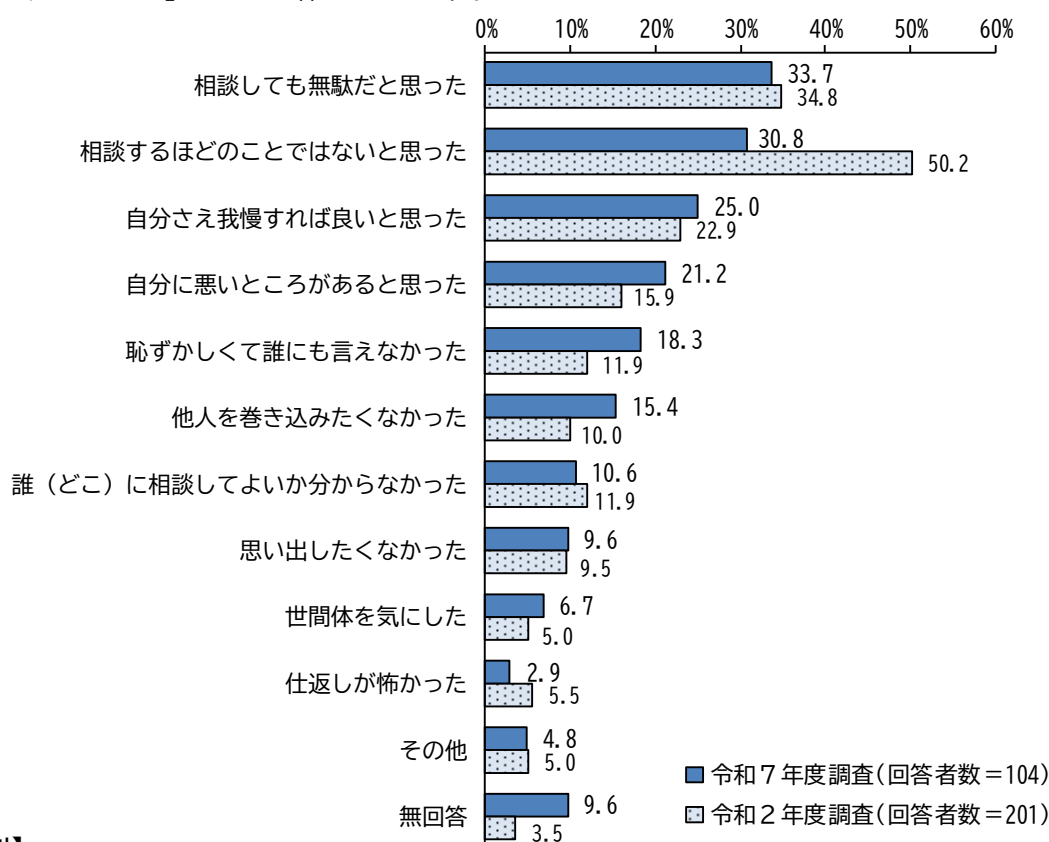
(3) 相談しなかった理由

問22で1つでも「2」（誰にも相談していない）とお答えいただいた方にうかがいます
 問22-2 あなたが誰(どこ)にも相談しなかった理由をお答えください(〇はいくつでも)

「相談しても無駄だと思った」33.7%が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」30.8%、「自分さえ我慢すれば良いと思った」25.0%、「自分に悪いところがあると思った」21.2%、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」18.3%などとなっています。

【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思った」が大きく減り、「自分に悪いところがあると思った」「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「他人を巻き込みたくなかった」などが増えています。



【性別】

男性は「相談するほどのことではないと思った」が、女性は「相談しても無駄だと思った」が最も高くなっています。男女で差があるのは、「相談するほどのことではないと思った」「自分さえ我慢すれば良いと思った」「自分に悪いところがあると思った」は男性が女性を大きく上回り、「相談しても無駄だと思った」は女性が男性を大きく上回ります。

単位：%

		(回答者数)	相談しても無駄だと思った	相談するほどのことではないと思った	自分さえ我慢すれば良いと思った	自分に悪いところがあると思った	恥ずかしくて誰にも言えなかった	他人を巻き込みたくなかった	誰(どこ)に相談してよいか分からなかった	思い出したくなかった	世間体を気にした	仕返しが怖かった	その他	無回答
性別	男性	37	24.3	40.5	35.1	32.4	16.2	16.2	8.1	8.1	8.1	0.0	5.4	8.1
	女性	67	38.8	25.4	19.4	14.9	19.4	14.9	11.9	10.4	6.0	4.5	4.5	10.4

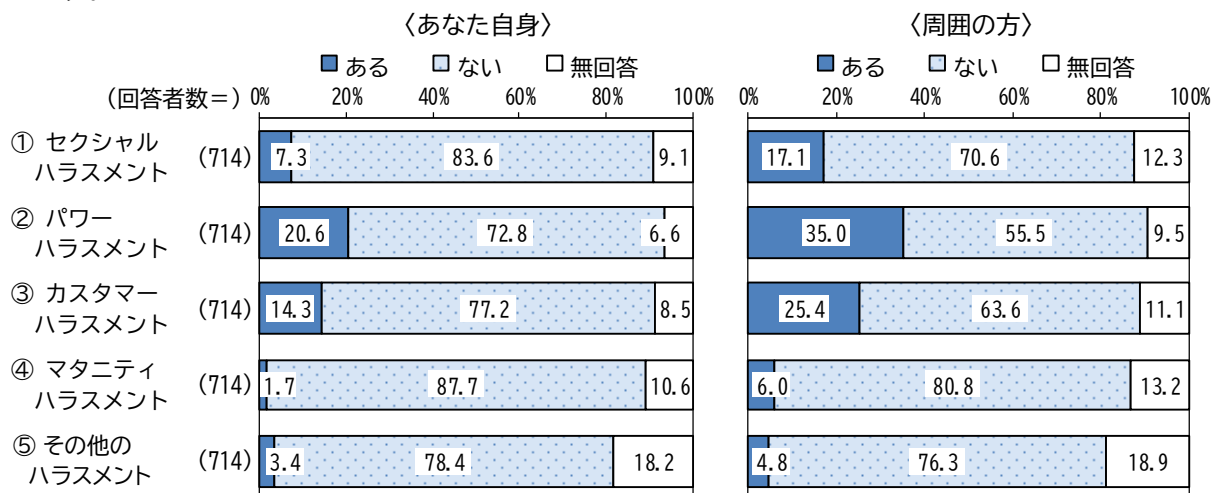
7 人権・多様性について

(1) ハラスメント被害の有無

問23 過去3年以内に、職場・学校・地域であなたや周囲の方がハラスメント被害を受けたことがありますか（①～④について、それぞれ該当する番号に○は1つだけ）

「ある」の割合が高いのは、自分自身、周囲の方ともに「パワーハラスメント」、「カスタマーハラスメント」、「セクシャルハラスメント」の順となっています。

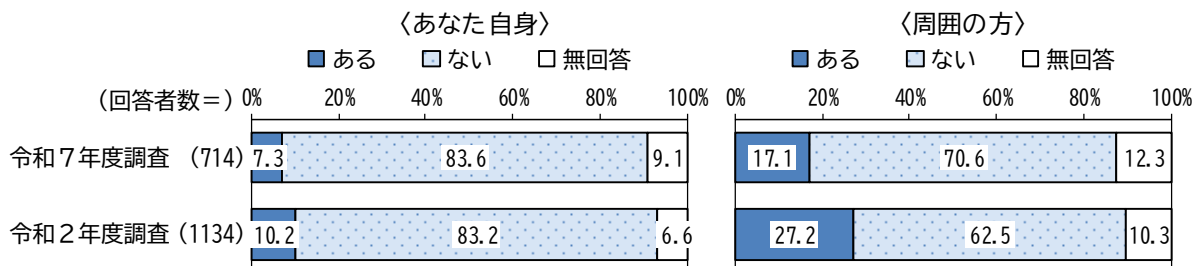
その他のハラスメントは、「モラハラ（モラルハラスメント）」との回答が多くを占めています。



【経年比較】

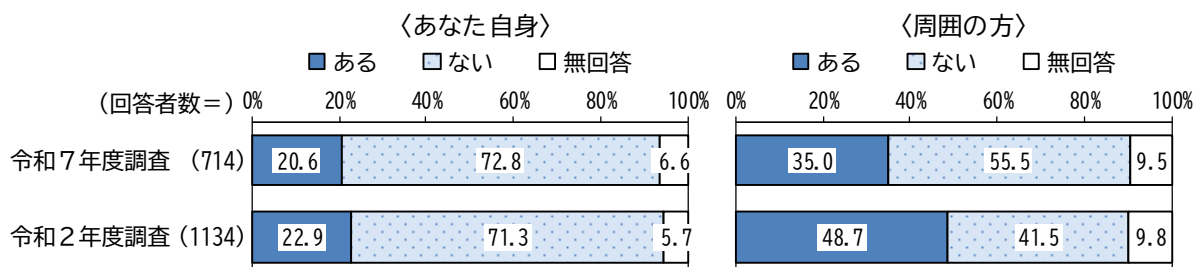
①セクシャルハラスメント

自分自身の被害の経験も周囲の方の被害を見聞きしたことも、「ある」は減っています。



②パワーハラスメント

自分自身のハラスメント被害の経験はやや減り、周囲の方のパワーハラスメント被害を見聞きしたことが「ある」割合は大きく減っています。

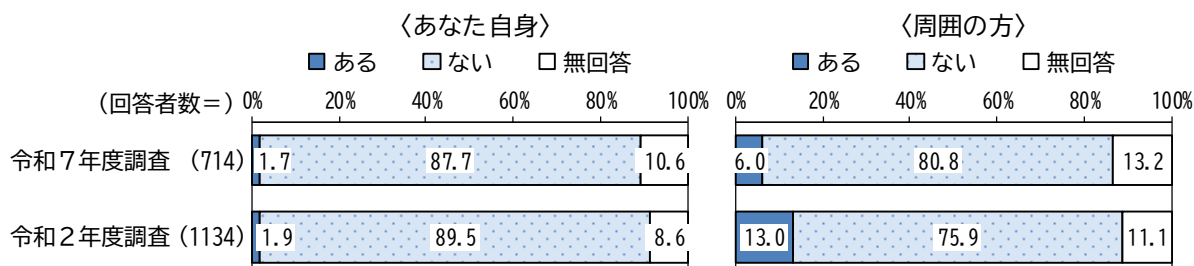


③カスタマーハラスメント

カスタマーハラスメントについては、令和2年度調査では項目がありません。

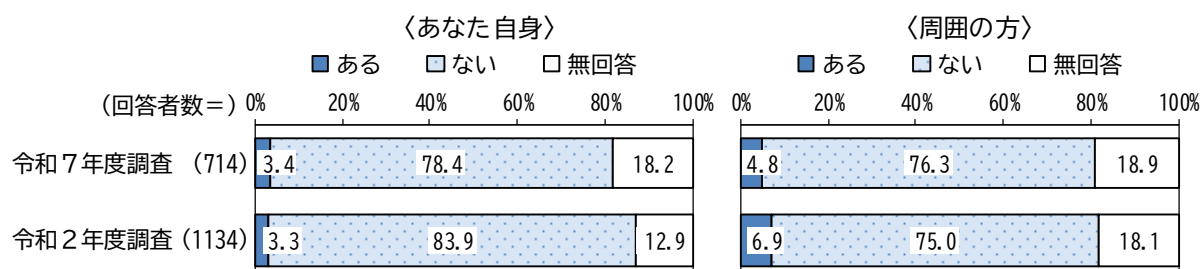
④マタニティハラスメント

自分自身のハラスメント被害の経験は令和2年度とほぼ同じですが、周囲の方のマタニティハラスメント被害を見聞きしたことが「ある」割合は、やや減っています。



⑤その他のハラスメント

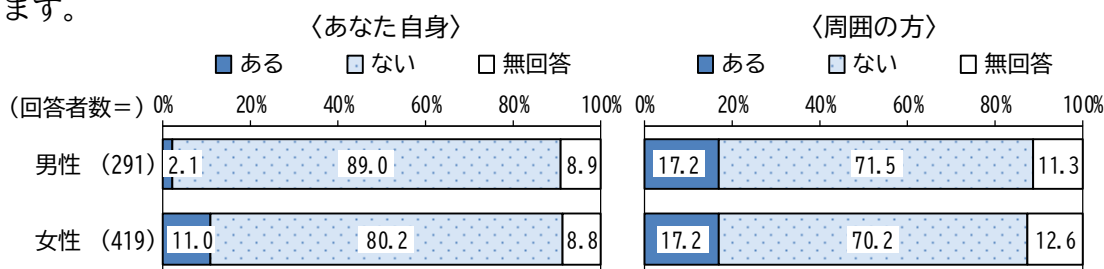
自分自身のハラスメント被害の経験は令和2年度とほぼ同じですが、周囲の方のハラスメント被害を見聞きしたことが「ある」割合は、やや減っています。



【性別】

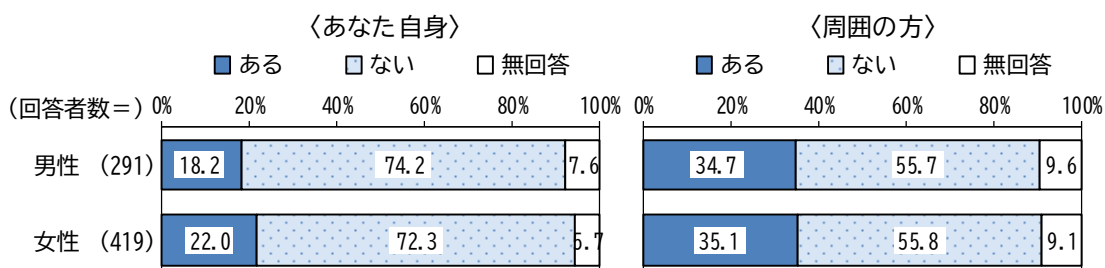
①セクシャルハラスメント

自分自身のセクシャルハラスメント被害の経験が「ある」割合は、女性が男性を大きく上回ります。



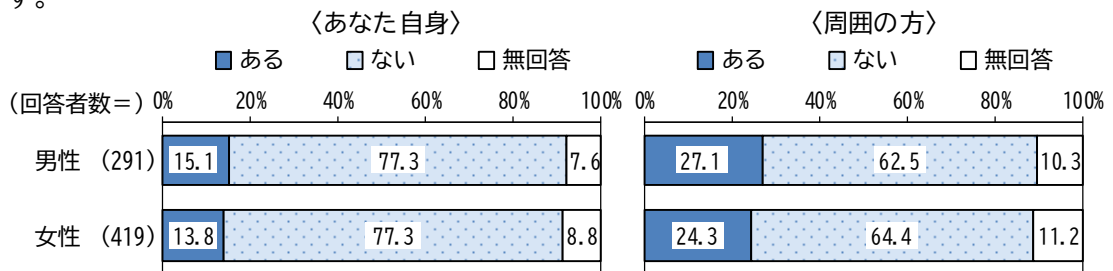
②パワーハラスメント

自分自身のパワーハラスメント被害の経験が「ある」割合は、女性が男性をやや上回ります。



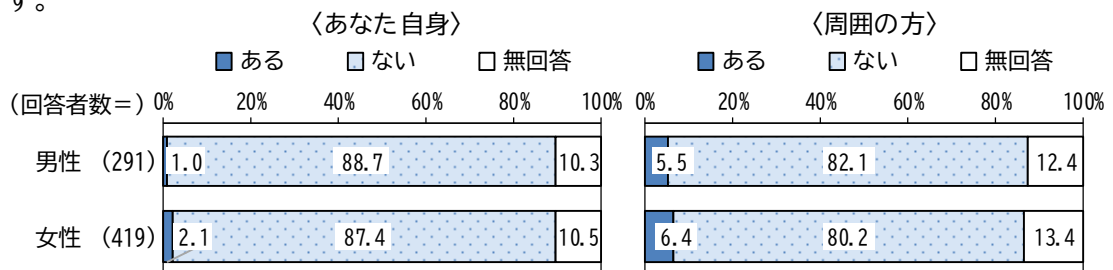
③カスタマーハラスメント

自分自身のカスタマーハラスメント被害の経験が「ある」割合は、男性が女性をやや上回ります。



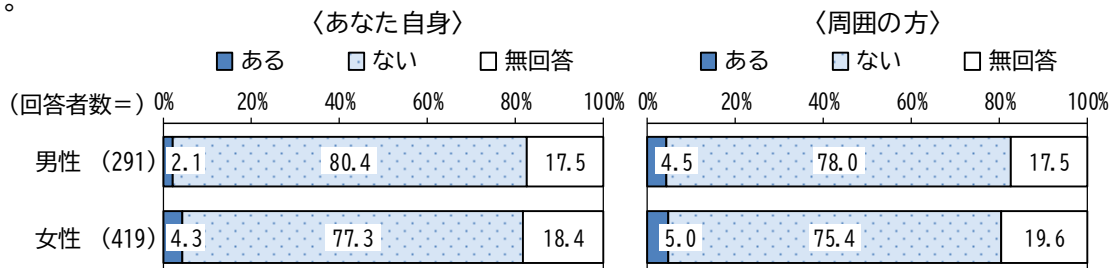
④マタニティハラスメント

自分自身のマタニティハラスメント被害の経験が「ある」割合は、女性が男性をやや上回ります。



⑤その他のハラスメント

自分自身のその他のハラスメント被害の経験が「ある」割合は、女性が男性をやや上回ります。

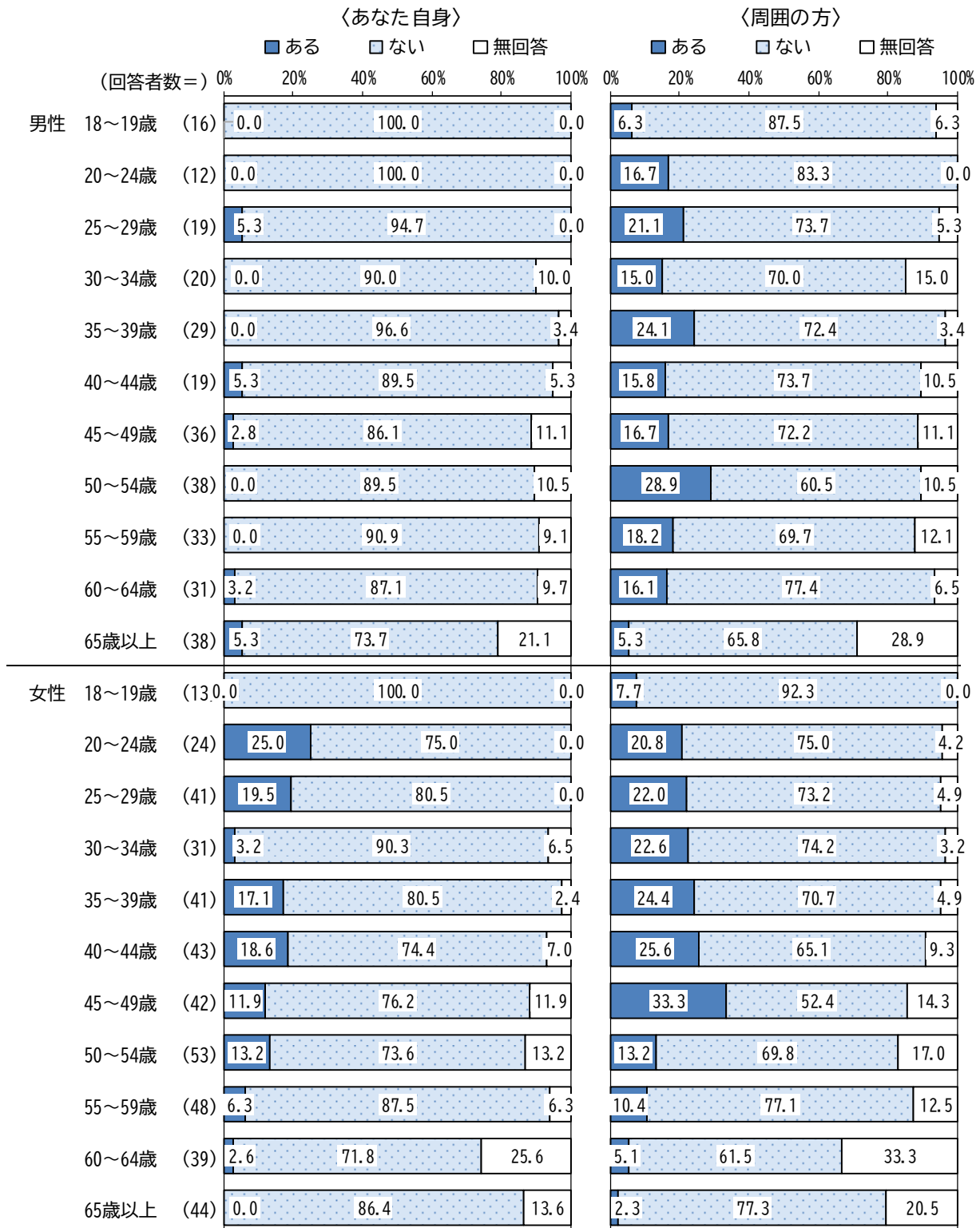


【性・年齢別】

①セクシャルハラスメント

自分自身のセクシャルハラスメント被害の経験が「ある」割合は、女性20～24歳で25.0%と4人に1人に上ります。「ある」は、年齢があがるにつれ低くなっています。

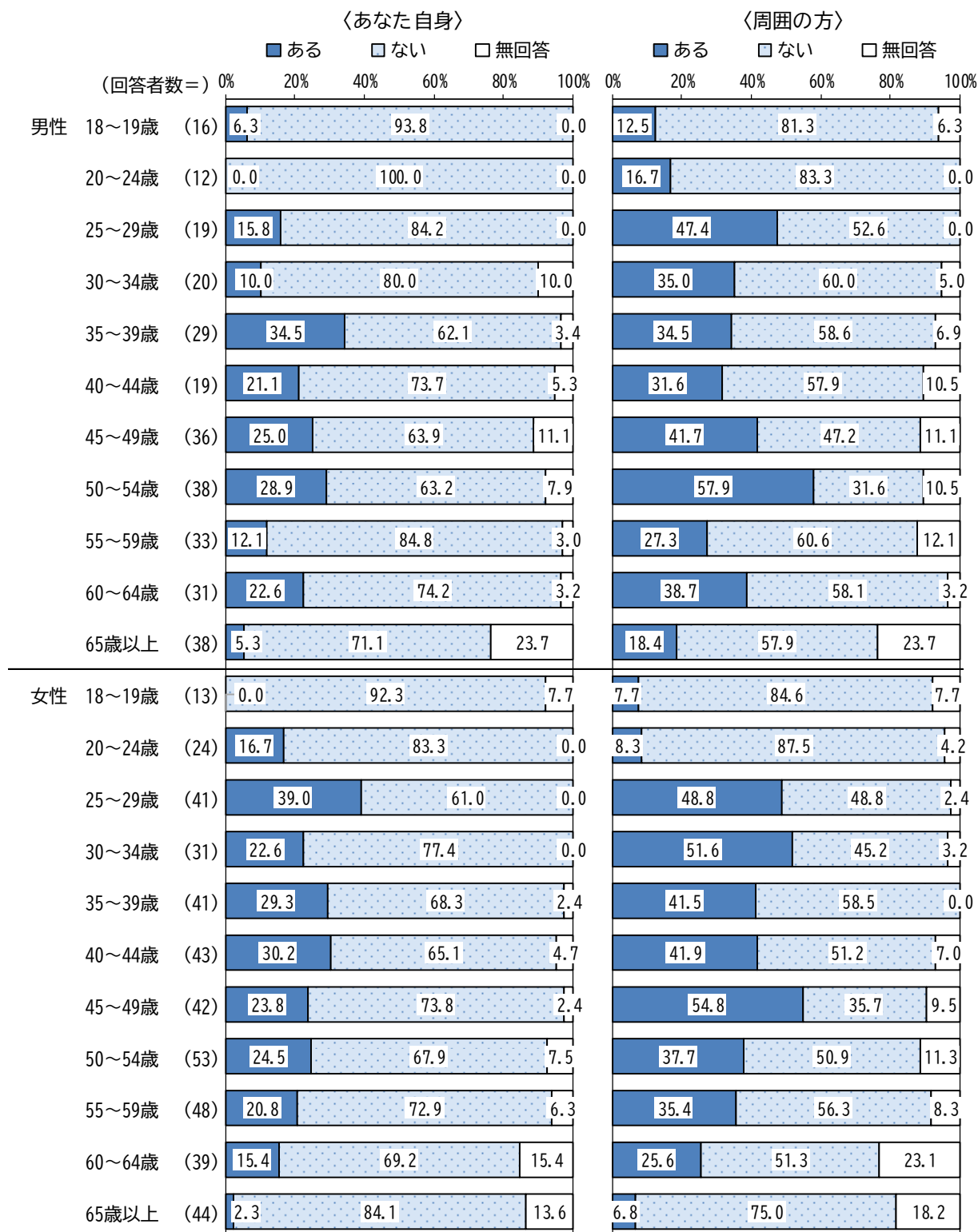
周囲の方のハラスメント被害を見聞きしたことが「ある」割合は、男性は20歳代から50歳代で、女性は20歳代から40歳代で高く、女性45～49歳で33.3%、男性50～54歳で28.9%と高くなっています。



②パワーハラスメント

自分自身のパワーハラスメント被害の経験が「ある」割合は、男性は35～39歳から50～54歳と60～64歳で、女性は25～29歳から55～59歳で2割を超えています。なかでも男性35～39歳、女性25～29歳は3割を超えて高くなっています。

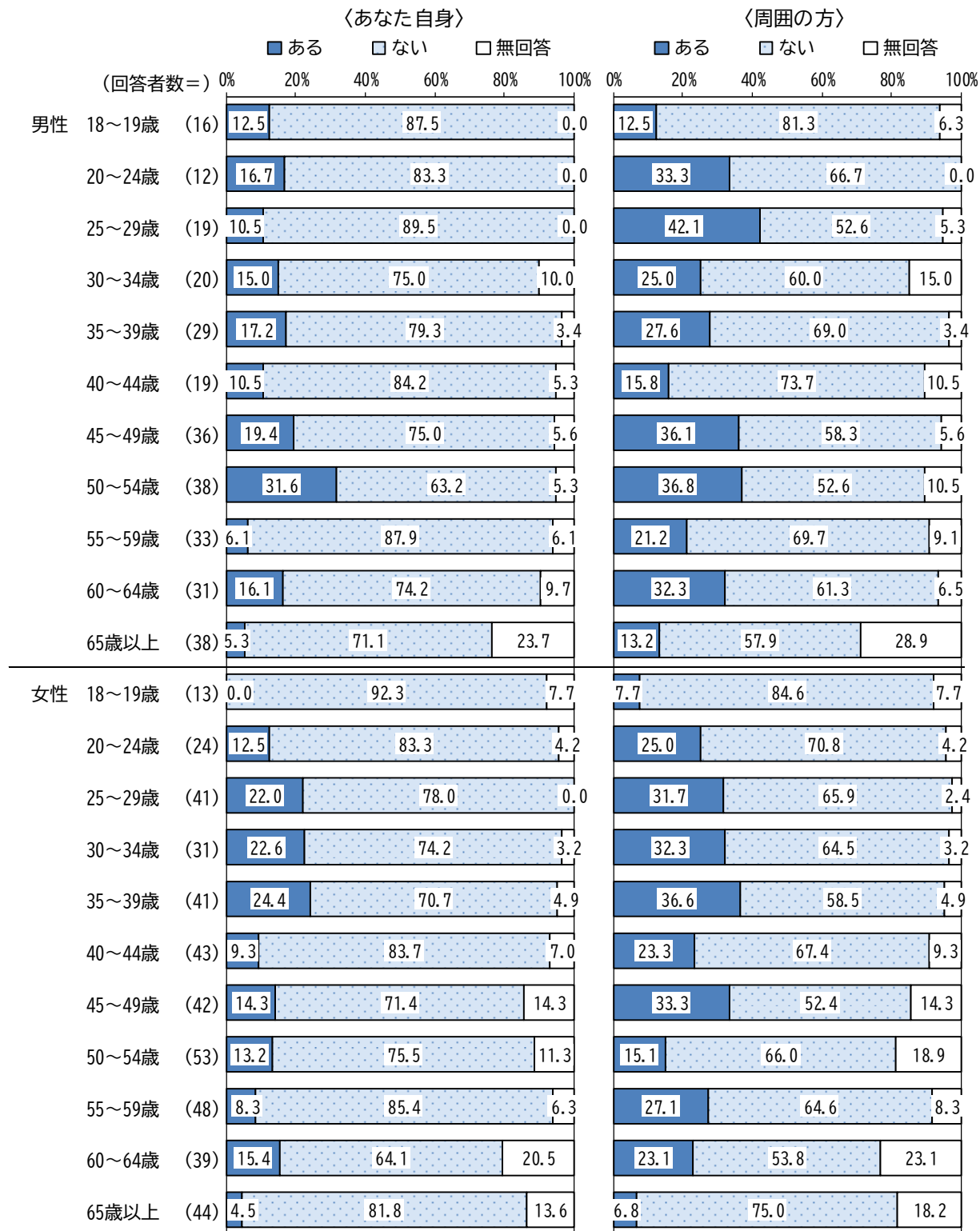
周囲の方のハラスメント被害を見聞きしたことが「ある」割合は、男女とも25～29歳から60～64歳で高く、なかでも男性50～54歳、女性30～34歳、45～49歳では5割を超えます。



③カスタマーハラスメント

自分自身のカスタマーハラスメント被害の経験が「ある」割合は、男性50～54歳で最も高く約3割、女性25～29歳、30～34歳、35～39歳で2割を超えています。

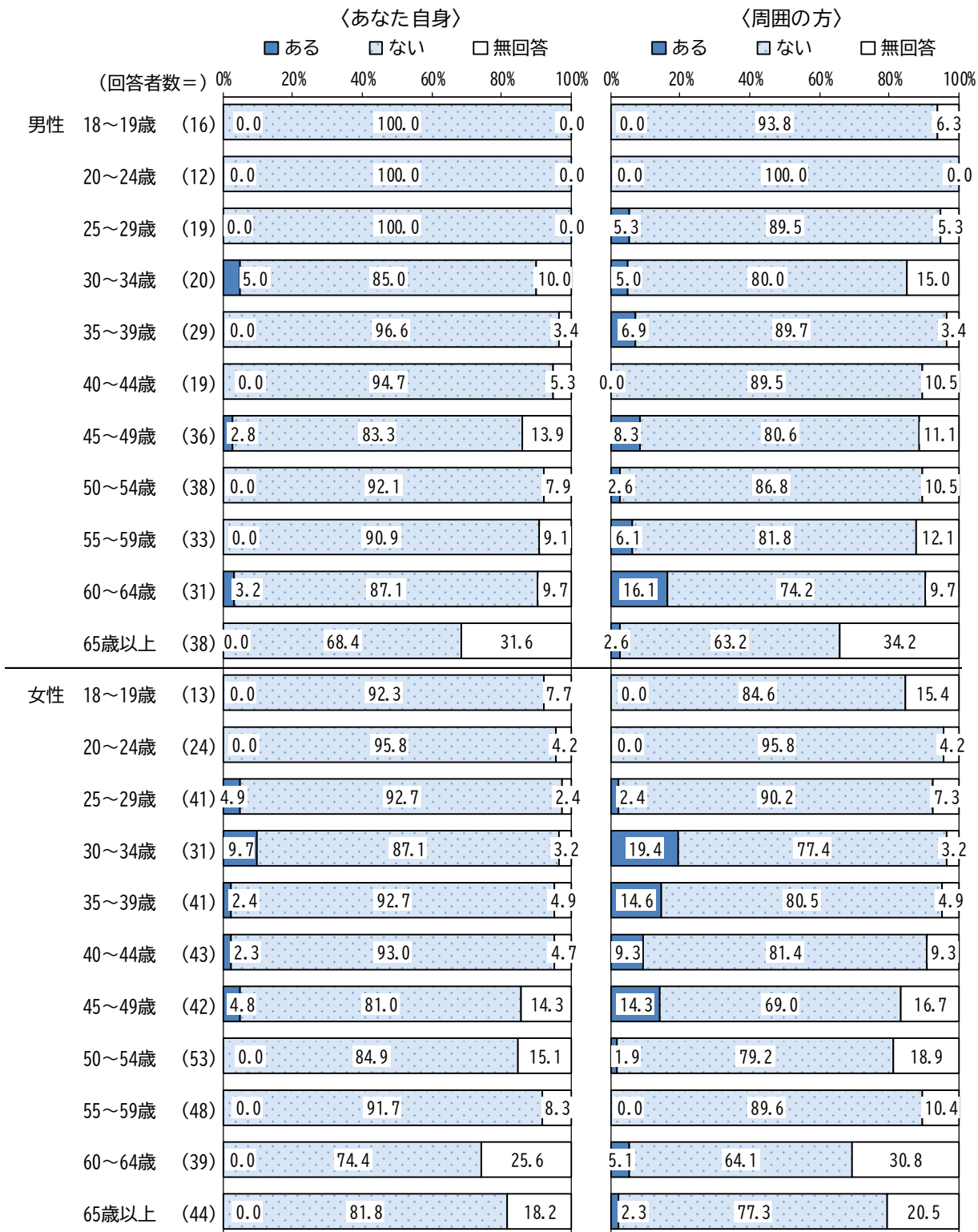
周囲の方の被害を見聞きしたことが「ある」割合は、男女とも20～24歳から60～64歳で高く、なかでも男性25～29歳で4割を超えます。



④ マタニティハラスメント

自分自身のマタニティハラスメント被害の経験が「ある」割合は、男女とも30～34歳で多く、女性9.7%、男性5.0%となっています。

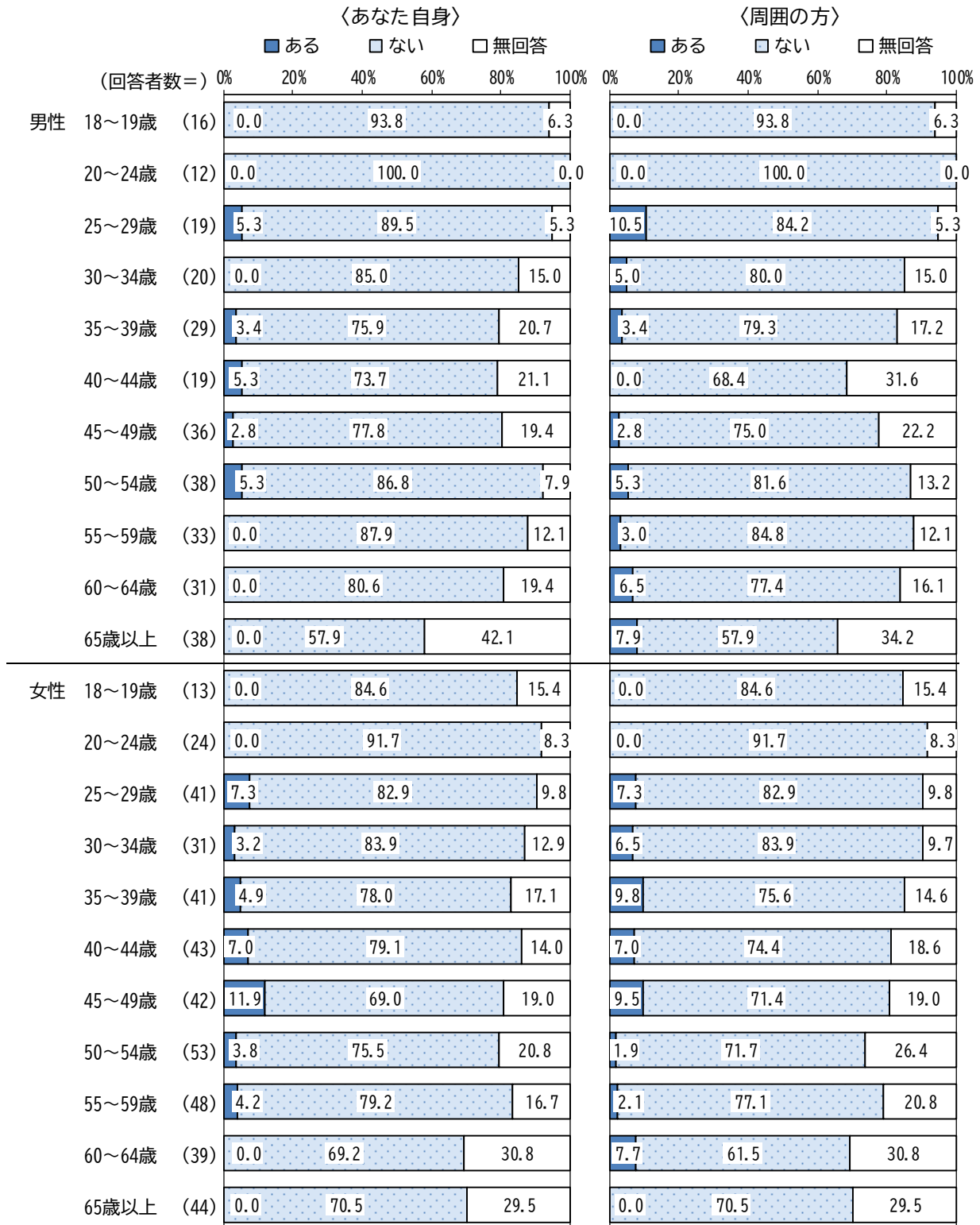
周囲の方の被害を見聞きした経験が「ある」割合は、女性30～34歳で約2割、男性60～64歳、女性35～39歳、45～49歳でも1割を超えます。



⑤その他のハラスメント

自分自身のその他のハラスメント被害の経験が「ある」割合は、女性45～49歳で1割とやや高くなっています。

周囲の方の被害を見聞きした経験が「ある」割合は、男性25～29歳、女性35～39歳、45～49歳で約1割と、やや高くなっています。

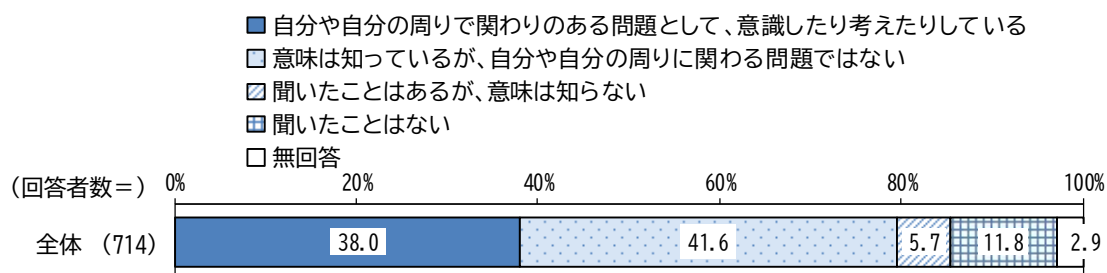


(2) 性的少数者について

問24 性的少数者*について意識したり、考えることはありますか (○は1つ)

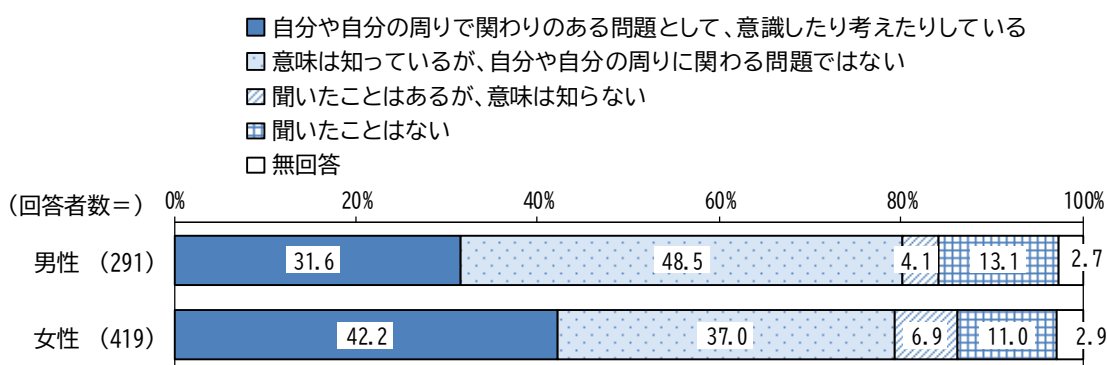
*性的少数者(性的マイノリティ、LGBT等)：性同一性障害など、「身体の性」と自分が認識する「心の性」が一致しない人や、恋愛感情など性的な意識が同性や両性に向かう人、身体的な性別が不明瞭な人などのこと

「意味は知っているが、自分や自分の周りに関わる問題ではない」41.6%、「自分や自分の周りに関わりのある問題として、意識したり考えたりしている」38.0%、「聞いたことはない」11.8%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」5.7%の順となっています。



【性別】

男性は「意味は知っているが、自分や自分の周りに関わる問題ではない」が、女性は「自分や自分の周りに関わりのある問題として、意識したり考えたりしている」が最も高く、それぞれ約10ポイントの差があります。



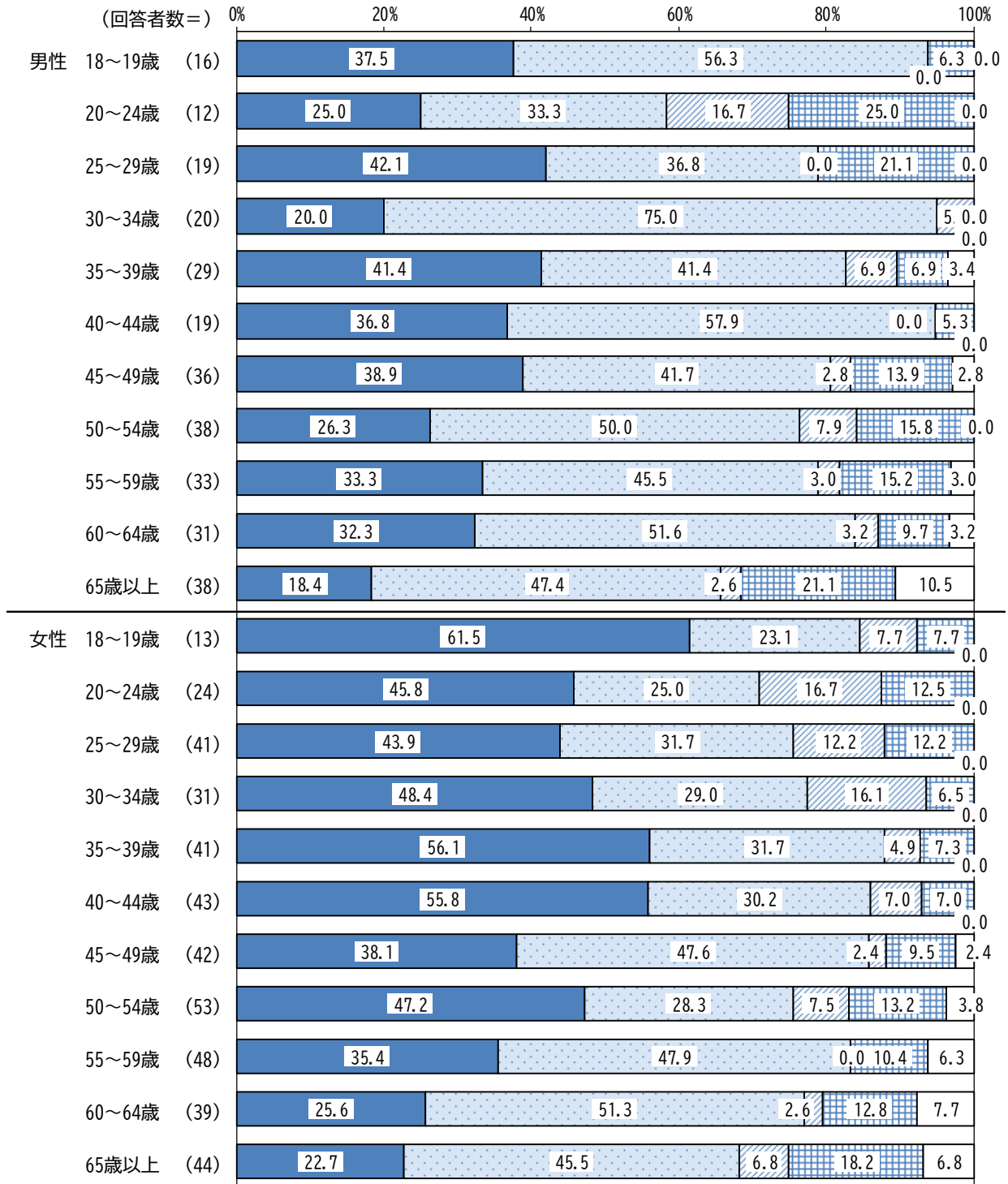
【性・年齢別】

男性は、25～29歳のみ「自分や自分の周りに関わりのある問題として、意識したり考えたりしている」が最も高く、35～39歳では「自分や自分の周りに関わりのある問題として、意識したり考えたりしている」「意味は知っているが、自分や自分の周りに関わる問題ではない」が同値、他の年齢では「意味は知っているが、自分や自分の周りに関わる問題ではない」が最も高くなっています。

女性は40～44歳までと50～54歳では「自分や自分の周りに関わりのある問題として、意識したり考えたりしている」が最も高くなっていますが年齢が上がるにつれ低くなり、「意味は知っているが、自分や自分の周りに関わる問題ではない」が高くなっています。

「聞いたことはない」は、男女とも30～34歳から40～44歳の中年齢で低く、若い年齢と高年齢で高くなっています。

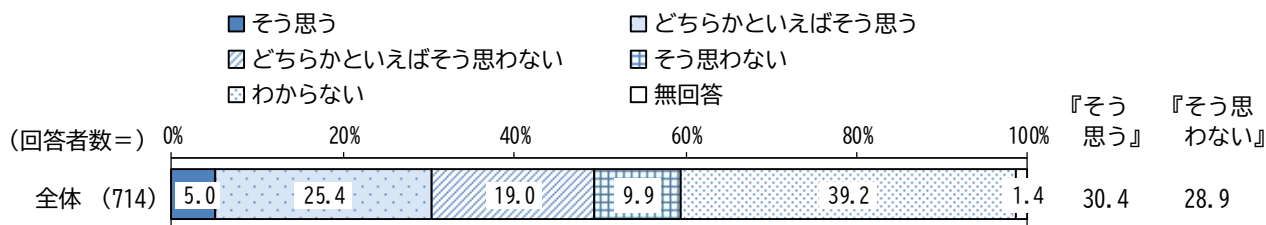
- 自分や自分の周りで関わりのある問題として、意識したり考えたりしている
- 意味は知っているが、自分や自分の周りに関わる問題ではない
- ▨ 聞いたことはあるが、意味は知らない
- ▩ 聞いたことはない
- 無回答



(3) 取手市には自分と異なる人々を理解する雰囲気はあるか

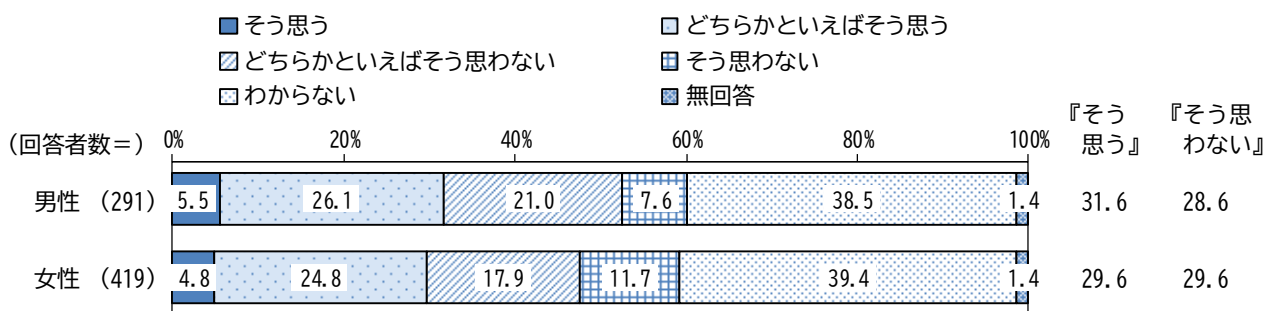
問25 取手市には、世代や文化、出身や言語など、自分と異なる人々を理解する雰囲気があると思いますか (○は1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』30.4%が、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた『そう思わない』は28.9%をやや上回ります。



【性別】

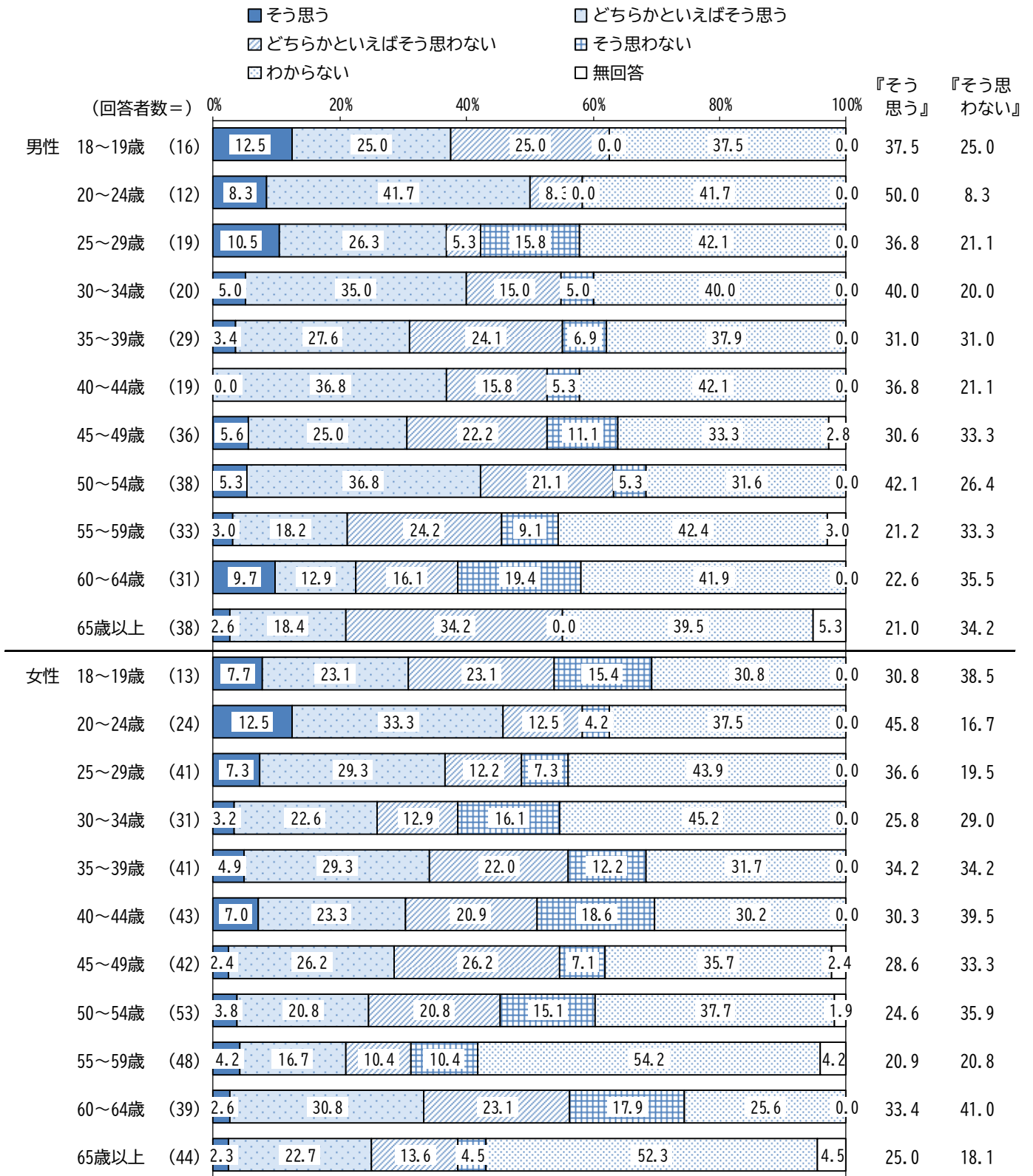
男性は『そう思う』が『そう思わない』をやや上回りますが、女性は『そう思う』『そう思わない』が同値となっています。



【性・年齢別】

『そう思う』は、男女とも20～24歳が最も多くなっています。『そう思わない』が『そう思う』を上回るのは、男性45～49歳、55歳以上、女性18～19歳、30～34歳、40～54歳、60～64歳と、男性の高い年齢と女性で多くなっています。

「そう思う」は年齢が上がるにつれ低くなる傾向にあります。



8 男女共同参画社会について

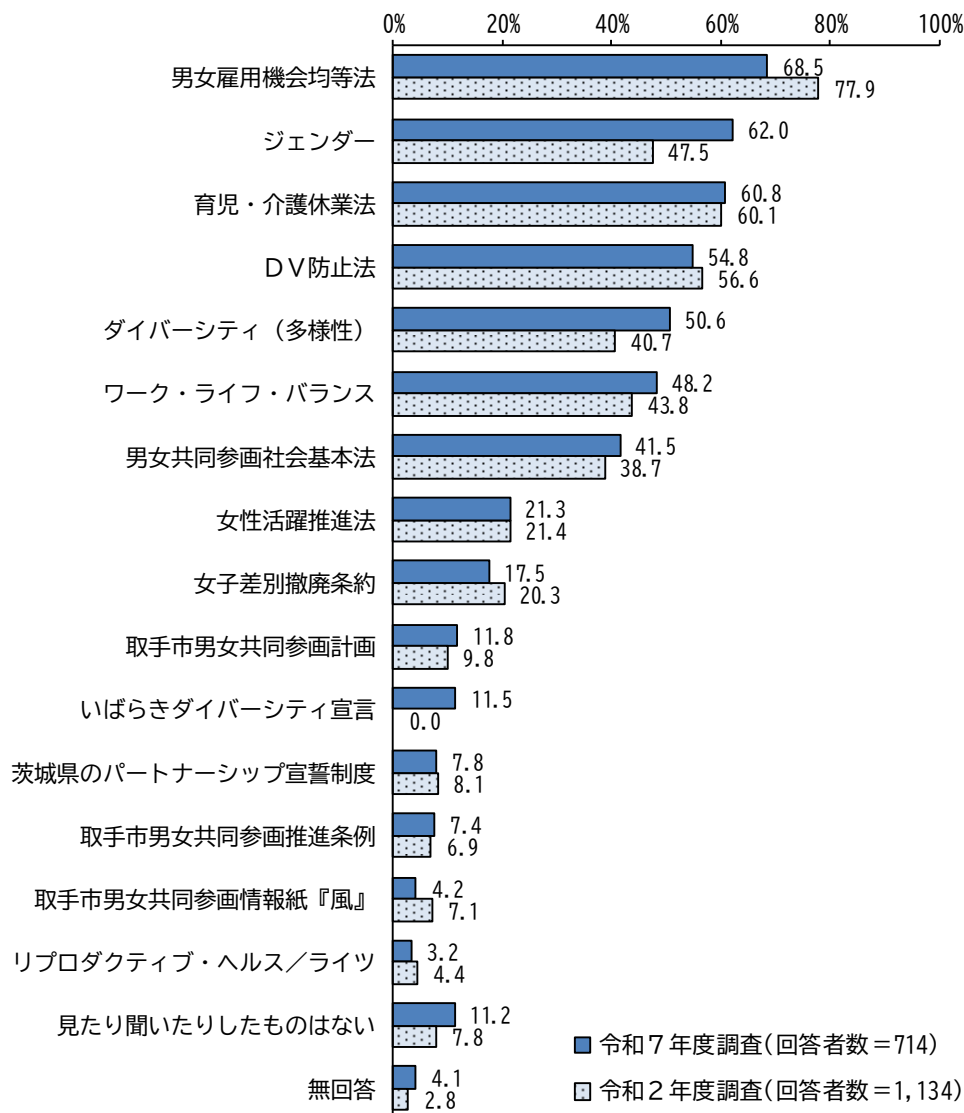
(1) 言葉や施策の認知度

問26 以下の言葉や施策等について見たり聞いたりしたものはありますか（〇はいくつでも）

「男女雇用機会均等法」68.5%が最も多く、次いで「ジェンダー」62.0%、「育児・介護休業法」60.8%、「DV防止法」54.8%、「ダイバーシティ（多様性）」50.6%、「ワーク・ライフ・バランス」48.2%、「男女共同参画社会基本法」41.5%となっています。

【経年比較】

令和2年度調査と比較して、「男女雇用機会均等法」の認知度が低くなり、「ジェンダー」「ダイバーシティ（多様性）」の認知度は高くなっています。



【性別】

性別で見ると、多くの項目で男性の認知度が女性を上回っています。

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、「男女雇用機会均等法」は高い年齢で最も多くあげられており、男性の若い年齢では「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」「男女共同参画基本法」、

女性の若い年齢では「育児・介護休業法」が多くなっています。男性の20～24歳では「見たり聞いたりしたものはない」が25.0%と高くなっています。

単位：％

		(回答者数)	男女雇用機会均等法	ジェンダー	育児・介護休業法	DV防止法	性被害(多様)	ダイバーシティ	ワーク・ライフ・バランス	男女共同参画社会基本法	法女性活躍推進	女子差別撤廃条約
性別	男性	291	68.0	64.3	61.5	57.4	54.6	51.9	47.4	24.4	18.6	
	女性	419	68.7	60.6	60.4	52.7	48.0	45.6	37.5	19.1	16.7	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	68.8	68.8	62.5	56.3	68.8	68.8	75.0	6.3	31.3
		20～24歳	12	50.0	41.7	41.7	33.3	50.0	58.3	58.3	16.7	16.7
		25～29歳	19	52.6	63.2	47.4	57.9	52.6	57.9	52.6	36.8	36.8
		30～34歳	20	60.0	80.0	65.0	50.0	75.0	55.0	65.0	25.0	20.0
		35～39歳	29	58.6	72.4	62.1	69.0	55.2	48.3	51.7	24.1	24.1
		40～44歳	19	78.9	68.4	68.4	57.9	36.8	52.6	15.8	26.3	15.8
		45～49歳	36	69.4	55.6	58.3	44.4	52.8	55.6	47.2	22.2	5.6
		50～54歳	38	63.2	52.6	50.0	55.3	39.5	47.4	36.8	15.8	18.4
		55～59歳	33	81.8	84.8	69.7	66.7	63.6	48.5	51.5	36.4	24.2
		60～64歳	31	87.1	71.0	77.4	77.4	67.7	58.1	58.1	35.5	12.9
	65歳以上	38	63.2	50.0	63.2	50.0	47.4	39.5	31.6	18.4	13.2	
	女性	18～19歳	13	84.6	53.8	61.5	46.2	69.2	61.5	76.9	30.8	61.5
		20～24歳	24	66.7	66.7	70.8	58.3	45.8	62.5	58.3	20.8	37.5
		25～29歳	41	70.7	58.5	61.0	43.9	46.3	56.1	56.1	26.8	31.7
		30～34歳	31	45.2	48.4	54.8	35.5	41.9	35.5	38.7	12.9	6.5
		35～39歳	41	75.6	68.3	75.6	58.5	61.0	53.7	58.5	22.0	24.4
		40～44歳	43	79.1	79.1	65.1	65.1	58.1	48.8	30.2	23.3	7.0
		45～49歳	42	78.6	57.1	57.1	59.5	50.0	42.9	23.8	14.3	11.9
		50～54歳	53	60.4	49.1	58.5	58.5	49.1	43.4	22.6	15.1	11.3
		55～59歳	48	70.8	64.6	62.5	52.1	47.9	47.9	29.2	14.6	4.2
60～64歳		39	59.0	59.0	56.4	43.6	38.5	28.2	25.6	23.1	12.8	
65歳以上	44	70.5	59.1	45.5	50.0	31.8	36.4	34.1	15.9	15.9		

		(回答者数)	取手市男女共同参画計画	いばらきダイバーシティ宣言	茨城県のパートナーシップ宣誓制度	取手市男女共同参画推進条例	取手市男女共同参画情報紙『風』	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	見たり聞いたりしたものはない	無回答	
性別	男性	291	12.0	10.3	8.6	7.2	2.7	4.5	10.3	3.1	
	女性	419	11.5	12.2	7.4	7.6	5.3	2.4	11.9	4.8	
性・年齢別	男性	18～19歳	16	18.8	12.5	0.0	18.8	0.0	18.8	18.8	0.0
		20～24歳	12	8.3	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0
		25～29歳	19	10.5	10.5	15.8	5.3	0.0	5.3	10.5	0.0
		30～34歳	20	5.0	0.0	10.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0
		35～39歳	29	17.2	3.4	13.8	3.4	0.0	0.0	13.8	0.0
		40～44歳	19	0.0	10.5	5.3	0.0	0.0	5.3	15.8	0.0
		45～49歳	36	13.9	8.3	5.6	5.6	5.6	2.8	8.3	8.3
		50～54歳	38	15.8	7.9	18.4	10.5	5.3	2.6	7.9	2.6
		55～59歳	33	9.1	18.2	6.1	9.1	6.1	9.1	0.0	9.1
		60～64歳	31	16.1	19.4	6.5	9.7	6.5	6.5	3.2	0.0
	65歳以上	38	10.5	5.3	2.6	5.3	0.0	2.6	18.4	5.3	
	女性	18～19歳	13	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0
		20～24歳	24	4.2	8.3	0.0	4.2	0.0	12.5	12.5	0.0
		25～29歳	41	4.9	12.2	12.2	0.0	2.4	2.4	9.8	4.9
		30～34歳	31	3.2	3.2	6.5	0.0	0.0	3.2	19.4	3.2
		35～39歳	41	9.8	9.8	12.2	4.9	2.4	4.9	4.9	0.0
		40～44歳	43	7.0	20.9	4.7	4.7	4.7	0.0	11.6	0.0
		45～49歳	42	9.5	14.3	7.1	7.1	4.8	0.0	14.3	2.4
		50～54歳	53	11.3	7.5	9.4	11.3	7.5	1.9	15.1	9.4
		55～59歳	48	10.4	14.6	8.3	10.4	8.3	2.1	12.5	4.2
60～64歳		39	20.5	10.3	5.1	12.8	7.7	0.0	10.3	7.7	
65歳以上	44	27.3	15.9	6.8	18.2	11.4	0.0	11.4	13.6		

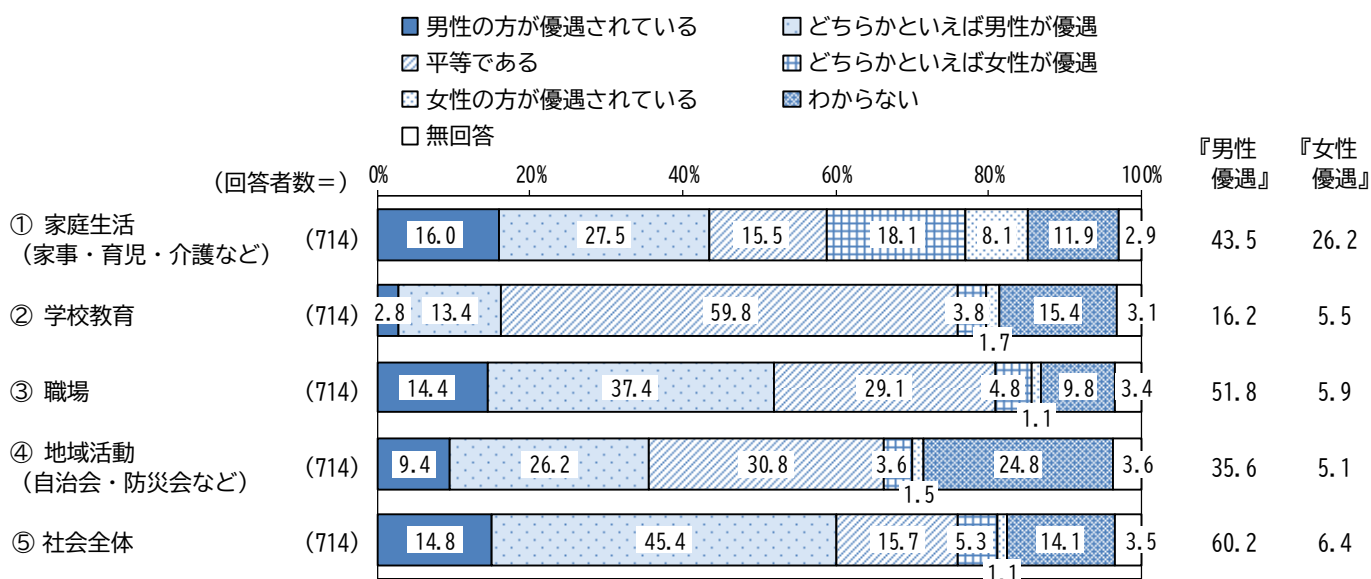
(2) 男女の地位

問27 次にあげる分野において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。
 (①～⑤について、それぞれ該当する番号に○は1つだけ)

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた『男性優遇』は、社会全体60.2%、職場51.8%、家庭生活43.5%、地域活動35.6%と高くなっています。

対して、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇」を合わせた『女性優遇』は、家庭生活26.2%を除いて一桁台となっています。

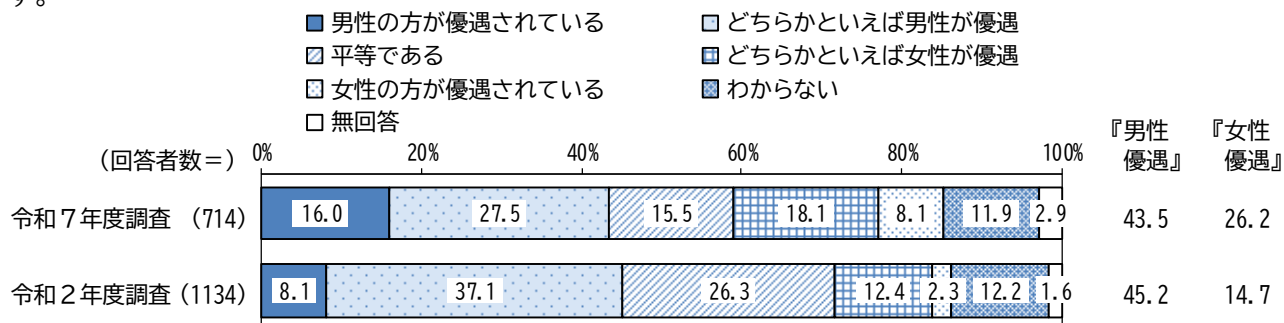
学校教育は、「平等である」が約6割となっています。



①家庭生活（家事・育児・介護など）

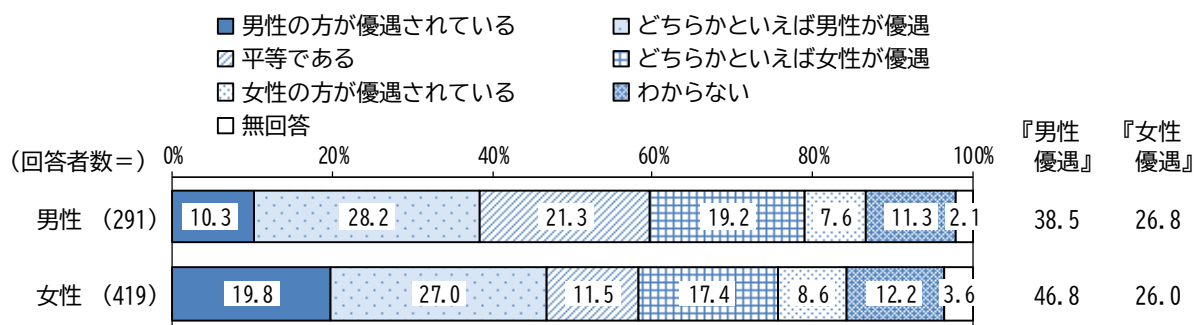
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、『男性優遇』の割合はやや低くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は高くなっています。一方で、『女性優遇』の割合は高くなっています。



【性別】

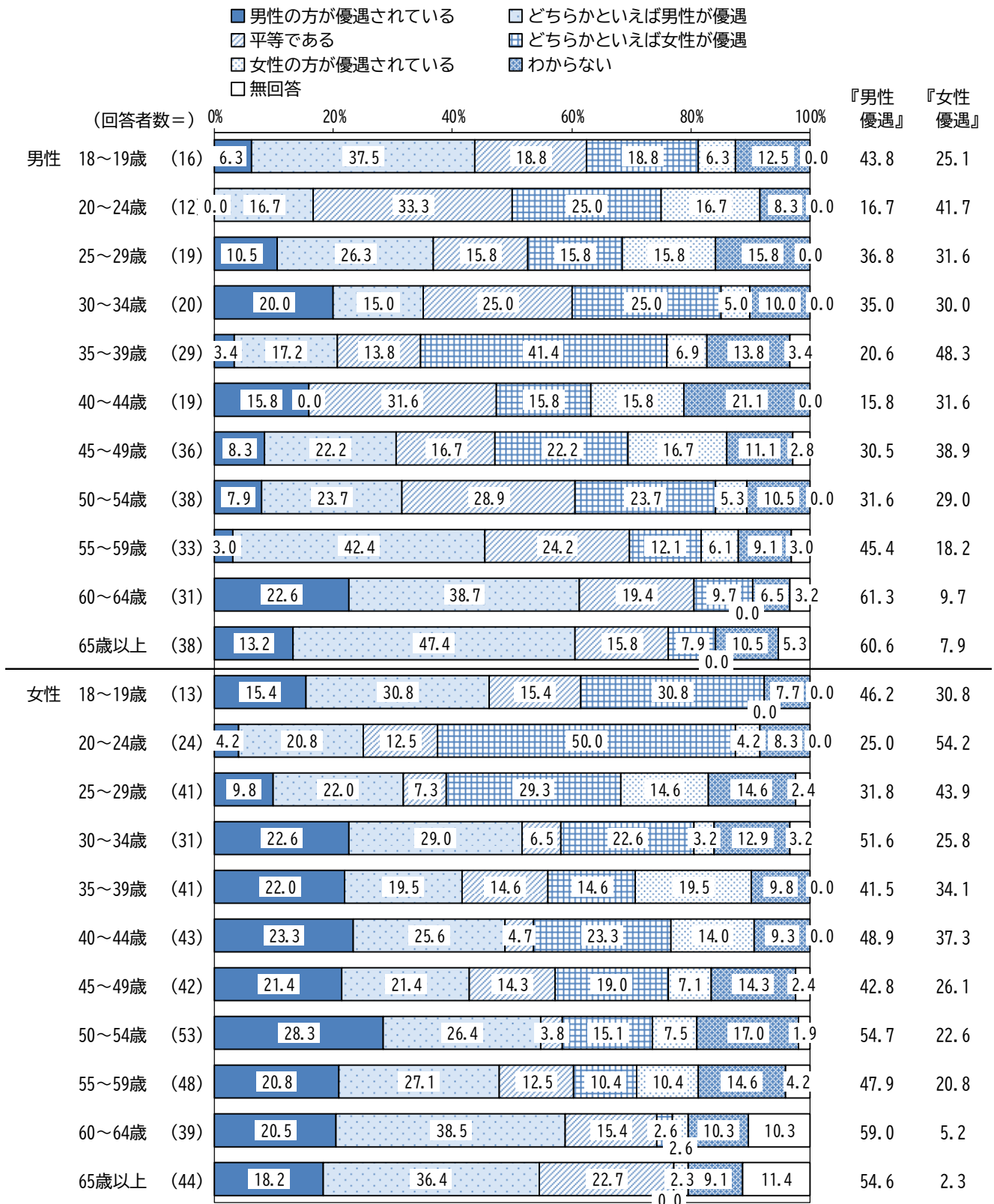
「男性の方が優遇されている」は女性が男性を大きく上回り、『男性優遇』は女性46.8%、男性38.5%となっています。男性は「平等である」が21.3%と女性を大きく上回ります。



【性・年齢別】

多くの性・年齢で『男性優遇』が『女性優遇』を上回りますが、男性20～24歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳、女性20～24歳、25～29歳では『女性優遇』が『男性優遇』を上回ります。

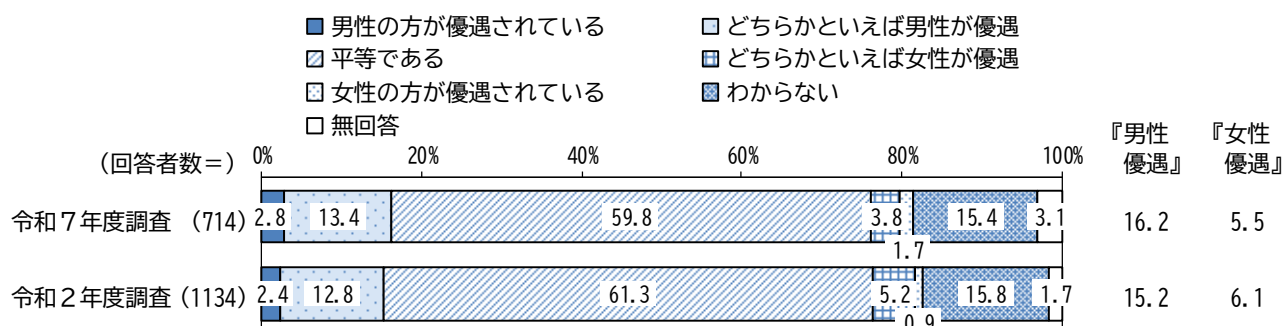
男性20～34歳、60～64歳、女性の30～34歳から60～64歳では、「男性の方が優遇されている」が2割を超えます。



②学校教育

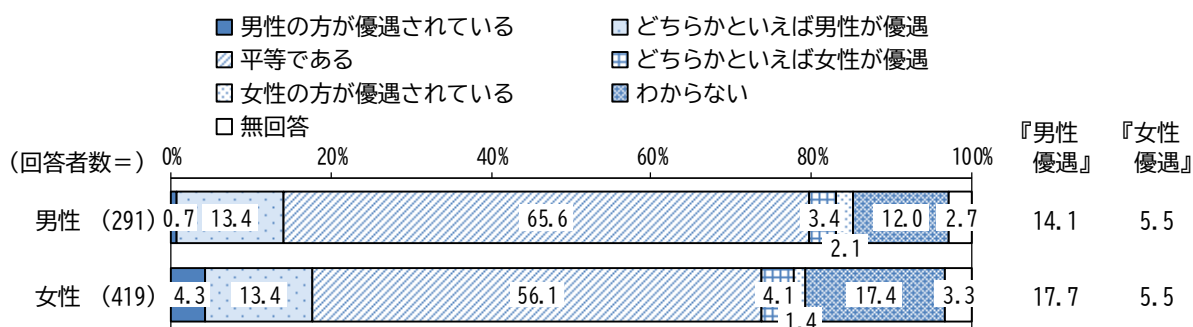
【経年比較】

令和2年度調査とほぼ同様となっています。



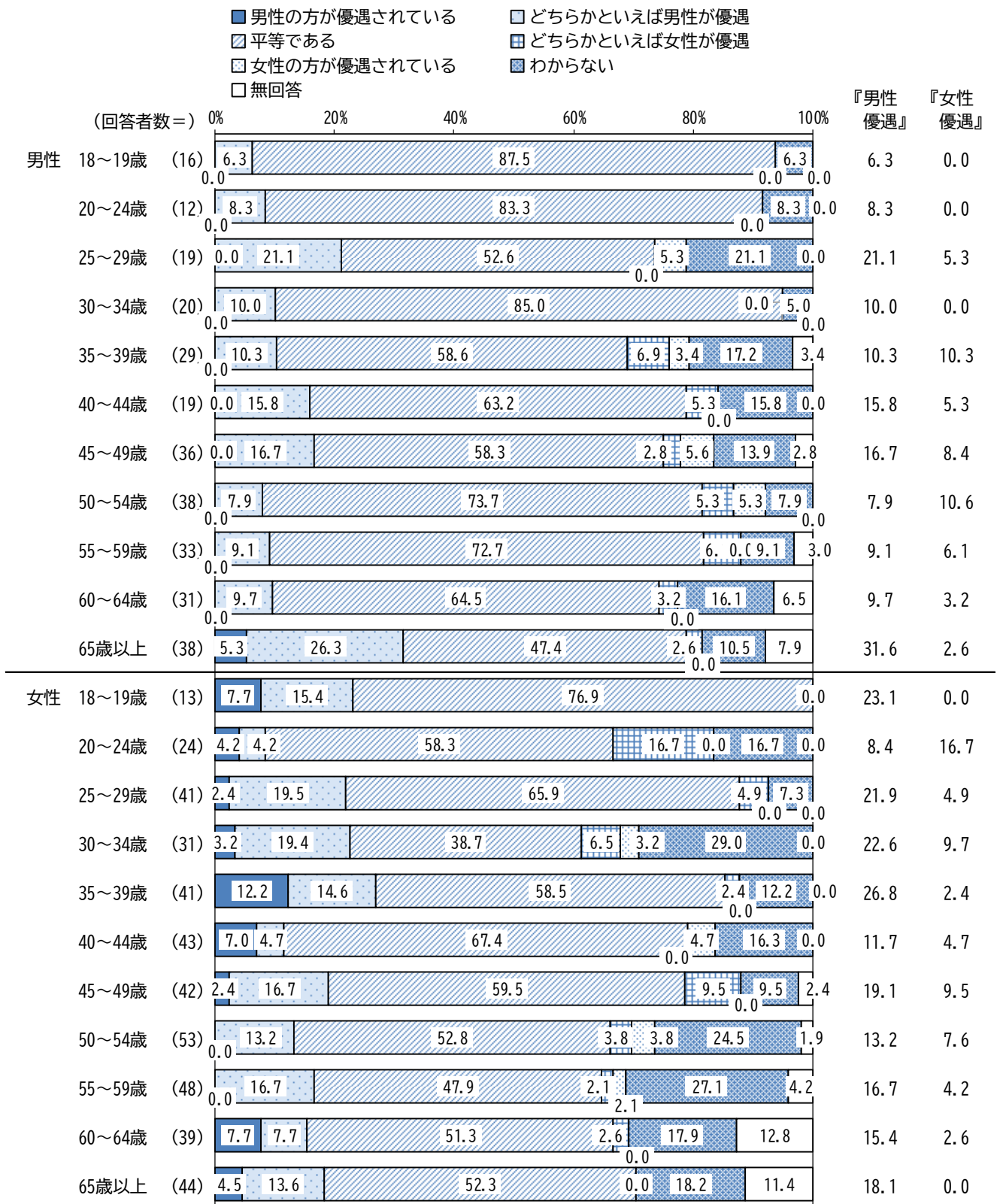
【性別】

『男性優遇』の割合は、女性の方がやや高くなっています。「平等である」は男性が女性を上回ります。



【性・年齢別】

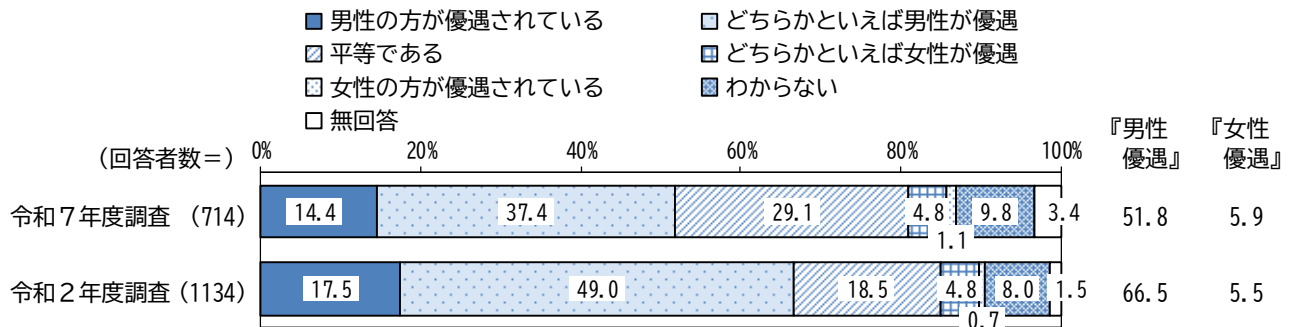
『男性優遇』は、男性65歳以上で31.6%と最も高く、男性25～29歳、女性18～19歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳では2割台と、やや高くなっています。



③職場

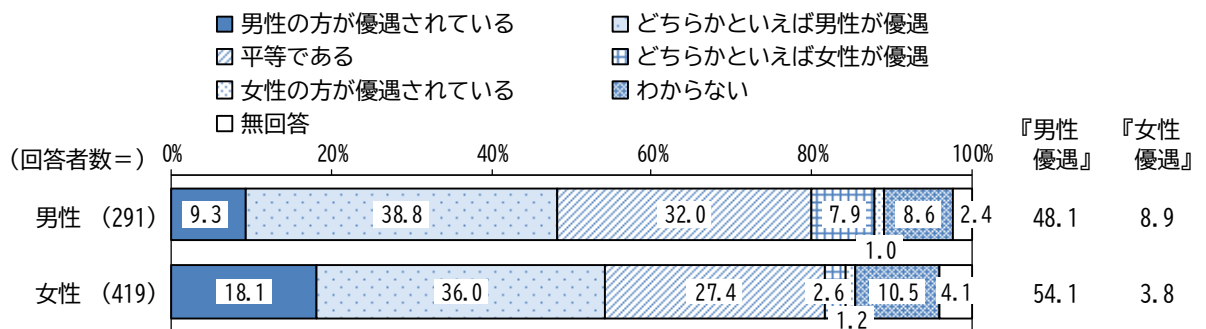
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性が優遇」の割合が大きく減っています。『男性優遇』の割合は低くなり、「平等である」の割合が高くなっています。



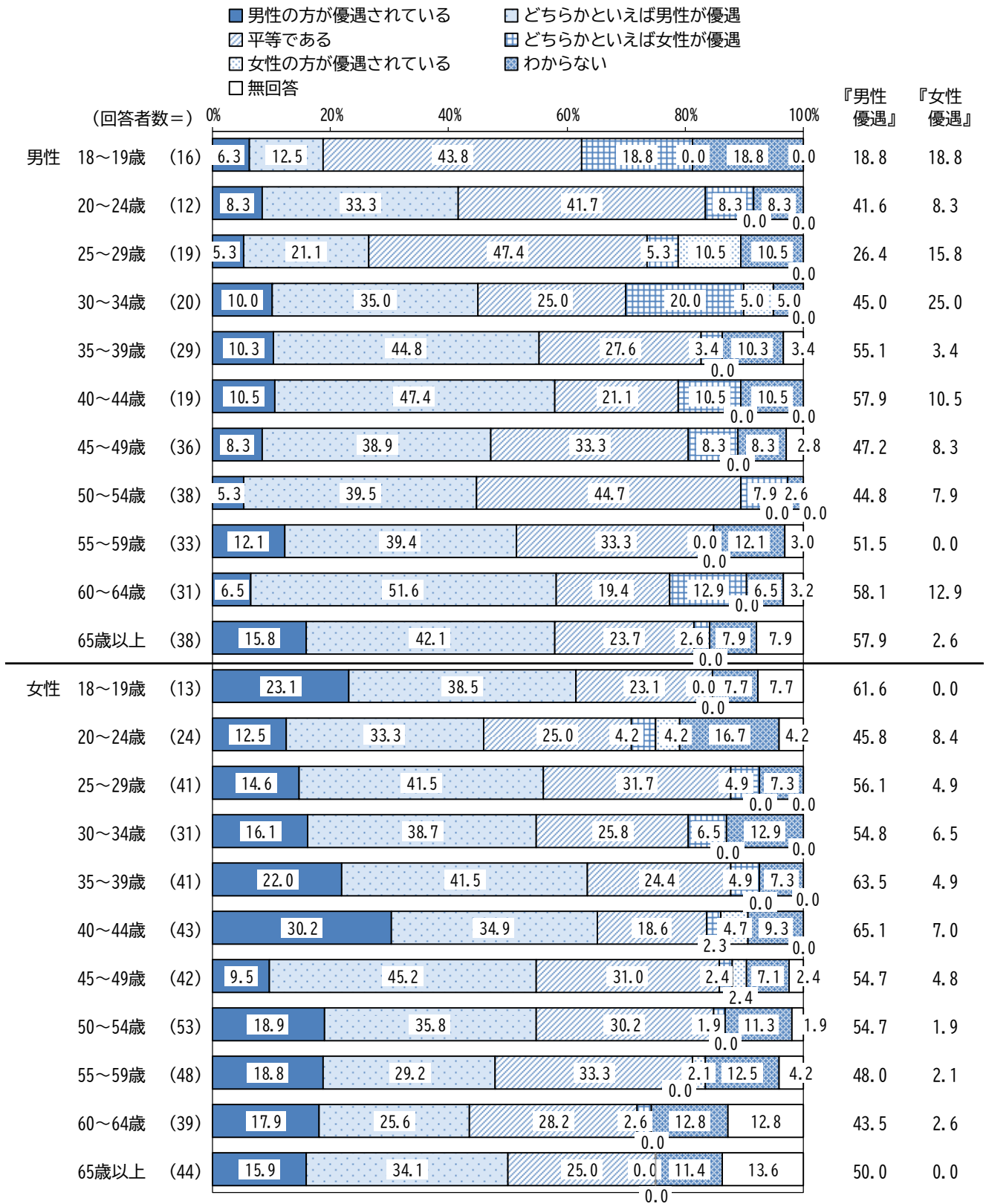
【性別】

「男性の方が優遇されている」は女性の方が高く、『男性優遇』は男性48.1%、女性54.1%となっています。



【性・年齢別】

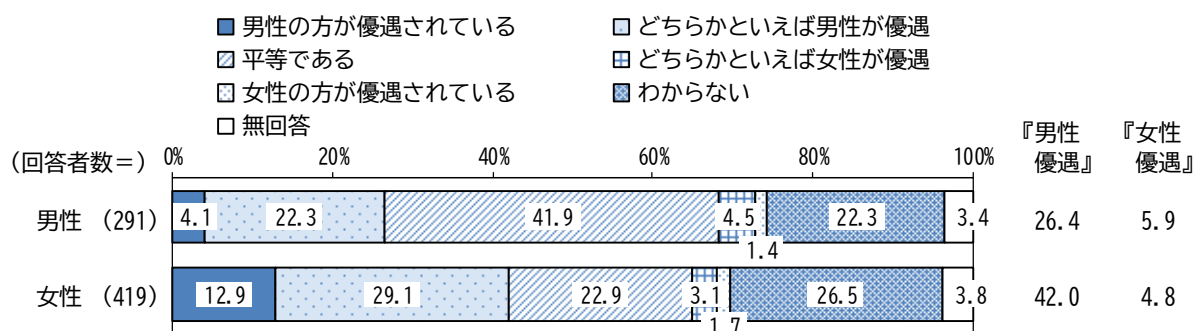
「男性の方が優遇されている」は、女性40～44歳では約3割、女性18～19歳、35～39歳でも2割台と高くなっています。『男性優遇』は男女とも35～39歳、40～44歳で高くなっており、対して『女性優遇』は男性30～34歳で2割を超えます。



④地域活動（自治会・防災会など）

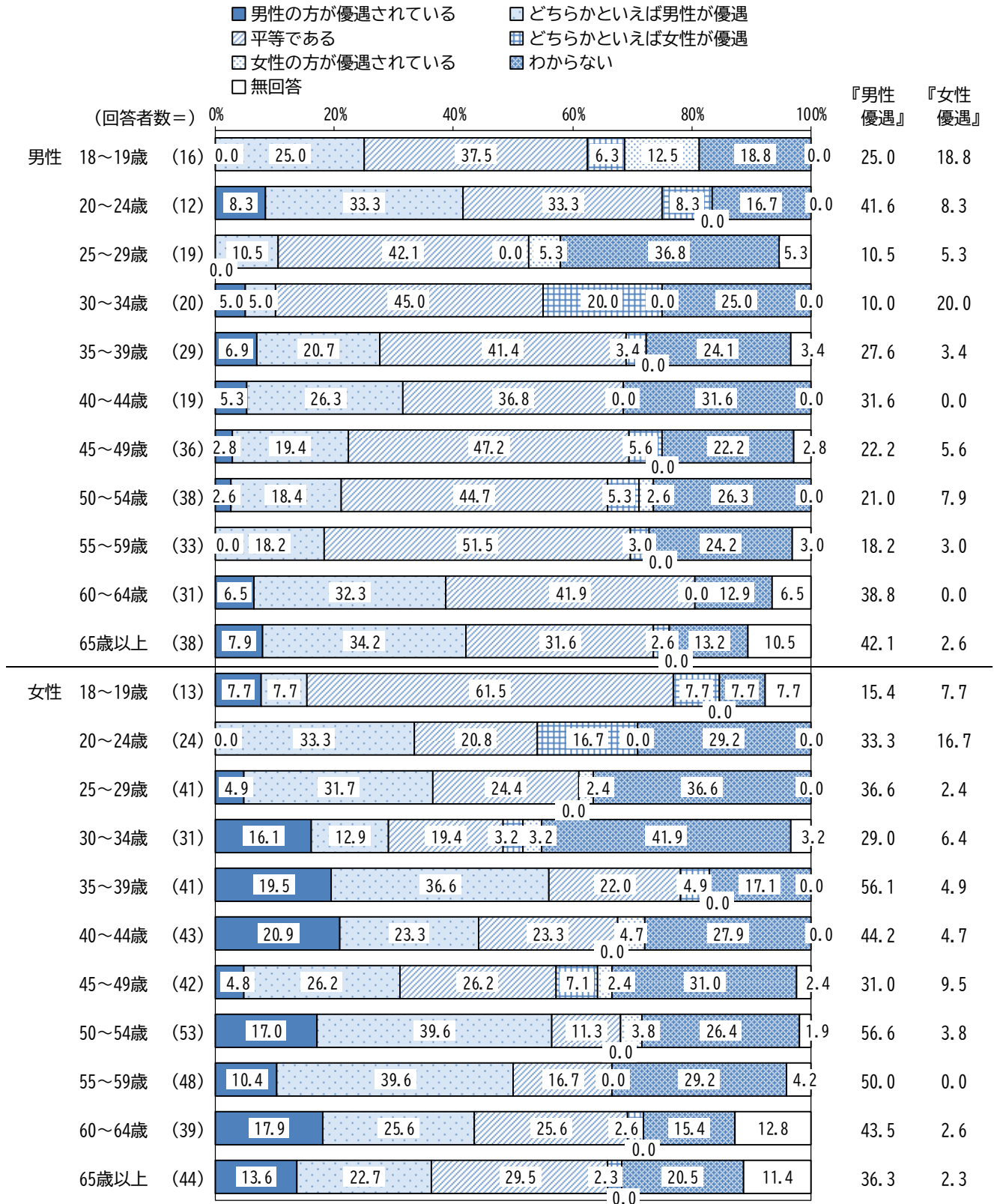
【性別】

「男性の方が優遇されている」は女性12.9%と高く、『男性優遇』の割合は女性が男性を大きく上回ります。一方、男性は「平等である」が最も高くなっています。



【性・年齢別】

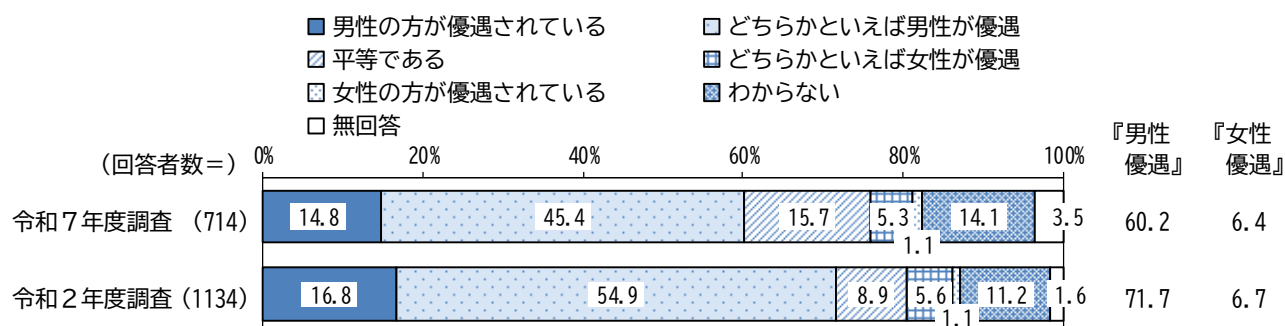
「男性の方が優遇されている」は、女性の30～34歳から40～44歳、50～54歳以上で高く、『男性優遇』は女性35～39歳、50～54歳、55～59歳で5割を超えます。男性30～34歳のみ、『女性優遇』が『男性優遇』を上回り、男性は65歳以上を除いて「平等である」割合が最も高くなっています。



⑤社会全体

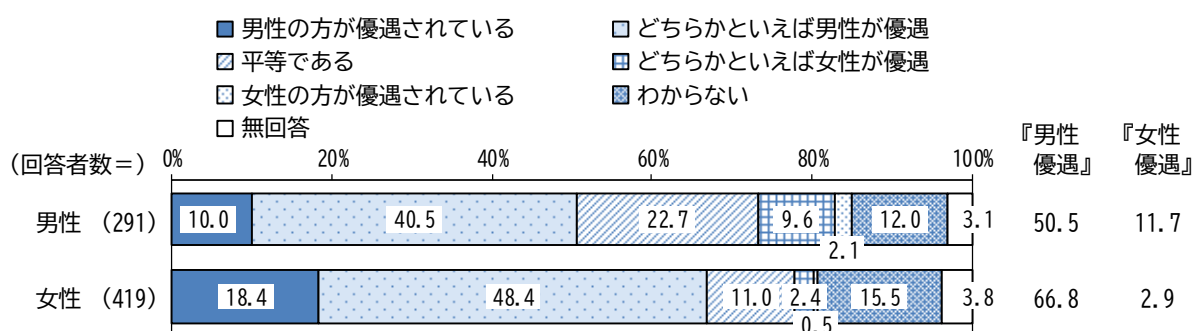
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性が優遇」が減り、『男性優遇』の割合は低くなっています。



【性別】

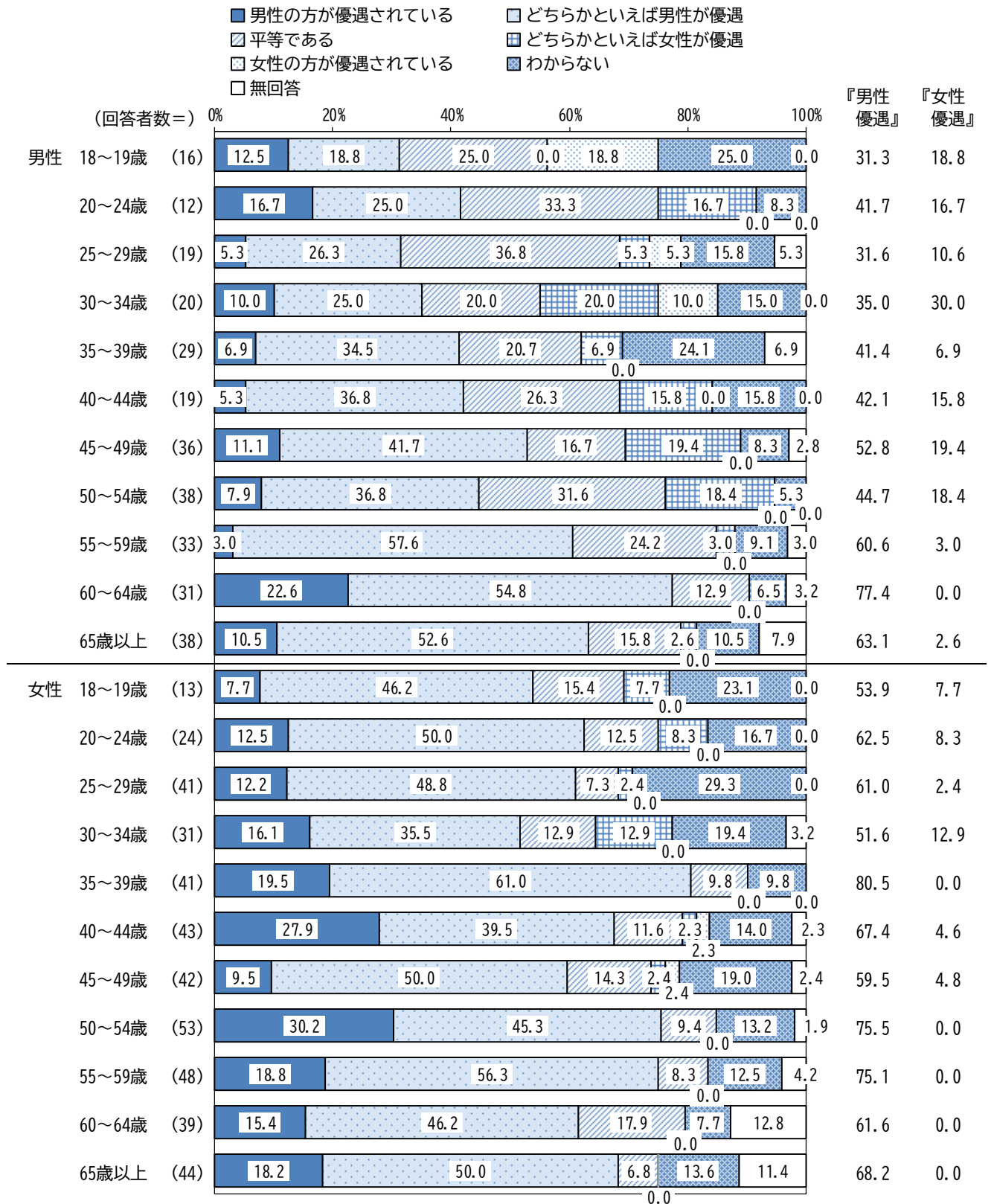
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇」ともに女性が男性を上回り、『男性優遇』の割合は、女性が大きく上回っています。対して『女性優遇』は男性が女性を上回ります。



【性・年齢別】

「男性の方が優遇されている」は女性50～54歳で約3割、男性60～64歳、女性40～44歳で2割台であり、『男性優遇』は女性35～39歳で約8割、男性60～64歳、女性50～54歳、55～59歳で7割台と高くなっています。

「平等である」は男性に多く、18～19歳から55～59歳までで2、3割となっていますが、女性では2割を超える年齢はありません。



問28 必ずしも男女平等でなくても良いと感じることがあればご記入ください

必ずしも男女平等でなくても良いと感じることを訊ねたところ、212件の意見がありました。「身体的・生物学的な性差」が58件、「仕事・職業」が54件、「性別の違い」が37件、「出産・育児」が21件、「社会的な役割」が17件、「その他」が25年となっています。
以下に主な意見を記載します。

【身体的・生物学的な性差】

回答内容	性別	年齢
スポーツなどどうしても生物学的に差が出てしまうもの。	女性	18～19歳
力の差が生じるもの	女性	20～24歳
男女の体力差が関係してくるところ。	男性	25～29歳
身体的、生物学的に明らかな違いがはっせいするもの。	女性	25～29歳
男女の生まれもった体格差や筋肉量、本能など、平等にしようがないものについてまで、平等をうたうのはちがうと思う。	女性	30～34歳
体のつくり、脳、ホルモンバランス、体力などなど、能力に差は男女である。平等ではない所はある。全て平等が正しいとは思わない。	女性	35～39歳
力仕事等の身体的に差が出る仕事もあるので、その部分については平等でなくても良いと感じる。	男性	35～39歳
持っている能力に対して平等であれば良いと思う（能力を伸ばす機会は平等であるべきと思う）。男性も女性も必ず同じ負担である必要はないと思う。例えば何かの身体的能力が求められる時は、男性が適していれば男性が担えば良いと思う。	女性	40～44歳
性別に特有なこと。例えば男性の方が体力や筋力があるため力仕事は男性に多めにやってもらうなど。また、学校での養護教諭は、女性の生理のことなどもあるため女性が多くなる方が良いと思う。	女性	40～44歳
力仕事や背の高さなど、どうしても不可能なことなどもあるので、完全平等は難しいと思う。→むしろ、それも個性では…。	女性	45～49歳
体格など生まれながらにある違いは超えられないので、作業内容によっては男女を指定してもいいと思う。配慮だと思います。	男性	45～49歳
体の性差は存在するものだから、身体的特性や能力に関するものはあっても良い（重いものは男性が持ってあげる等）	女性	50～54歳
そもそもの男性と女性の体力的な違いによることなど。例えば、重い物を持たせる作業を男女平等だからと女性にも強要するなど。	男性	50～54歳
筋力に関わる事柄は生物学的に平等にはなり得ないと思う	女性	50～54歳
立場や条件は平等であっても身体的な条件（体力など）が重視される警察官、自衛官、消防士等は男性優位であってもよいと感じる。	女性	55～59歳

女性と男性には身体的、体力的に違いがあるので、体を使う労働ではある程度配慮が必要だと思います。	女性	55～59歳
体力的な違いで、女性には困難なこと、仕事など、その点でも男性と女性はもともと違うのだから、平等でなくても良いこともいろいろあると思います。	女性	60～64歳
体力的（身体的）にどうしても男女差は出るので、職場で差が出るのは仕方ない	男性	60～64歳
体力的な違いがあるので職業全てが平等というのはムリがある。（特性）力仕事はやはり男性が向いているし、細かい作業の多い保育士は女性が向いていると思う。	女性	65歳以上
体力差とか性差があると思うので、男女それぞれの違いを理解したうえで、それぞれの得意とする分野で協力しあえれば良いと思います。	女性	65歳以上

【性別の違い】

回答内容	性別	年齢
身体能力や知能などが求められる仕事に関しては単に能力で選別した方が良いと思う	男性	18～19歳
消防団など、火災現場で対応できるのは男のように、「適材適所」の考えで良い。	男性	20～24歳
働き方。女性は、体的ハンデがある。男性はないので男はもっと働くべき。育児もすべき	女性	20～24歳
力が要る作業。男性でも体力的に自信のない人は配慮されるべき。生理に関連する欠席。レディファーストの文化。	女性	25～29歳
仕事（キャリア含め）。女性は妊娠・出産時にどうしても仕事を休む期間があるから男性優遇されるのは仕方ないと思うし、個人としてはすぐに復帰するよりも子育てに専念したい女性も多いと思うから。	女性	30～34歳
女性が望んでいないのにリーダーに無理にさせようとしなくていいと思うし、男性でもやりたくない人にやらせるのはよくない。チカラの差はどうしても身体的に差があるので力仕事を男性中心でやったり、得意なことをやるのは構わないと思う。	女性	30～34歳
力仕事等、どうしても男女の差が出るようなことは無理に男女平等である必要はないと考えます。	男性	30～34歳
仕事に関しては、もはや男女平等以前に、能力の問題かと思います。	女性	40～44歳
家庭内では分担されていればどちらが主夫、婦でもいいですね。	女性	55～59歳
例えば、個人の能力的特（個性）に則して作業を分配して、結果的に男女不均等になっても問題ない。結果ではなく、そこに至るまでの考え方・手順の問題である。	男性	55～59歳

職業による。特に医者（救命医・外科医）、警察官、自衛官、介護職等、専門性を必要とし、体力的、精神的にも負担のかかる場合、介護については、特に「下の世話」が必要となった時、高齢でも女性は女性にやってもらいたいと思う。	女性	60～64歳
男女それぞれ得意な分野があると思う。力仕事などは男性が向くし、看護や介護、保育などは女性に向く。	女性	65歳以上

【性別の違い】

回答内容	性別	年齢
男性女性の区別、学校での男女での体育での分けなどは差別ではないと感じる。	男性	18～19歳
男女混合の食事の際の会計、スタジアムでの男子、女子トイレの数	男性	18～19歳
身体の能力的にどちらかの方が優れている時は、得意な方がやるべきだと思う。しかし、男だから、とか女だからという理由ではじめから否定するのは違う。	女性	18～19歳
男女で得意不得意は分かれる物の、基本的に平等となる様にすべき。その先は個人判断する範囲。	男性	30～34歳
トイレの数は差があっても良いかも（個室の数）	女性	30～34歳
人間の性の違いによってそれぞれに起こる体の不調等を慮ることについてフォローすること	男性	30～34歳
性差が関わることに對してまで平等にしなくてもいいと感じる。	男性	35～39歳
男女の性の違いからの特性はある。すべての個にあてはまるわけではないが、特性はいかしていくべきだと思う。	男性	35～39歳
男女能力差はどうしてもあると思うので平等がそもそも無理をしているのでは	女性	35～39歳
体のつくり自体が違うので、それぞれの特性を生かすものはそのままがいいと思う。	女性	35～39歳
そもそも男と女で違うものなので無理に平等とする必要はないが、違うなりに近付けるサポートが必要である。	女性	35～39歳
男性に有利に出来ること、女性でしか出来ないこともあるので、完全な平等は難しいように思うので、お互いに違う部分、得意な部分など、違いをプラスに助け合う事が出来ればいいですね。	女性	45～49歳
男性の方が向いている事、女性の方が向いている事をそれぞれ有ると思うので、必ずしも平等である必要は無いと思います。	女性	50～54歳
性の違いによる根本的な能力差のある所	男性	60～64歳
性差があるものや、それぞれの特性を活かすものは必ずしも平等でなくてよいと思う。	女性	60～64歳

生まれながらの男女のホルモンバランスや脳中の思考システムがある。それをお互いに感じる事が第一かな〜と…。人として、自分の考えをそれぞれに動く、話す、理解（聞く力）必要か？	男性	60～64歳
性差による能力の違いを無視した法律・行政の対応がおかしい。	男性	60～64歳
平等であるべきだが、それぞれの特性を活かすべき。男らしさ、女らしさは良い	男性	65歳以上

【出産・育児】

回答内容	性別	年齢
育児	男性	20～24歳
女性が子育てなどある場合は女性の社会参画は必ずしも平等でなくていいと思う	女性	25～29歳
家庭内においてはそれぞれベストの形があると思うので平等でなくてよいと思います。私の場合は家事、育児が好きなので、働いていない現状にあまり不満はないし、夫もそこまで手伝わなくていいと思っています。	女性	35～39歳
身体的機能が違うため、妊娠・出産・育児にともなって仕事に変化するの仕方ないと思う。しかし育児や仕事は男女共に協力が必要。平等でなくても良いというよりは平等というのが難しいと感じる。	女性	35～39歳
子供を産めるか産めないかの身体機能の差ははっきり区別すべき。例えば妊娠出産前後の女性が無理に外に出て働く必要はない。（配偶者の収入のみで生活できる社会環境が必要）	男性	35～39歳
女の人が笑って過ごせるのであればいいと思う。子育てしたいのに男の人の給料が下がっているから働かざるをえなくて、小さい子をかかえ働いている友達が多く世知辛さを感じる。専業主婦が多かった時代のほうが子供は多かった。	女性	40～44歳
生理・妊娠・出産に関しては男女平等はあり得ないかと。	女性	40～44歳
仕事において、妊娠や出産が重なったとき、平等には出来ないと思う。困っている人、身体の不自由な人に優しくするように、妊婦にも優しさをもってほしい。	女性	45～49歳
結婚、出産の適齢期は、仕事/キャリアではなく、プライベートをある程度優先しないと、晩婚化、少子化が進んでしまう。	男性	45～49歳
女性は出産等もあるので、子育て、出産に関しては優遇した方がよい。	男性	50～54歳
生理休暇などは女性は取っても良いと思うし、妊娠中の女性は体調に考慮してもらったりは必要だと思います。	女性	50～54歳
男女の性、身体の違い（女性の妊娠、出産、子育てにかかる、どうし	女性	55～59歳

ても男性より多くなる負担) による女性への優しい制度は必要。		
育児。男性は母乳で授乳できないし、女性の方が赤ちゃんの育児は適性があるから。	男性	55～59 歳
出産という行為自体、男性には出来ない事なので、出産に伴う社会生活上の違いそのものは生じる。平等という言葉で無理に同じ立場を強調すると、かえって女性に無理をさせてしまう。	男性	60～64 歳

【社会的な役割】

回答内容	性別	年齢
男性、女性、それぞれの特性が正しく活かされれば必ず平等にしなくても良いと考える。	女性	20～24 歳
役員やリーダーなどは、今時男の人が消極的であったり、意欲や能力で判断される事が多いので、やりたい人がやれば良いと思う	女性	20～24 歳
リーダーなどの男女比、適性のある人間が参画しやすければ良い。	女性	25～29 歳
得意なことだけそっちで活躍し、苦手な分野は助けてもらう。男女は関係ないと思う。	女性	35～39 歳
専門知識がいる。リーダーシップがとれる、は出来る人がやれば良いと思う。	女性	45～49 歳
社会のありさま。	男性	45～49 歳
それぞれの役割を尊重すれば無理に平等に固執する必要はないと思います	男性	50～54 歳
地域活動は、広い範囲で、体力的にも負担が女性には大きくなりがちだと想定すると、副責任者など、サブ的な位置で増やし、活動中の家族からの理解と本人が継続しやすい取り組み方法の整備	女性	50～54 歳
地元地域の風習	男性	50～54 歳
役職者の女性比率を%化表現は不要。1人1人の長所が社会貢献出来る社会であれば、男女平等という言葉が不必要になる。	男性	60～64 歳
何でも平等だと、今の社会でも女性の方が負担が大きい。	男性	60～64 歳

【その他】

回答内容	性別	年齢
女性割合を増やすこと的手段と目的を誤ってはいけない。	男性	18～19 歳
それぞれの性別の長所と短所と向き合い、公平や平等でなく、『尊重しあう』社会を築くべき。	男性	18～19 歳

体力差やそれぞれがそれぞれの特性を尊重し合ってお互いに得意不得意など相手を想って守り合えばいいなと思う	女性	25～29歳
長所が伸ばせない。	男性	30～34歳
男女でくくるのではなく、一人一人に寄り添ってその人が何に適しているのかを考える必要がある。	男性	35～39歳
何でも男女平等を強要する必要はないと思う	女性	35～39歳
何をもって平等と判断するのかが人によって異なるので回答できない	男性	45～49歳
男女平等というより、出来る事、出来ない事がある。	男性	50～54歳
「平等」の定義があいまい。やりたい人、できる人がやればいいことを、「男女平等」のもとにできない人にやらせるのは違うと思う	男性	50～54歳
性別よりも能力重視	男性	50～54歳
あらゆる事を男女平等とし、画一的にとらえるのは少し乱暴だと感じる。	男性	55～59歳
差別と区別が混同されている様に感じる事がある	男性	60～64歳
男女の性別は関係なく、それぞれ適正や、得意不得意があるので、単に男女として分けなくてもよい	女性	65歳以上

問29 日常生活、職場や学校、あるいは政治や経済分野などにおいて男性又は女性の方が優遇されていると感じることがあればご記入ください

男性又は女性の方が優遇されていると感じることを訊ねたところ、166件の意見がありました。そのうち「男性が優遇」が86件、「女性が優遇」が50件、「その他」が30年となっています。

以下に「男性が優遇」、「女性が優遇」主な意見を記載します。

【男性が優遇】

回答内容	性別	年齢
職場、政治、経済界においては男性が優遇されていると考える。平等と言っておきながら男性優遇の出来レース的なことが行われている。	男性	18～19歳
女性の方がキャリアをあきらめなきゃいけない可能性が高いが、男性はキャリアチャンスが多い所。	女性	20～24歳
女性は子供を産むために休みを取るから、一生まとまった休みをとらなくてもやっていける男性の方が仕事も採用されやすいと思う。	女性	25～29歳
親戚の集まりでのお茶出しの習慣、夫婦選択的別姓にいつまでもならない。職種によって男女の差がある。	女性	25～29歳
仕事等で男性が優遇されていた記憶が未だに残り、その男性が男性を優先してしまっているのだと感じることがある。	女性	25～29歳
性被害など、精神的、肉体的苦痛をとまなう犯罪に対する罰則の軽さ。生理痛のつらさを、男性とつらくない女性に理解してもらうきっかけを企業や地域活動などでつくってほしい。	女性	30～34歳
政治や経済に関してはまだまだ男性優位。妊娠したら中絶しても助成金が出たり、少子化対策とはまとはずれに感じたり、政治家の考え方はまだ古く、男性優位と感じる。	女性	35～39歳
家庭においては、母が子を育てる…父は仕事というイメージはぬけていないと思う。フルではたらいて子育てもするのは体力的にも精神的にもきびしいです。	女性	40～44歳
共働きの家庭が増えているが、子育ては女性の方が多く担っている人が多い印象。子どもが体調不良の時に対応することは母親の方が多い。女性の方が子育てや家事をするのが当たり前という考えはまだ強いと思う。	女性	40～44歳
結局、子育ては、母親がほとんどやっていると思う。働いてないからという理由は少しわかるが、男性同様に働いている女性が、どれほど大変な思いをしているのか、知ってほしい。	女性	45～49歳
世帯主というだけで全てにおいて夫の承諾なしに手続きもできない。	女性	50～54歳
「普通」「前例がない」「今までずっとこうしてきた」等、世間の風	女性	50～54歳

潮を新しい物に変える意見を出す時に（女性が）、男性の反対一言で決まる世の中		
政治や経済分野、会社等で役職等上層部はどうしても男性が優遇されている。女性が上層部で活躍できるよう教育とチャンスが必要。育児が終わってからも女性の可能性が伸びるようシステムが必要。	女性	55～59歳
男女平等がうたわれてから30年以上たつが、男性優位の歴史が長く、まだまだ参画には時間がかかると感じる。	女性	55～59歳
決定事項は全て男性だけで話し合っている。女性は口出し出来ない。それに忖度する女性も多い。	女性	55～59歳
圧倒的に男性優位なのは政治家であると思う。家事や育児を家族任せにし、昭和の価値観（男尊女卑）をいつまでもアップデート出来ない事や特権に慣れたことで庶民の生活が理解できず、働き方を間違えている人が一定数いると感じている。	女性	55～59歳
職場での昇進機会に、男性が優遇されていると感じることがある。	男性	60～64歳
仕事において、出産による影響が無い男性が有利になっている。女性の場合、無理をするか、出産をあきらめない限り、男性と同じ労働時間を確保出来ない。	男性	60～64歳
自治会など、男性がという雰囲気が高中年に多いと思う。	男性	65歳以上

【女性が優遇】

回答内容	性別	年齢
自分に経験はありませんが、離婚後の子供の親権に関しては母親に優遇というか、利点があるように感じています。	男性	18～19歳
女性が子どものことで休みやすい。	男性	20～24歳
男性に対しては、多少強い言葉を使っても良いという雰囲気を感じることもある。	男性	25～29歳
今は、女性を無下にはしてはいけないという風潮が強すぎて、その人の能力に関係なく女性というだけで重要なポジションに就いたり、意見が通りやすいような気がします。	女性	25～29歳
育休の取りやすさは、女性の方に分があると感じる	男性	30～34歳
レディースデイや女性特別料金などサービス価格において男性より優遇されているのは感じます。（正規雇用と非正規雇用の割合で比較的給与水準が低い非正規雇用が女性の方が多いのかもしれませんが…）	男性	30～34歳
女性の社会進出という意識が先歩きして、何事も女性優先の雰囲気を感じる	男性	30～34歳
日常生活において女性が特権的につよい面が多い（性の違いがあるのは理解している）	男性	35～39歳

女性専用車両、女性だけ個室のような取組、レディースデイのようなサービス	男性	35～39歳
日本社会は女性の方がいろいろな制度を受けられて優遇していると思います	女性	35～39歳
育児休暇などはまだ男性はとりにくいと感じます	女性	35～39歳
育休取得については、男性も増えているが1ヶ月程度と短い印象。女性は長く取得できている。（収入面から男性は早く復帰している場合も多いと思う）	女性	40～44歳
レディースデイ、レディースランチ、レディファースト、結婚相談所の会費/食事の割り勘	男性	45～49歳
女性専用車両はあるのになんで男性専用車両ってないの？とか優遇されているようで、男性からしたら不こうへい感じてないのかと思う。	女性	45～49歳
職場では、女性の施設（部屋、トイレ等）が優遇されている	男性	45～49歳
男女平等の名の下に過度に女性優遇を進めて歪みが出てないか懸念がある	男性	50～54歳
女性の社会進出を増やす、女性管理者を増やすという大義名分のもと、女性だからという理由だけで昇進をさせるような事は、女性優遇だと思う。	男性	50～54歳
電車の「女性専用車両」や、公共施設での子育て支援サービスなどは女性を主対象に整備されており、男性が利用しづらい雰囲気がある。	男性	65歳以上

9 自由意見

(1) 性別に関する意識や考え方に関する意見

回答内容	性別	年齢
身体的な違い（筋肉量的）による男女の区別と差別を混同しないでほしい。	女性	35～39歳
男女平等社会を目指して制度等を変えるのも必要ですが、根本的に男性、女性に対するあり方の意識を変えていかなければ特に家庭での不平等はなかなか無くならないと思います。 そのために、学校教育はもちろん、大人に対しても意識改革をしていかなければならないと思います。	女性	35～39歳
男性、女性よりはそれぞれの特性、能力を生かせる事が大事だと。男性にしか出来ない、女性にしか出来ない事もあるとは思いますが。	女性	45～49歳
男女問題については政治が介入しないほうがよい。平等に教育を受けられていれば肉体による性差のみ補助するべき。	男性	45～49歳
大人の意識が変わらなければ、子どもも変わらないと思っています。指導する側の意識や知識で大きく異なってしまうこともあるので、難しいことだと感じます。	男性	45～49歳
男性も料理をするのが当たり前の社会になって欲しいです	女性	45～49歳
男女差別は良くないですが、そもそも男女は違うものなので、相互理解と協力でうまくいくようにするべきです。	女性	50～54歳
女は男に良く見られたくて胸を大きくしたり、自分の体を変えたりしてまでも男のためにしている。そんな事をしているかぎりびようどうになるなんてない。	女性	60～64歳
あきらかに「差」「違いがある」ことと「差別」との違いを理解して、「差」「違い」を生かすことを社会全体、個人が進めるべき（例「男性」「女性」）	男性	65歳以上
生物学的に異なる以上、区別は必要だと思う。それが差別にならないよう、どうするのか。	男性	65歳以上

(2) 男女共同参画社会に関する意見

回答内容	性別	年齢
「平等」と「公平」は両立できないので、そこは注意してほしい。	男性	18～19歳
男女を同じ土俵に立たせるのではなく、それぞれの性別や個性に適した環境を作ること、互いの尊重すべき特徴を理解し歩み寄ることができると思います。	男性	18～19歳
市役所で市民の目に見えるように、男女共同を行うべき。	男性	20～24歳
男女だけでなく、歳や上下関係の問題も多くあると思います。改善まで至れずともそういった事も認知してほしいです。	女性	20～24歳
問11の②の内容は文字で見ただけでも非常に苦痛に感じました。この設問がある以上男女平等の未来はないんじゃないでしょうか？	女性	25～29歳
必要以上の平等は必要なし。	女性	30～34歳
本当はまだ保育園に子供をいれたいくなかったという友人が多いので、男女平等や共働きが当たり前の風潮になっているが子育てに専念したい、共働きをしないで済むような価値観があることも認知して欲しい。	女性	30～34歳
「女性を特別に優遇するべき」だとは思いません。「全ての人それぞれ個人の能力を十分に発揮し正当な評価を得て活躍できる社会になること」が真の男女平等だと考えています。体力差や妊娠・出産などで、男性と女性では仕事への関わり方も異なるから、そこはしかたないと思います。女性が仕事で能力を発揮できるように家族が支えたり、育児負担を減らせるような行政からの支援があるといいと思います。	女性	35～39歳
モラハラ気質の男性が多い。家事、育児は共働きであれば協力すべきだと思います。私は仕事をしていて、家事すべてをやっているので自然と協力してほしいと思います。	女性	35～39歳
個を大切に、みんなが相手を思い行動できたなら幸せな社会になるのではないかな。	女性	35～39歳
性別だけではなく個人の特性を尊重していくのが大事だと思います。男女平等にとらわれて、リーダーの数を同じにすべきではないと思います。	女性	35～39歳
能力があれば男女関係ない。能力が無いのに、女性の働き方改革とかいって女性をリーダーにしたり、役職をつけたりすることがおかしい。逆に男性が差別または苦勞する	男性	35～39歳
家事、育児について女性の方が、キレイに適切に出来るのかもしれないが、男性側の意見、やり方などを真っ向から否定し、自分のやり方	男性	40～44歳

を押し付けたりしないで欲しい。お互いのやり方を尊重し合えれば男性の家事、育児の参加率も上がると思う。		
多様性は絶対の善ではない。我が国の治安が良いのは多様性にとぼしい面がプラスに作用している点は大きいと感じる。「住む」を考えると、もっとも重視したいのは治安である。	男性	40～44 歳
家事、育児、介護、もう令和なのだから、夫婦で協力するのがあたり前の世の中になってほしい。女性がやることになってると誰も結婚しないと思う。だから子供もうまれない。	女性	45～49 歳
まだまだまだまだ男女差はありますね。	女性	45～49 歳
むずかしい課題ではあるが、無知から来る、被害だけでも減ることを祈ります。	女性	50～54 歳
男女差は古い世代の話です。昭和のオヤジのみ	男性	50～54 歳
無能で傲慢な男、いらぬ。ヒステリックでずうずうしい女、いらぬ。逆もしかり。有能な人が、それなりに評価されてほしいものです。（男性、女性関係なく）どちらの性別が優遇されているといった様な事を、有能な人から聞いた事がない（男、女ともに）。こういった事を言うヒマがあったら、有能な人はもっと違う行動で、自分の価値をあげてますからネエ。	男性	50～54 歳
男女出来ること出来ないことが有るので無理に男女平等を進めなくても良いと思うが男女平等をみんなに意識させるのは良いと思う	男性	50～54 歳
女性が政治の世界などで頑張っていると応援したくなります。まだまだ少ないですね、日本は。男女も大切ですが、若い方と御高れいの方の比率も考えて欲しいです。	女性	55～59 歳
女性自身の立場向上の意識が低いと感じる。主体的な事は男性が行うものと意識している女性が大半	男性	55～59 歳
性別は、生物学的にも男と女しか無いのだから、自分の趣味嗜好の変態のために、子供達を巻き込むな!!男女共同参画なる言葉で多様性とかバカげた教育は不要。多様性とか、何周遅れですか！ 市民はバカじゃないよ！ 無駄に税金（血税）使うな	男性	55～59 歳
男女と云う性では無く、個々の特質をいかし、発揮できる社会で有ってもらいたい	女性	60～64 歳
男女差に意識する必要のない社会になってほしい。	男性	60～64 歳
こうした取り組みはとても良いと思う。	男性	60～64 歳
男女共同参画を向上させるには、女性より男性の意識改革をした方が良い。「家庭では父親」。その基本は小さい頃からの教育が大事でしょうか。	女性	65 歳以上
役割分担から、男女共に、専業主夫主婦の選択はあるべき	男性	65 歳以上

(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する意見

回答内容	性別	年齢
私は男性パートナーと同棲していますが、お互い仕事が忙しく、この状況で出産、育児できる自信がありません。私は女ですが彼がもっと稼いでいれば私は仕事したくないです。男は仕事、女は育児に専念できる環境を作ってほしいです。女性みんなが働きたい訳ではないです。	女性	25～29 歳
今は子育て・介護の負担はありませんが、それぞれに今後自体が生じた際に「働きながら共立」できる支援の拡大があると大変助かります。	女性	45～49 歳
ワーキングマザーの疲労は蓄積の一途を辿っている。仕事をしながら、脳内で行われる情報処理の多さがその一因だろう。工作中なのだからもちろん仕事の情報整理、段取り確認。同時並行で今夜の献立をきめると、帰宅途中の買い物の最短ルートの確認、買い物内容、冷蔵庫の中身の消費期限準の把握、子供の塾の時間に間に合う動きのシミュレーションなど多岐にわたる。市議会や国会で少子化について真剣に話し合っている男性議員さんたちは想像もつかない脳内の動きではないかと思う。これをほぼ毎日すべてのワーキングマザーが行っているかぎり、もう子供は産めない…となるのは仕方ないと思われる。	女性	45～49 歳
少子化問題を解決することが日本の一番の課題と思います。子供にかかわる仕事を通じ、若い親子さんのサポートの一助になりたいと思います。私の頃は金銭的に夫だけの収入で生活でき専業主婦、子育て専念でしたが、今は自己実現の為という目的で働く女性も増えていますが、やはり金銭的問題が大きいのかなと思うので、そこを解決できる豊かな日本になるといいですね。	女性	55～59 歳
共働き世帯が増え、男性も家事、育児に関わるようになってきたとはいえ、まだまだ女性への負担が大きいように感じます。女性の働き方だけでなく、男性の働き方も考え変えていかなくてはならないと思います。	女性	55～59 歳
産休、育休で里帰りしてきた娘、孫の世話で仕事を休むしかなくなる。祖父母にも産休育休支援に対しての休暇が欲しい。	女性	60～64 歳

(4) 女性の就業・雇用に関する意見

回答内容	性別	年齢
育児には社会の協力が不可欠なので、まずは保育園や幼稚園の規定を変えることや職場で受けている不当な扱いに耳を傾けて解決策を見出してほしいと思います。	女性	25～29歳
男性主体の社会や会社の中には女性の能力を見出す力が足りないと思うと共に、女性自身、今まで以上に積極的に（恥ずかしがらず、面倒がらず）社会や地域に進出する意気込みをもって欲しいと思います。	男性	65歳以上

(5) 行政及び市の施策等に関する意見

回答内容	性別	年齢
多様性やLGBTQ、ジェンダーなどの話題を取り上げ、こうしたアンケート等で動いてくださることに感謝いたします。ありがとうございました。	女性	20～24歳
外国人政策が推奨されているが、治安の悪さが不安	男性	25～29歳
取手市は、男女平等よりも税金や高齢化問題などやるべき課題が多いと思うのでそちらに力を入れて欲しいです。	男性	30～34歳
取手市が皆の生活しやすい市になって欲しいです。（まず、市の活性化により若年層を増やして欲しい。）	女性	30～34歳
取手はもう少し子供に、子育て世代に目を向けてほしいです	女性	35～39歳
男女平等より子育て支援にもっと力を入れてほしいです。	女性	40～44歳
アンケートをするのならその結果を参考にして市としてどういうことに役立てて市民に還元しているのかPDCAサイクルを明確化してもらいたいです、期待しています。頑張ってください	男性	50～54歳

(6) 地域社会・まちづくりに関するご意見

回答内容	性別	年齢
男女平等への意識も大切ですが、地域コミュニティ情報の広報についてSNSや町内会等で行ってほしいです。あったとしても、どれも高齢者向けが多く、参加の意欲が湧きません。	男性	30～34歳
取手に来てから幾つかの地域活動に参加しましたが、どこに行っても年配男性にばかりちらされ、年配女性はそれに服従する姿を見て来たので全てやめました。（取手は年配男性しかいませんよね。）	女性	55～59歳
人とのつながりの第一はあいさつと思いを表しています	男性	60～64歳

(7) 其他のご意見

回答内容	性別	年齢
今後もこのアンケートを続けていただきたいです。	女性	25～29 歳
本アンケートの回答を、最初はネットでしようと思ったが、選択肢の文章が全て見えない設問があった。	男性	25～29 歳
一人では書けなかったところ、市役所の職員さんが手伝ってくれました。僕は障害者なのでとても助かりました。親切に接していただけ嬉しかったです。	男性	30～34 歳
常総線取手駅ホームにエレベーターがなくて、ベビーカー利用するときにごく不便で困っています。乗り換えが便利になるようにエレベーターを作してほしいです。	男性	35～39 歳
学校の校則が古すぎる。時代にあってない。	男性	45～49 歳
いち（一）市民として、貴重な経験をありがとうございました！	男性	45～49 歳
結婚後も旧姓が使えるらよいと思うが、夫婦別姓でなくてもよい。マイナンバーカードを提示すれば、旧姓がそのまま使えるとかで充分です。	女性	45～49 歳
子育て支援金や子供手当など、子供に使うためのお金も夫が渡してくれません。婚姻はデメリットしかない。どうにかしてください。	女性	50～54 歳
小さな声の1つでしかありませんが、書かせて頂きありがとうございました。「変化に気づいてもらえる取手市」になってほしいです。	女性	50～54 歳
今回のアンケートは無作為抽出法によると記載されていますが、これだけの量、内容であるならば具体的にどのような方法で抽出したのか提示があってもいいのではと感じた。	女性	55～59 歳
生き甲斐があれば少しは良くなるかも知れない。	男性	55～59 歳
あいまいさ、ファジーの良さもある	男性	65 歳以上